

昭島市教育委員会の事務事業
に関する点検及び評価報告書
(令和2年度分)

令和3年9月

昭島市教育委員会

目 次

	ページ
はじめに	1
第1章 昭島市総合教育会議	
1 昭島市教育に関する大綱	2
第2章 教育委員会の組織及び活動状況	
1 教育委員会の構成	4
2 教育委員会事務事業を主管する組織	4
3 教育委員会の会議における審議内容一覧	
（1）総合教育会議（企画政策課所管）	6
（2）定例会	6
（3）臨時会	10
4 教育委員会委員の主な活動	11
5 教育委員会委員の研修	13
第3章 主要施策の点検及び評価	
プラン1 確かな学力の定着	
主要施策 1 学習指導要領の確実な定着	14
主要施策 2 理数教育の充実	21
主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成	22
主要施策 4 個に応じた支援の充実	25
プラン2 豊かな心の醸成	
主要施策 1 人権教育の推進	31
主要施策 2 道徳教育の充実	33
主要施策 3 体験活動の充実	35
主要施策 4 いじめ問題への対応	37
プラン3 健やかな体の育成	
主要施策 1 体力向上の推進	40
主要施策 2 学校給食・食育の充実	44
主要施策 3 学校保健安全の推進	48
プラン4 輝く未来に向かって	
主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実	51
主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実	53
主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上	55
主要施策 4 学校運営の改善	57
主要施策 5 教育環境の整備	59
主要施策 6 情報教育の推進	61
主要施策 7 環境教育の推進	63
主要施策 8 国際理解教育の推進	64
主要施策 9 キャリア教育の推進	67
プラン5 生涯学習の推進	
主要施策 1 生涯学習	69
主要施策 2 図書館活動	73
主要施策 3 文化・芸術	77
主要施策 4 スポーツ・レクリエーション	79
主要施策 5 文化財	83
第4章 令和2年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」 の調査結果	86
第5章 令和2年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれ に対する実績について	104
第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見	142

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め説明責任を果たすため、毎年、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、公表することが義務付けられています。

平成27年4月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、教育委員会制度、そして教育行政の在り方が大きく変化しています。

昭島市教育委員会では、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成27年度から、新たな教育活動の推進に向けた、『第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度から平成32年度）』※を策定しました。この計画に基づく教育施策及び事業について、学識経験を有する方の知見を活用し、点検評価を行いました。

この報告書において課題とされた事項について、更に検討を加え、学校教育、生涯学習の充実に努めてまいります。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、第3次昭島市教育振興基本計画の策定期間を1年間延伸したことにより、現行の計画を1年間延伸し、令和3年度までとしました。

令和3年9月

昭島市教育委員会

第1章 昭島市総合教育会議

1 昭島市教育に関する大綱

第五次基本構想における、まちづくりの理念である「人間尊重」と「環境との共生」のもと、本市の教育に関する大綱を次のとおり定めます。

- 市民憲章と人間尊重の精神を基調とした教育を推進します。
- 子どもたちが常に心身ともに健康で生きがいを持ち、創造性に富み、社会の一員としての自覚を有し、人間性豊かな市民として成長することを目指し、その実現に努めます。
- 学校教育においては、学校、家庭、地域の密接な連携のもと、子どもたちが生涯を通して未来社会の変化に対応できるよう自主的精神を培い、国際的視野を持ち、健全で豊かな心をはぐくみ、個性を生かすための教育を推進します。
- 社会教育においては、地域の文化、教育、スポーツ活動を通して市民誰もが、あらゆる機会に、生きる喜び、学ぶ楽しさを得られ、生涯にわたって主体的に学び続けることができ、市民相互と地域のつながりを育てていく生涯学習社会の実現を目指します。
- 子どもから高齢者までが生涯にわたっていきいきと学習できる環境の充実を図り、もって豊かな文化の創造とふるさと昭島を愛する心を育て、且ついのちの大切さや環境との共生を考え、ひろく国際社会に貢献できる人材の育成を図ります。

基本方針

【学校教育】

基本方針1 確かな学力の定着

- 1 学習指導要領の確実な定着
- 2 理数教育の充実
- 3 読書活動の推進と言語能力の育成
- 4 個に応じた支援の充実

基本方針2 豊かな心の醸成

- 1 人権教育の推進
- 2 道徳教育の充実
- 3 体験活動の充実
- 4 いじめ問題への対応

基本方針3 健やかな体の育成

- 1 体力向上の推進
- 2 学校給食・食育の充実
- 3 学校保健安全の推進

基本方針4 輝く未来に向かって

- 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実
- 2 日本の伝統文化教育の充実
- 3 家庭・地域の教育力の向上
- 4 学校運営の改善
- 5 教育環境の整備
- 6 情報教育の推進
- 7 環境教育の推進
- 8 国際理解教育の推進
- 9 キャリア教育の推進

【生涯学習】

基本方針1 生涯学習

- 1 生涯学習推進体制の整備
- 2 生涯学習の推進
- 3 公民館活動の充実

基本方針2 図書館活動

- 1 図書館サービスの充実
- 2 図書館資料の充実
- 3 子ども読書活動の支援
- 4 サービス網の整備

基本方針3 文化・芸術

- 1 市民文化の育成
- 2 自主的な活動の支援
- 3 文化芸術に関する意識の高揚
- 4 文化芸術に接する機会の拡充
- 5 文化芸術を担う人材の育成

基本方針4 スポーツ・レクリエーション

- 1 スポーツ振興計画の推進
- 2 スポーツライフの形成
- 3 スポーツ・レクリエーションの基盤整備

基本方針5 文化財

- 1 文化財の保護・保存
- 2 文化財の活用

第2章 教育委員会の組織及び活動状況

1 教育委員会の構成

※ 令和3年3月31日現在

職名	氏名	任期期間	期数
教育長	山下秀男	平成31年4月1日から 令和4年3月31日まで	1期
委員 (教育長職務代理)	紅林由紀子	平成29年6月24日から 令和3年6月23日まで	5期
委員	石川隆俊	平成30年12月25日から 令和4年12月24日まで	5期
委員	氏井初枝	令和2年4月1日から 令和6年3月31日まで	2期
委員	白川宗昭	平成31年4月8日から 令和5年4月7日まで	2期

2 教育委員会事務事業を主管する組織

教育委員会

部	課	係	主な分掌事務
学校教育部	庶務課	庶務係	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会の会議に関すること。 条例、規則及び規程に関すること。 予算及び経理に関すること。 事務局及び課内庶務に関すること等
		施設係	<ul style="list-style-type: none"> 教育施設の建設計画に関すること。 教育施設の設置、管理及び廃止の手續きに関すること。 教育施設の新営工事及び維持修繕工事に関すること。 教育施設関係の補助金に関すること等
	指導課	学務係	<ul style="list-style-type: none"> 学齢児童及び学齢生徒の就学並びに児童生徒及び幼児の入学、転学及び退学に関すること。 通学区域に関すること。 学級編制に関すること。 児童及び生徒に係る就学奨励に関すること等
		教職員係	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の任免の内申その他人事に関すること。 教職員の服務に関すること。 教職員の給与、旅費、退職手当等に関すること。 教職員の福利厚生に関すること等
		指導係	<ul style="list-style-type: none"> 指導事務予算に関すること。 教育計画事業の推進に関すること。 教科書採択に関すること。 教育振興基金に関すること等
		特別支援教育係	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の推進に関すること。 教育相談及び適応指導に関すること。 就学、転学等の相談に関すること。 巡回相談に関すること等
		指導主事	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程編成、実施に関すること。 教育施策の企画、実施に関すること。 校内研究等、教職員の研修に関すること。 学校教育に関する専門的事項の指導に関すること。

部	課	係	主な分掌事務
学校教育部	学校給食課	庶務係	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の計画に関すること。 ・配送に関すること。 ・学校給食運営審議会に関すること。 ・業者登録に関すること等
		収納係	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食費に関すること。 ・給食物資の支払いに関すること。
		共同給食係	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食共同調理場において調理される学校給食に係る次の事務に関すること。 (1) 献立に関すること。 (2) 調理に関すること。 (3) 食品の管理に関すること。 (4) 衛生管理に関すること等
		給食施設整備担当	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の施設整備に関すること。
生涯学習部	社会教育課	社会教育係	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育及び生涯学習の総合調整に関すること。 ・社会教育及び生涯学習に係る行政相談に関すること。 ・社会教育関係団体の育成及び援助に関すること等
		文化財係	<ul style="list-style-type: none"> ・市史及び文化財の保護、調査に関すること。 ・郷土資料室の管理運営に関すること。
	スポーツ振興課	スポーツ振興係	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進委員に関すること。 ・生涯スポーツの推進に関すること。 ・関係団体との連携及び協働に関すること。 ・スポーツの指導者の研修に関すること。 ・総合スポーツセンターの管理及び運営に関すること等
	市民図書館管理課	管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理業務の評価・モニタリングに関すること ・図書の購入及び廃棄の決定に関すること。 ・学校等市内関係機関及び団体との連携調整に関すること。 ・図書館協議会に関すること。
	市民会館・公民館	管理係	<ul style="list-style-type: none"> ・市民会館・公民館の施設及び設備の維持管理に関すること。 ・市民会館・公民館の利用承認並びに使用料の徴収、付属設備等の使用料の免除及び還付に関すること。 ・市民会館・公民館の庶務に関すること。 ・市民会館の自主文化事業に関すること等
		事業係	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館運営審議会の処務に関すること。 ・各対象別、課題別講座等の開設に関すること。 ・討論会、展示会、音楽会、美術展その他の集会に関すること。 ・公民館事業に係る情報収集及び提供に関すること等

3 教育委員会の会議における審議内容一覧

(1) 総合教育会議（企画政策課所管）

会議名 (開催日)	議 題
第1回（令和3年3月24日） 傍聴者3名	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想の実現に向けた課題について ・生涯学習環境のデジタル化における課題について

(2) 定例会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第4回 (書面開催)	議 案	な し
	協議事項	な し
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則 ・昭島市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令 ・令和2年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・令和2年度昭島市立学校教職員異動の概要について ・令和2年度昭島市立小・中学校学級編制の状況について ・令和元年度指定学校変更・区域外就学の処理状況について ・令和3年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択方法について ・令和元年度就学支援の状況について ・昭島市学校臨時休業対策費補助金交付要綱について ・昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について ・令和2年第1回昭島市議会定例会代表質問及び一般質問 ＜教育委員会関係＞について ・昭島市教育委員会事務局職員の人事異動について ・昭島市スポーツ推進委員だより「Enjoy!スポーツ!!」 について
第5回 (令和2年 5月21日) 傍聴者3名	議 案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について ・令和2年度昭島市青少年教育協力者感謝状被贈呈者について ・昭島市学校給食費会計規則の一部を改正する規則
	協議事項	な し

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第5回 (令和2年 5月21日) 傍聴者3名	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について ・令和2年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）について ・昭島市就学支援委員会委員の委嘱について ・昭島市転学・入級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市難聴・言語障害通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・新型コロナウイルス感染症予防に向けた学校教育部の対応について ・新型コロナウイルス感染症予防に向けた生涯学習部の対応について
第6回 (6月12日) 傍聴者5名	議案	なし
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する学識経験者の委嘱について ・昭島市立学校職員の兼業等及び教育公務員の教育に関する兼職等に関する事務取扱規程の一部を改正する訓令 ・昭島市立学校等教職員出勤簿管理規程の一部を改正する訓令 ・新型コロナウイルス感染症予防に向けた学校再開後の対応について ・公共施設の利用再開について ・アキシマエンス等の再開について ・昭島市議会令和2年第2回定例会の日程について
第7回 (7月17日) 傍聴者8名	議案	・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度昭島市一般会計補正予算〈教育委員会関係〉について ・令和元年度昭島市学校給食費会計決算報告について ・昭島市民会館文化事業協会補助金交付要綱の一部改正について ・その他2件
第8回 (8月6日) 傍聴者44名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・市立やまのかみ会館の空調設備改修工事に伴う休館について ・その他3件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第9回 (9月4日) 傍聴者6名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について ・昭島市社会教育委員の委嘱について ・昭島市公民館運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書（令和元年度分）について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について ・昭島市立中学校給食の親子調理方式移行に係る学校施設周辺住民への説明について ・1月の社会教育関係行事について ・スポーツ施設の修繕等について ・令和元年度昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する指定管理者モニタリング・評価結果報告書について ・その他2件
第10回 (10月25日) 傍聴者5名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市奨学金等支給条例に基づく奨学生の決定について（非公開） ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市文化財保護審議会委員の委嘱について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度昭島市一般会計第5号・第6号補正予算＜教育委員会関係＞について ・第三次昭島市教育振興基本計画等の策定について ・令和2年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の実施について ・昭島市教育委員会就学援助費支給要綱の一部改正について ・昭島市立学校等におけるパワーハラスメントの防止に関する要綱について ・昭島市新型コロナウイルス感染症対策バス借上料補助金交付要綱について ・その他7件
第11回 (11月19日) 傍聴者10名	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市立学校における教育課程編成基準について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食共同調理場（第一調理室）の業務委託について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市立中学校学校薬剤師の委嘱について ・昭島市修学旅行キャンセル料等補助金交付要綱の制定について ・「昭島市学校給食運営基本計画（改訂版）」（案）に関するパブリックコメントの実施について ・その他3件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第12回 (12月17日) 傍聴者6名	議 案	な し
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度昭島市立学校卒業式における告辞及び令和3年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度校長職選考、教育管理職選考、4級職選考、主任選考結果について（非公開） ・教育委員と市立小中学校長との情報交換会について ・昭島市教職員の職務に専念する義務の免除に関する事務取扱規程の一部を改正する訓令について ・昭島市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について ・令和2年度昭島市学校給食費会計上半期報告について ・昭島市民文化祭補助金交付要綱の制定について ・その他3件
第1回 (令和3年 1月21日) 傍聴者5名	議 案	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市立学校校長等の任用に関する内申について（非公開） ・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度昭島市立学校卒業式における告辞及び令和3年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について ・昭島市いじめ防止対策推進基本方針の改正について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果について ・中学校における特別支援教室の設置について ・第67回昭島市成人式の実施結果について ・東中神駅南口駅前ロータリーにおける移動図書館車もくせい号の運行について ・その他3件
第2回 (2月18日) 傍聴者7名	議 案	な し
	協議事項	な し
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度教育施策推進の基本的考え方について ・昭島市実施計画（令和3年度～令和4年度）（改定版）＜教育委員会関係＞について ・令和元年度昭島市立学校におけるいじめ、不登校、暴力行為の状況について ・「昭島市スタートカリキュラム スタートブック」について ・昭島市特別支援教育就学奨励費支給要綱の一部改正について ・「昭島市学校給食運営基本計画（素案）」に係るパブリックコメントの結果について ・昭島市民球場ネーミングライツ・パートナーの継続について ・多摩川緑地くじら運動公園水泳プール（市民プール）の劣化度調査について ・その他5件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第3回 (3月24日) 傍聴者6名	議 案	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・令和3年度昭島市立学校の教育課程の受理について ・昭島市立学校職員労働安全衛生管理規程協議事項
	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市学校給食運営基本計画(改訂版)について
	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度昭島市一般会計予算<教育委員会関係>について ・令和3年度予算編成に対する昭島市議会各会派からの要望等<教育委員会関係>について ・令和3年度昭島市立学校校長・副校長等の一覧について(非公開) ・令和2年度昭島市立中学校における進路決定の状況について ・昭島市立小中学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について ・昭島市学校給食共同調理場調理業務委託事業者の決定について ・令和3年度昭島市学校給食費会計予算について ・昭島市スポーツ団体補助金交付要綱の制定について ・その他4件

(3) 臨時会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第3回 (4月1日)	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市公立小中学校における令和2年度新学期の対応について
第4回 (4月7日)	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う学校対応について
第5回 (4月27日)	協議事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度 再開に向けた学校の対応について
第6回 (7月3日)	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昭島市立中学校生徒の自死に関し第三者委員会による調査を求める申入れについて
第7回 (11月3日)	報告事項	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務事故について

4 教育委員会委員の主な活動

事業名	実施日	場所
校長、副校長辞令伝達式	令和2年 4月1日	市役所203会議室
昭島市教育委員会表彰式（令和元年度第2回）	4月5日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
小学校入学式	4月6日	各小学校 （※縮小開催により来賓出席せず）
中学校入学式	4月7日	各中学校 （※縮小開催により来賓出席せず）
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	4月15日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
東京都教育施策連絡会	4月21日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会	4月22日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
教育委員会学校訪問	5月21日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会	5月28日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
昭島市租税教育推進協議会定期協議会	5月30日	市役所301会議室
東京都市教育長会研修会	7月22日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会及び 第1回理事研修会	8月25日	東京自治会館
昭島市立公立中学校PTA協議会総会	8月31日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
第66回昭島市民体育大会開会式	9月8日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
「未来をひらく」発表会	9月12日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止 （※12月に表彰式のみ実施）
小学校音楽鑑賞教室	9月16日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
昭島市立公立小学校PTA協議会総会	9月18日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止（書面開催）
昭島市民文化祭	10月13日～ 11月3日	KOTORIホール・公民館 （※新型コロナウイルス感染拡大防 止のため中止）
市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル 2020	10月14日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
教育委員会学校訪問	10月15日	多摩辺中学校
昭島市教育委員会表彰式（令和2年度第1回）	11月3日	市民ホール
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修 会	11月6日	立川市女性総合センター・アイム
小学校音楽会	11月6日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
昭島市教育懇談会	11月8日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
2020青少年フェスティバル	11月22日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
令和3年昭島市まちづくり新年賀詞交歓会	令和3年 1月9日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止
第66回新春駅伝競走大会	1月10日	新型コロナウイルス感染症拡大防止 対策のため中止

事業名	実施日	場所
第67回成人式	1月11日	フォレスト・イン昭和館
東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会	1月15日	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止（書面開催）
特別支援学級合同学習発表会	1月16日	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
第60回新春たこあげ大会	1月17日	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
市立小中学校長との情報交換会	1月21日	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
小学校展覧会	1月22日～ 24日	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会	1月22日	オンライン開催
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月9日	オンライン開催
第9回昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会	3月	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
中学校卒業式	3月18日	各中学校 （※縮小開催により来賓出席せず）
小学校卒業式	3月25日	各小学校 （※縮小開催により来賓出席せず）

5 教育委員会委員の研修

事業名	実施日	場所	内容
関東甲信越静市町村教育委員会連合会研修会	令和2年 5月28日	太田市民会館 (群馬県太田市)	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
東京都市教育長会研修会	7月22日	東京自治会館	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事研修会	8月25日	東京自治会館	演題 「東京都が求める教員像」 講師 東京都多摩教育事務所 指導課長 岡部 君夫 氏
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	11月6日	立川市女性総合センター・ AIM	講演 「ハンセン病について」 講師 国立ハンセン病資料館事業部 社会啓発課長 大高俊一郎 氏
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事研修会	令和3年 1月15日	東京自治会館	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止
東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会	1月22日	(オンライン 開催)	テーマ「子どもたちが世界を変える～アウトプットの大切さ」 ・仲田小学校児童によるプレゼンテーション～ ・プレゼンテーションに至る経緯について 子どもが教える学校 校長 鈴木深雪氏 ・日野市の学校教育について 日野市教育部参事 谷川 拓也 氏
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月9日	(オンライン 開催)	演題 「新型コロナウイルス感染症の現状と対策～学校現場での取り組みについて～」 講師 東京都医師会副会長 角田外科消化器科医院院長 角田 徹 氏

第3章 主要施策の点検及び評価

第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度～32年度実施）

- プラン1 確かな学力の定着
- プラン2 豊かな心の醸成
- プラン3 健やかな体の育成
- プラン4 輝く未来に向かって
- プラン5 生涯学習の推進

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 1 学習指導要領の確実な定着

子ども一人一人に学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、子どもの学習意欲の向上や学習規律の確立を図ることは重要です。また、子どもの特性や習熟の程度に応じた学習集団を編成したり、指導体制や指導方法を工夫したりするなど、個に応じた教育を推進することは大切です。

そのためには、小学校4年生から中学校3年生で実施する学力調査の結果を分析し、その結果から「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的改善を図らなければなりません。

また、それらの目的を達成するために、教職員は常に研究と修養に努め、その指導力を高めることが求められています。

【施策の取組状況】

- (1) 教職員の指導力の向上
- (2) 授業改善の推進
- (3) 個に応じた指導の充実
- (4) 子どもの実態に合った教科用図書採択と副読本の作成
- (5) 教職員のサービスの充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	教職員の研修 の充実 【指導課】	主任・主幹教諭の研修、加えて副校長・校長の研修などについて、職層に応じた研修の実施やOJTの充実を図ります。	職層に応じて、4月に新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長を対象とした研修を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から校長・副校長研修は中止とし、新任主幹教諭、新任主任教諭研修は課題の提出による紙面開催としました。
1-(1)	若手教員の育成 【指導課】	初任者から3年次までの教員の指導力を育成するための研修を実施します。	初任者研修は、「教員が身に付けるべき4つの力の育成」を主なテーマに、年10回の研修を実施しました。2年次研修は、主に「学習指導力、生活指導力・進路指導力の育成」をテーマに、年3回の研修を実施しました。3年次研修は、主に「外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力の育成」をテーマに、年2回の研修を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施できなかった研修については、課題提出をすることで研修の代替としました。初任者研修は23人、2年次研修は27人、3年次研修は19人の教員が修了しました。
1-(1)	教育研究会 との連携 【指導課】	教育委員会は、教員が研究を行っている小学校教育研究会・中学校教育研究会と連携し、指導力の向上を図ります。	小学校教育研究会は年8回、中学校教育研究会は年7回の研究会を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、集合での研修を取りやめ、各学校等において指導力の向上を目指し、研鑽に励みました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	教育委員会研究 指定校制度の活用 【指導課】	様々な教育課題や施策推進に対しての研究を推進する学校を指定し、全校で共有し、教育活動を推進します。	東小学校が「新学習指導要領のねらいに沿った算数科指導の在り方」、田中小学校が「新学習指導要領における理科教育の在り方について（理論と実践）」の研究を行い、リーフレットを作成し、紙上発表しました。
1-(1)	教員における リーダー層の育成 【指導課】	校長・副校長への人材発掘をはじめ、有望な若手教員への研修への積極的なアプローチを行い、リーダー層を育成します。	主任教諭2年目以上の教員を対象とした学校マネジメント講座を実施し、ミドルリーダーとしての意識や役割、授業改善の方法について研修を行い、10名の教員が受講しました。
1-(2)	学力調査の実施 【指導課】	子どもの学力向上を図るために小学校4年生と中学校1年生で市独自の調査を実施します。また、国の調査を小学校6年生と中学校3年生で、都の調査を小学校5年生と中学校2年生で実施し、授業改善の指標とします。	全国学力・学習状況調査（小学校第6学年と中学校第3学年）、児童・生徒の学力向上を図るための調査（小学校第5学年と中学校第2学年）及び市学力調査（小学校第4学年と中学校第1学年）は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となりました。調査問題の授業中の活用等について、各学校に指導しました。
1-(2)	授業改善推進 プランの作成・活用 【指導課】	各学力調査の結果を学校ごとに分析し、「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的向上を図るとともに、子どもの学力の定着を図ります。	全小・中学校が全教科で授業改善推進プランを作成し指導に活かしました。また、指導課訪問等で指導主事が授業改善推進プランの実施状況の効果・確認等を行うとともに指導・助言を実施しました。
1-(2)	学力向上推進 委員会での研究 【指導課】	小・中学校の学力向上のための方策について検討し、推進する委員会を実施して、子どもに確かな学力を身に付けさせます。	学力向上に係る取組については、学校運営の中核を担う教務主任の役割が大きいことから、年6回の教務主任会において、教育課程の進行状況や授業改善について、各学校が発表し、協議を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(2)	学習規律の徹底 【指導課】	授業内容の定着をより図るために、子どもたちに学習に取り組む基準を示し、徹底を図ります。	小中一貫教育の取組として小中学校でまとめた学習規律について、教務主任会の分科会で実施状況を確認し、必要に応じて各学校で改善しました。
1-(3)	習熟度別指導等の実施 【指導課】	少人数習熟度別学習など、子どもの実態に合わせた指導を実施します。	小学校では、主に第3学年以上の算数、中学校では数学・英語において少人数習熟度別学習を実施しました。また、指導課職員及び指導主事が定期的に訪問し、指導内容・方法について、指導・助言を行いました。
1-(3)	東京ベーシック・ドリルの活用 【指導課】	小学校第4学年までに習得すべき基礎的・基本的な内容のドリルを活用し、一人一人の子どもに応じた指導を行います。	東京ベーシック・ドリルをデータで各小学校に配布し、各学校での活用を促しました。小学校の土曜日補習教室全体でも活用しました。
1-(3)	土曜日・放課後補習の実施 【指導課】	学校と教育委員会が連携して、土曜日や放課後等に子どもの学習状況に応じて補習を行い、確かな学力の定着を図ります。	全小・中学校等において、土曜日補習を延べ1,335時間、116名の指導員で実施しました。土曜日補習教室では、主任指導員・指導員による指導体制で基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りました。また、指導課主催で全中学校の生徒を対象とした英検対策講座を教育福祉総合センターにて4回実施しました。放課後補習は、延べ543時間、42名の指導員で実施しました。土曜日・放課後補習の1回あたりの平均参加児童・生徒数は約33名でした。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(4)	教科用図書の採択 【指導課】	昭島市の小・中学校で使用する教科用図書が子どもの実態に合ったものとなるよう選定資料を作成し、教育委員会で適正に採択します。	8月の定例教育委員会において採択を適正に実施しました。令和3年度から中学校では新学習指導要領全面実施のため、全教科の教科用図書について、新たに採択を実施しました。中学校の通常の学級で使用する教科用図書については、令和2年度に作成した教科書図書選定資料を基に採択を実施しました。また、特別支援学級で使用する教科用図書についても、採択を実施しました。
1-(4)	社会科副読本の編集・作成 【指導課】	昭島市のことについて学ぶ、「わたしたちの昭島市」を作成し、小学校3・4年生の社会科の学習で活用します。	「わたしたちの昭島市」1,003冊を市内第3学年児童に配布しました。また、次回改訂に備え、小学校社会科副読本作成委員会を1回開催し、内容の改善について検討しました。
1-(5)	子どもと触れ合う時間の確保 【指導課】	教員が子どもと触れ合う時間を確保するために、業務の効率化や削減を行います。また、ワーク・ライフ・バランスを考えた職場環境の充実に努めます。	授業準備等の補助をする学級事務補助支援員として、スクール・サポート・スタッフを全小・中学校に配置しました。
1-(5)	教職員のサービスの徹底 【指導課】	体罰の根絶など、教職員のサービス事故防止に向けた研修を実施し、サービスの徹底を図ります。	全小・中学校において年2回以上の全教職員悉皆のサービス事故防止研修を実施し、サービスの徹底を図りました。校長会・副校長会において、都教委から情報提供のあったサービス事故報告件数や事例を周知し、サービス事故防止の啓発に努めました。

【主な課題】

(a) 教員の研修について

新学習指導要領に明記されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善について、1単位時間の授業において子どもたちの振り返りの時間を必ず確保すること等について研修を深めることや、指導と評価の一体化の更なる徹底を図っていくことが今後も必要である。また、GIGAスクール構想の実現に向けて、タブレット型パソコンを活用した授業改善を推進していくことが必要である。

(b) 学校の働き方改革について

教員が時間をかけたいと考えている子どもとの触れ合い、教材研究の時間の確保及び教員の長時間勤務の解消のためにも学校の働き方改革は喫緊の課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 教員の研修について

今後も新学習指導要領の趣旨に基づいた内容を指導課主催の研修に取り入れていく。若手教員育成研修の内容を充実させるとともに主幹教諭任用時研修や主任教諭任用時研修等において研修内容に人材育成の観点を取り入れ、教員の資質向上を図る。

(b) 児童・生徒の学力向上について

教員の授業力向上が図れるように小学校（通常の学級）1校、中学校1校（通常の学級）をモデル校として、大学教授から助言を受けられる「授業力向上アドバイザー事業」を実施する。また、小・中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級にも大学准教授から指導・助言をいただく。更に、小学校の特別支援教室にも、大学講師から指導・助言をいただき、自立活動の授業力向上を図っていく。他校においても指導課訪問等において教員の授業力向上を焦点にした取組を進められるように指導・助言を行う。

学習の定着に課題のある児童・生徒の指導の充実については、今後も習熟度別少人数指導、学習支援員等を活用した個別指導、土曜日・放課後補習教室を有効活用しながら、学習内容の定着を図る。

(c) 学力調査の活用について

学力調査の結果等から、各教科の重点課題を一つに絞り、授業改善推進プランを作成する。授業改善推進プランに基づいた取組や学力向上に効果のあった取組について教務主任会で発表・協議し、各学校のレベルアップを図る。

学力調査の結果分析に基づいた確認問題集を引き続き作成し、各学校で活用していくよう教務主任会等で説明を行う。

(d) 学校の働き方改革について

「学校の働き方改革実施プラン」に基づき、教職員の心身の健康保持やライフ・ワーク・バランスの取れた生活を実現するとともに、教職員が子どもと向き合う時間を十分に確保し、学校教育活動の質の維持向上を図れるようにする。そのために、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等を積極的に活用して教員の業務軽減を図れるようにする。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 2 理数教育の充実

学術研究や科学技術の分野において、世界で活躍する人材を育成するためには、その土台である理数教育の充実を図る必要があります。科学に関する基礎的な素養を身に付けるとともに、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価して表現したり、帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用したりするなど、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導内容の充実を図ります。

また、観察・実験において子どもの学習意欲を高めるよう教員研修を実施します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2	理科実技実験研修の実施 【指導課】	小学校若手教員を対象に理科の実験に関する研修会を実施し、模擬授業を実践するとともに、実験の演習を通じて指導力の向上を図ります。	各学校の理科教育推進教員（若しくは推薦者）が東京都理科教育推進研修に参加し、校内のOJT研修で各教員に内容を伝達しました。
2	理数フロンティア事業 【指導課】	東京都から指定された理数フロンティア校における実践を市内小・中学校に広めるとともに、様々な教材を提供します。	平成26年度で東京都の理数フロンティア事業が終了し、理科教育カンファレンスに移行しました。

【主な課題】

(a) 理数教育について

子どもの理科離れを防ぐために、今後も教員が理科指導の能力を身に付ける必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 理数教育について

理科の観察や実験において、子どもの学習意欲を高めるように東京都教員研修センターで実施している教科等・教育課題研修の積極的な受講を促す。また、理科教育推進教員を全小学校に配置する。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成

各校で「学校図書館活用計画」を作成し、学校図書館担当教員、司書教諭、学校司書及びボランティアなどが連携し、子どもの読書活動を一層推進します。

また、学校図書館と市民図書館の連携を強化するとともに、子どもに読書活動を通して考える力や豊かな感性、情緒などを身に付けさせ、人間力の基礎となる「言語力」の育成を図ります。

東京都から指定された、言語能力向上拠点校を中心とした取組を、学力向上推進委員会を通じて広めます。

【施策の取組状況】

- (1) 読書活動の推進
- (2) 司書の専門性の活用
- (3) 言語能力の育成

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	全校一斉朝読書の実践 【指導課】	市内全校で朝読書を実施し、言語能力の向上を図るとともに、豊かな感性や思いやりの心をはぐくみます。	小学校は、学期毎に1週間程度、読書週間の取組の一環として実施しました。中学校は年間を通して、実施しました。
3-(1)	読み聞かせの実践 【指導課】	学級担任や上級生、ボランティア等による「読み聞かせ」を実施し、読書への関心を高めます。	全小学校で図書ボランティアや上級生が読み聞かせを行いました。
3-(1)	学校図書館の蔵書の充実 【庶務課】	子どもに親しまれる図書や調べ学習に役立つ図書資料の充実に努めます。	古い図書等の整理を行い、各学校の予算の範囲内で図書を購入しました。その結果、学校図書館図書標準に対する蔵書率は、全小・中学校で100%を超え、全体として小学校は147%、中学校は119%となりました。
3-(1)	学校図書館の利用促進 【指導課】	学校図書館の利用促進を図るための指導を行います。	読書活動全体計画、年間指導計画を作成し、国語、総合的な学習の時間、社会科等を中心に活用を促進しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(2)	学校司書の派遣と 図書ボランティア による活動の推進 【指導課】	学校司書を派遣し、学校図書館の充実を図ります。また、図書ボランティアの育成を図り、学校における読書活動を推進し、子どもの豊かな感性や情緒を身に付けさせるとともに、言語能力を育成します。	小中学校全小・中学校に司書教諭を配置し、各学校に司書資格のある支援員を年間 45 日派遣するとともに、図書ボランティアを活用して読書活動の充実を図りました。
3-(2)	学校図書館管理 システムの活用 【指導課】	学校図書館管理システムの活用を図り、子どもたちの読書傾向を分析し、図書購入の資料とするとともに、言語能力育成に生かします。	学校図書館管理システムから各分野の蔵書割合を算出し、バランスのとれた図書購入を行いました。読書活動でのお薦めの本の他に総合的な学習の時間や社会科等の調べ学習において必要な資料等、子どものニーズに合った本をそろえました。
3-(3)	言語能力向上 拠点校の取組 【指導課】	拠点校において、伝統的な言語文化の理解や社会生活に役立つ言語の技能及びコミュニケーション能力の育成についての研究に取り組み、その成果を広めます。	共成小学校が市の研究指定校として、「言葉の力で考えを深める児童の育成」について研究を行いました。共成小学校の研究成果も踏まえながら、今後も言語活動の充実を継続できるように指導・助言を行いました。
3-(3)	子どもの主張意見 文コンクールの 開催 【指導課】	「青少年とともにあゆむ都市宣言」に基づき、自分の思いを発表する意見文コンクールを開催します。	全小・中学校で取り組み、自己とのかかわりを見つめ、これからの昭島について考えたことを表現しました。応募数は 1,507 点。委員会を 2 回開催し、小中各 15 点の入選作品を選定しました。12 月に表彰式を開催し、32 名が参加しました。

【主な課題】

(a) 読書活動について

子どもの活字離れを防ぐためにも、学校における読書活動の充実が必要である。

(b) 学校図書館運営業務の財源の確保について

司書資格を持っている学校図書館支援員（委託業務）の配置日数を年45日としているが、今後も継続し、拡充するには財源の確保が課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 読書活動について

読書活動全体計画に基づき、国語の時間に加え、朝の時間・休み時間・放課後等の授業以外の時間を活用して、計画的に読書活動を充実させる。

(b) 学校図書館運営業務の財源の確保について

学校図書館支援員の配置日数について年45日を維持し、学校図書館運営業務を継続し、また拡充していくためには、財源の確保を検討していく。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 4 個に応じた支援の充実

発達障害を含めた特別な支援を必要とする子どもをトータルな面から支援する体制を整え、子どもの一人一人の教育ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習の困難を改善・克服するための特別支援教育を推進します。

また、不登校傾向にある子どもに適応指導教室における支援を行うことや、教育に関する悩みがある保護者が相談しやすいよう相談体制を充実します。

【施策の取組状況】

- (1) 特別支援教育の充実
- (2) 不登校への対応・適応指導の充実
- (3) 教育相談体制の充実
- (4) 就学援助等による支援

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	推進体制の整備 【指導課】	自閉症・情緒障害特別支援学級を開設し、子どもが必要としている支援に応じた教育を行います。	小学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」においては、大学の准教授や特別支援学校の特別支援教育コーディネーター、指導主事等が、中学校の自閉症・情緒障害特別支援学級の「清泉学級」においては、大学の准教授が、授業観察及び指導・助言を行い、児童・生徒一人一人の実態に応じた指導を目指した授業改善を行いました。
4-(1)	教育内容の充実 【指導課】	通級指導学級における教育課程や個別の教育支援計画の充実を図ります。また、交流や共同学習を実践します。	自閉症・情緒障害特別支援学級、情緒障害等通級指導学級担当教員及び特別支援教室巡回指導教員を対象とした情緒障害学級部会、知的障害特別支援学級担当教員を対象とした知的固定学級部会を年間各2回開催し、教育課程の内容の充実や授業研究等を通じた研修を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	人材の育成 【指導課】	すべての教員が特別支援教育に携わることから、研修を実施するとともに、教育内容を充実します。	「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」を250冊発行し、全教員に配布しました。各学校へ訪問し、全教員に対して、教室環境・学習環境・授業に関して具体的に指導しました。
4-(1)	特別支援教育関係機関との連携 【指導課】	エリア・ネットワークを活用し、都立あきる野学園などの関係機関との連携を図るとともに「居住地交流」や「副籍交流」を活性化し、特別支援教育を推進します。	「居住地交流」及び「副籍交流」については、関係機関と保護者等と協議し、児童・生徒の障害の程度に応じた交流及び共同学習を実施しました。
4-(1)	特別支援教育の啓発活動の推進 【指導課】	特別支援教育について多くの方に理解していただくために、説明会や研修会を定期的を実施します。	子ども育成課との共同開催で、市民を対象とした、発達障害の特性についての講演会を実施しました。参加者は延べ224名でした。
4-(1)	情緒障害等通級指導学級での指導の充実 【指導課】	情緒障害等通級指導学級に指導員を配置し、子どもへの指導を充実させるとともに、通級指導学級の担任が子どもの在籍校を巡回指導します。	情緒障害等通級指導学級に4人の指導員を配置しました。通級指導学級の担任は、学期始めを中心に在籍校の巡回指導を実施しました。
4-(1)	特別支援学級の開設 【指導課】	支援を必要とする子どもに対して、個に応じた指導が充実できるよう、特別支援学級を開設します。	令和元年度より富士見丘小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」を開設しました。全学年で20名の児童が在籍しています（令和2年4月1日現在）。
4-(2)	適応指導教室の指導体制と指導内容の充実 【指導課】	適応指導教室における指導体制と指導内容を充実し、不登校傾向にある子どもが学校復帰または社会的自立ができるよう支援します。	令和2年度より、「適応指導教室」の名称を「教育支援室」に変更しました。小学生11名、中学生17名が通室しました。通室児童・生徒に対して、個別指導を継続的に行い、学校復帰及び上級学校への進学、社会的自立を目指しました。（※適応指導教室児童・生徒在籍状況については〔表4〕のとおり）

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	学校と家庭の連携推進事業 【指導課】	不登校・いじめなどの生活指導の課題に対応するため、支援員を配置し、地域や学校の実態にあった取組を行います。	全小・中学校に学校と家庭の連携支援員を配置し、登校時の家庭訪問や登校後の子どもへの個別指導により、不登校傾向の子どもに支援を行いました。 (※児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題(不登校)に関する調査については〔表5〕のとおり)
4-(3)	適切な就学 【指導課】	子どもが適切な教育を受けることができるよう就学相談を実施します。	特別支援教育係が年間を通して、随時、就学相談を受け、円滑に就学支援委員会(年12回開催)につなげる体制をとりました。
4-(3)	スクールカウンセラーの配置 【指導課】	子どものみならず保護者の相談に応じるために、全校にスクールカウンセラーを配置します。	スクールカウンセラーを全小・中学校に配置し、子ども・保護者の相談に応じました。
4-(3)	スクールソーシャルワーカーの派遣 【指導課】	教育相談室にスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの様々な行動や保護者のもつ課題について関係諸機関との連携を図り、解消します。	スクールソーシャルワーカー3名を教育福祉総合センターに配置し、子どもや保護者の家庭にかかわるトラブルに、円滑に対応できる体制をとりました。関係機関とのケース会議に延べ34回出席して、支援を行いました。
4-(3)	教育相談研修・教育相談担当者会の実施 【指導課】	教員が教育相談の能力を身に付け、子どもとの関わり方を学ぶための研修を実施します。また、教育相談の担当者が集まり各学校の取組について情報交換を行います。	初任者及び希望者を対象に教育相談基礎研修を実施し、40名が受講しました。また、特別支援教育コーディネーター研修会において、教育相談における各学校の取組について情報交換を行いました。
4-(3)	教育相談室の充実 【指導課】 (特別支援教育係)	教育相談員のキャリアアップを図るとともに、相談体制をより整備し、教育相談の充実を図ります。	週1回、受理会議を実施し、相談の方向性について検討を行いました。(※教育相談室相談状況については〔表6〕のとおり)

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(3)	望ましい学級集団を形成するための調査の実施 【指導課】	学級集団への満足度についての調査を実施し、よりよい学校生活を送れるように支援します。	学級満足度調査を小学校第3学年～中学校第3学年で実施しました。臨床心理士が各学級の実施結果から、学級の状態や支援すべき子どもを把握して、各学級の担任にフィードバックし、学級経営の充実を図る体制を構築しました。
4-(4)	就学援助の実施 【指導課】	経済的な事情で教育費の支出が困難な家庭を対象として、就学に必要な費用を援助します。	小学生 941 名、中学生 496 名を対象に合計 9,067 万 1,447 円の援助を行いました。(就学援助率は小学校 16.8%、中学校で 19.9%) また、給付型奨学金制度から、高等学校等に入学予定の生徒 10 名に合計 60 万円の入学準備金と、昨年度までに採用された生徒 24 名に合計 261 万 8,5000 円の奨学金を支払いました。
4-(4)	特別支援教育 就学奨励の実施 【指導課】	子どもが特別支援学級に在籍する家庭を対象として、その就学の特殊性から経済的な負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助します。	小学生 36 名、中学生 23 名を対象に合計 241 万 4,583 円の援助を行いました。
4-(4)	日本語指導の実施 【指導課】	外国籍の児童・生徒や帰国子女に対して、日本語指導が必要な場合、日本語指導員を派遣します。	外国籍等の子ども 16 名に対して日本語指導員を派遣して、授業の補助を行いました。

[表 4]

〈教育支援室児童・生徒在籍状況〉 (人)

区分	小学校	中学校	合計
人数	11	17	28

〔表5〕

〈児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題（不登校）に関する調査〉

小学校	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
都出現率	0.52%	0.56%	0.74%	0.88%	未公表
市出現率	0.49%	0.51%	0.63%	0.63%	0.76%
不登校児童数	27人	28人	35人	35人	42人

中学校	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度
都出現率	3.60%	3.78%	4.33%	4.76%	未公表
市出現率	3.43%	3.27%	3.12%	3.74%	3.71%
不登校生徒数	89人	86人	80人	94人	91人

〔表6〕

〈教育相談室相談状況〉

(件)

相談内容	不登校	いじめ	交友関係	性格上の問題	情緒不安定	特別支援	進路相談	学校教育	家庭教育	その他	合計
相談件数	281	4	12	150	17	37	14	97	52	87	751

【主な課題】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級の担任だけでなく、通常の学級の担任も含め、特別支援教育に関する教員の専門性について、より一層向上させていく必要がある。

(b) 特別支援教育についての啓発活動について

特別支援教育に関わりの少ない保護者について、特別支援教育、特に発達障害について理解啓発活動を継続していく必要がある。

(c) 特別支援教室の開設について

小学校の特別支援教室の全面実施に伴い、過去5年の通級・通室児童数は増加傾向にあり、今後も個別指導計画に基づいた指導の充実が必要である。

〈情緒障害等通級指導学級・特別支援教室の通級・通室人数（小・中合計）〉

年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	令和2年度
人数	183人	215人	249人	237人	267人

(4月1日現在数)

(d) 不登校児童・生徒について

不登校の未然防止に向けて、楽しい学校づくり、分かりやすい授業づくりを進めていく必要がある。小学校低学年に不登校の兆候が表れている実態もあるため、傾向が見え始めた時点での早期対応について充実させる必要がある。家庭状況の複雑化や多様化に対応するため、関係機関との適切な連携を図る必要がある。

(e) 日本語指導の実施について

日本語の習得に支援が必要な子どもが増加傾向にあり、母国語も多様化していることから、より一層の充実を図る必要がある。また、日本語の習得に時間がかかることが多いため、日本語指導員の派遣期間を必要に応じて延ばす必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級担任教員を対象とした研修会について、授業研究を中心とした内容を今後も継続して実施する。冊子「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を継続して活用し、通常の学級における特別支援教育の推進を図る。

(b) 特別支援教育の啓発活動について

発達障害に関する市民向け説明会を継続して実施するとともに、特別支援教室での指導について学校だよりや保護者会、合同学習発表会の紙面紹介等を活用し、より一層特別支援教育への理解・啓発に努める。

(c) 特別支援教室の指導の充実について

特別支援教室の指導にあたっては、今年度の指導の成果を生かして一人一人の課題に応じた自立活動と教科の補充指導の充実を図っていく。また、特別支援教室専門員や巡回心理士を活用し、特別支援教室での指導の充実を図る。

(d) 不登校児童・生徒について

安心して登校できる学校づくりや、児童・生徒の関心を高めた楽しい授業の実現に向け、指導・助言を行う。欠席が続く児童・生徒に対しては、校内委員会等を活用して学校全体で把握し、SCやSSWとの連携を図ることで、組織的に対応できるようにする。

(e) 日本語指導の実施について

日本語指導員の指導時間を確保するために前年度より多くの予算を執行した。また、令和2年度からNPO法人の紹介を受け、多様な言語の日本語指導員を依頼することが出来ることとなったので、引き続き協力を得ていく。

また、日本語の理解を短期間で深めるため、学校だけでなく、保護者の協力を得て、家庭でも日本語の習得に取り組むよう働きかける。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 1 人権教育の推進

子ども一人一人が発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解する必要があります。自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下で具体的な態度や行動で示せることが大切であり、さらには、人権が尊重される社会づくりにつながるようになっています。

この目標を達成するために、学校の教育活動全体を通して人権教育に取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	人権教育の推進 【指導課】	あらゆる偏見や差別をなくすために、全教育活動を通じて人権教育を推進します。	教育課程編成の最重要課題に位置付け、教育活動全体を通して、全教職員で取り組みました。人権教育研修会や人権パネル展等は実施できませんでしたが、各小・中学校で「人権標語」の作成を行い、人権について考える機会を設けました。
1	人権教育推進委員会の開催 【指導課】	学校教育において、様々な人権課題を解決していくための実践について、研修を行います。	例年は、年に4回の研修を開催し、東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会や協議会に参加する機会を設定してきました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止となりました。
1	人権教育全体計画の作成と人権諸課題に関する指導の充実 【指導課】	小・中学校全校で「人権教育全体計画」及び「人権教育年間指導計画」を作成するとともに、人権教育推進委員会で情報を共有しながら、人権課題に関する計画的な指導を行います。	教育課程編成の際に、全体計画と年間指導計画を見直し、次年度の全体計画と年間指導計画を作成しました。

【主な課題】

(a) 人権教育推進委員会の開催について

人権教育推進委員会の取組を充実させることで、委員を通して各学校の教員全体の「人権課題」についての理解を深め、実践につなげていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 人権教育推進委員会の開催について

人権教育推進委員が研修で、具体的な事例や研究授業から学ぶ機会を増やし、学んだことを各学校で還元していくようにする。また、教員の人権感覚を高めるために、各学校において人権教育プログラムを活用した研修が効果的に行われるよう、指導・助言を行う。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 2 道徳教育の充実

子どもたちが、自他の生命を尊重し、法やルールの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できるよう、家庭、学校、地域社会の連携のもと、道徳教育の改善、充実を図ります。

各学校における道徳の時間を道徳教育の要の時間と位置づけ、各教科との密接な関連を図りながら、計画的、発展的に道徳的価値や人間としての生き方について自覚を深められるようにするとともに、道徳的実践力を育成します。

また、毎年度「道徳授業地区公開講座」を実施し、家庭や地域と連携して子どもたちの豊かな心を育成するとともに、道徳教育の一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 道徳授業の充実
- (2) 道徳教育の推進

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	道徳授業の充実 【指導課】	小・中学校における年間指導計画の検討を行い、道徳の時間を中心に全教育活動を通じて指導の充実を図ります。	全小・中学校、道徳教育の全体計画を見直し、35時間（小学校第1学年は34時間）の授業について、教科書に準拠した年間指導計画を作成しました。また、考え・議論する道徳の実現に向け、授業改善に取り組みました。
2-(1)	道徳授業地区公開講座の充実 【指導課】	道徳授業を保護者及び地域に公開し、家庭、学校、地域社会が連携して子どもたちの豊かな心を育成します。	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から例年のように保護者や地域の方の参加を求めることができなかったため、各学校で実施形態を工夫して取り組みました。
2-(2)	各教科等における道徳教育の推進 【指導課】	道徳教育推進教師を中心に、各学校において指導の重点項目を設定し、学習指導要領に基づき、各教科等における道徳教育を推進します。	教育課程編成時に今までの取組を踏まえて、各学校において指導の重点項目を設定しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	あいさつ運動 の実施 【指導課】	学校・保護者・地域が連携してあいさつ運動を実施することにより、子ども達を地域で育てる意識を醸成します。	あいさつ運動を各学校で年3回のふれあい月間の取組に位置付けました。

【主な課題】

- (a) 特別の教科 道徳について
「考え・議論する道徳」の実現に向け、各学校で授業改善を継続的に行っていく必要がある。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
保護者や地域の方々との意見交流会について、実施方法の検討や内容の充実に向けた工夫をする必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 特別の教科 道徳について
教務主任会等で「特別の教科 道徳」の充実に向けた研修を行っていく。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
東京都教育委員会が作成したビデオ資料などを活用し、子ども達の道徳性を高めていくために身近な大人としてどのようなことをしていくとよいのか考える。その中で、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、一緒に子どもを育てていくことを共通理解する。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 3 体験活動の充実

子どもたちが、地域の自然や歴史、文化などに直接触れる郷土学習や福祉の心を育てるボランティア活動等に参加するとともに、小・中学校で、発達段階に応じた「移動教室」等を通し、子どもたちの体験活動の充実を図ります。そして、自主的に体験しようとする力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3	小学校での 移動教室の実施 【指導課】	集団での宿泊体験を通して、よりよい人間関係を築くとともに、思いやりの心や助け合いの心、あきらめない気持ちを育成するため、市内全小学校第5・6学年による移動教室を実施します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、移動教室は中止しました。代替として、小学校第6学年は感染症予防に努めながら、市内の宿泊施設に1泊し、テーブルマナー講座や、昭島市の魅力を再発見する体験活動等を行いました。
3	中学校移動教室 ・修学旅行の実施 【指導課】	自然との関わりや日本の伝統文化、歴史についての理解を深めるとともに、最後まで努力する態度を育成するため、市内全中学校で農業体験、スキー教室などの移動教室や修学旅行を実施します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、移動教室及び修学旅行は中止しました。代替として、中学校第3学年は、緊急事態宣言の再発令を受け、宿泊は中止し、市内の宿泊施設でテーブルマナー講座を受講するなど、日帰り行事を実施しました。
3	小・中学校での 生産体験の実施 【指導課】	小・中学校において、学校農園や近隣の農園等を活用して、生産活動を行います。	各学校の実情に応じて、学校農園や近隣の農園を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして実施しました。

【主な課題】

(a) 小学校第5学年の移動教室について

例年利用してきた、「羽村市自然休暇村」の閉館に伴い、施設の変更が必要となった。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、活動内容の精選が必要となる。

【今後の取組の方向性】

(a) 小学校第5学年の移動教室について

新たに、宿泊施設を「三鷹市川上郷自然の村」とし、日程を秋に再設定した。宿泊施設や実施時期の変更に伴い、児童の安全を確保できるように、実地踏査において十分な情報収集を行う。移動教室運営委員会や、実地踏査の結果を基に、安全かつ充実した活動ができるよう、実施計画を立てる。

主要施策 4 いじめ問題への対応

昭島市の全ての子どもが安心して登校し、学校生活を送ることができるよう、学校の内外を問わず、いじめの未然防止、早期解消に取り組みます。

いじめはどんなことがあっても社会の中では許されないことですが、どの子どもにも起こる可能性があるという意識をもって、関係機関と連携し、組織的かつ継続的な取組を行います。

学校でも教育活動全体を通じて、全ての子どもに「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、豊かな情操や道徳心、自他の存在を尊重し合える態度、自己肯定感等、心の通う人間関係を構築する能力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4	いじめ問題防止 会議等の開催 【指導課】	いじめは絶対許されないという意識啓発活動を推進し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等に関係機関と連携して取り組みます。	昭島市いじめ防止対策推進基本方針に基づき、いじめ防止等に向けた取組を推進するため、学校関係者、保護者、関係機関、地域の健全育成団体等の代表者を委員として委嘱し、いじめ問題防止会議を年3回開催しました。各学校のいじめの未然防止の取組について報告するとともに、インターネット上のトラブル防止について協議し、保護者向け啓発資料「我が子を守る」を作成し、各学校へ送付しました。 また、令和2年度から、いじめ問題への対応、いじめの再発防止等の検討及び協議を行い、学校を支援するとともに、実効的な対策を推進するため、いじめ問題対策委員会を設置しました。学識経験者、弁護士、警察、心理士、福祉の専門家を委員として委嘱し、学校が対応したいいじめ事例に対し、多角的な視点で指導・助言をいただきました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4	いじめ防止等に関する教育委員会の具体的な取組の実施 【指導課】	いじめ問題の状況に関する調査、いじめ相談体制の確立、サポートチームや関係諸機関との連携、教職員の資質・能力の向上、インターネット等によるいじめ対策の推進、啓発活動の推進など、具体的な取組を実施します。	昭島市立学校におけるいじめの防止等のためのより具体的な取組が実施できるように、昭島市いじめ防止対策推進基本方針の見直しを行いました。中学校生徒会が中心となって作成した「いじめ防止ポスター」を各小学校や自治会の掲示板に掲示し、社会全体でいじめを許さない雰囲気を醸成しました。
4	学校いじめ防止基本方針の推進 【指導課】	各学校の実態に応じていじめを防止する方針を定め、いじめを受けている子どもに対しての支援を的確に行います。	各学校において、学校サポートチームを生かし、学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、保護者会やホームページ等を活用して、周知しました。
4	いじめに関する学校における取組の実施 【指導課】	いじめ防止のポスターの掲示やふれあいボックスを設置するなど、いじめの防止や早期発見等のため、子どもがいつでも思いを伝えることができるような取組を実施します。	軽微ないじめを見逃さないように、未然防止の校内体制を整備しました。また、年に3回以上、いじめ防止に係るアンケートを実施し、早期発見・早期対応に努めています。令和2年度は、臨時休校があったため、2回以上実施することといたしましたが、臨時休校明けには、全小・中学校で、こころのアンケートを実施し、悩み事等に寄り添う体制を整えました。

【主な課題】

(a) いじめ問題防止会議について

年間を通して、「インターネット上のトラブル」について協議を行い、保護者の意識を啓発していく取組の必要性について共有し、啓発資料の作成を行った。新年度に、各小・中学校で保護者に説明し、配布する予定である。今後も継続して、啓発活動や具体的な取組を検討していく必要がある。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

いじめの防止について児童・生徒が主体的に考える機会を継続的に設定していく必要がある。

- (c) いじめの早期発見・早期対応について
軽微ないじめの把握の仕方に学校間で差があるため、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、迅速な報告体制を構築する必要がある。また、初期対応能力の向上が必要不可欠である。
- (d) いじめによる重大事態の調査について
重大事態が発生した場合の調査を行うにあたっての調査組織について、地方自治法の規定により附属機関の設置をする必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) いじめ問題防止会議について
継続して「インターネット上のトラブル」について協議を行い、保護者への意識啓発については、各団体でできることから精力的に実施する。
- (b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について
小中一貫教育の取組の一環として中学生と小学生がいじめ防止について意見交流を行う機会を設定したり、中学校生徒会が中心となって作成するいじめ防止ポスターを小学校に掲示したりする取組を継続するなど、児童・生徒がいじめ防止について考える機会を意図的に設けていく。
- (c) 児童・生徒のいじめの認知件数について
いじめの定義について、生活指導主任会において研修を深め、各校での研修に活かせるようにする。また、毎月の報告書を活用して、軽微ないじめについても背景を含めて学校と教育委員会で情報を共有する。必要に応じて報告事例についての聞き取りを行い、生活指導主任との意識の共有も図れるようにする。詳細な実態や対応経過の報告のみにとどまらないように、各校が児童・生徒に対して速やかに対応できるように連携を図る。
- (d) いじめ問題対策委員会について
令和3年度より、年に2回開催し、昭島市いじめ防止対策推進基本方針に基づき、いじめ問題への対応、いじめの再発防止等の検討及び協議を行い、学校を支援するとともに、実効的な対策を推進していく。
- (e) いじめによる重大事態の調査における調査組織について
令和2年度に、いじめに起因して、いじめ防止対策推進法に規定する重大事態が発生した場合に、同法に基づき市が行う調査について、調査機関の設置や、その他の事項を定めた昭島市いじめ問題の調査に関する条例を制定した。
このため、学校において、いじめに起因した重大事態が発生した場合には、この条例に基づき、市の附属機関として外部の有識者による調査委員会等を設定し、調査を実施する。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 1 体力向上の推進

子ども一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校・家庭・地域が連携した体力向上策を推進します。

また、各学校では、東京都の「総合的な子どもの基礎体力向上方策（第2次推進計画）」に基づき、子どもの体力の実態を把握するとともに、一校一取組を推進し、計画的に体力の向上を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 体育・保健体育の授業の充実
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進
- (3) 一校一取組の充実
- (4) 部活動の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	体育・保健体育の授業の充実 【指導課】	小・中学校における体育や保健体育の授業改善を図り、子ども達の体力向上に資するため、体力向上推進委員会を設置し、実践研究を推進します。	平成30年度研究指定校の成隣小と清泉中の研究成果を参考にして、各学校が、生活習慣と運動習慣の改善を通じて体力向上に取り組みました。
1-(1)	体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用 【指導課】	各種調査を実施し、その調査結果を分析し、本市の子どもたちの実態に応じた指導や体育・保健体育の授業改善に活用します。	令和2年度は、東京都教育委員会の方針により実施可能校のみの調査実施となりました。各学校では、日常の指導の中で、体力向上に向けた取組や、適切な評価を行いました。表7には、令和元年度の調査結果を掲載しています。
1-(1)	武道実技研修の実施 【指導課】	中学校における武道の指導を安全に行うとともに、確実な指導技術を身に付けるため、教員の実技研修を実施します。	東京都教育委員会が実施する武道実技研修に参加することにより、他地域との交流も図ることができました。
1-(1)	校庭芝生化の推進 【庶務課】	校庭の芝生化を推進し、地球環境への配慮を行うとともに、子ども達の運動能力の向上を図ります。	小学校13校及び中学校4校の芝生運動場について、芝生の健全な生育を図るため、計画的に播種や目土等の更新作業を実施しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(2)	オリンピック・パラリンピック教育推進校での研究と啓発 【指導課】	運動・スポーツへの興味・関心を高める体育授業等の内容・方法の改善や日常的な運動・スポーツの実践による健康増進に向けた取組の充実を図ります。	オリンピック・パラリンピック教育推進校に引き続き全小・中学校が指定され、全ての児童・生徒が大会に関わる取組を行いました。全小・中学校が全体計画及び各学年の年間指導計画に基づき、オリンピック・パラリンピック教育を推進する年間 35 時間の授業を、できる限り実施しました。
1-(3)	一校一取組の充実 【指導課】	体力の向上及び健康の保持増進を図るため、運動量を増やすなど、指導法の工夫・改善を図ります。	各学校が創意工夫をし、朝の時間や休み時間、放課後等に子どもが運動できるような環境や時間を設定して取り組みました。
1-(4)	中学校における運動系部活動参加の推進 【指導課】	中学校において、スポーツを通して、生徒一人一人が特性を生かして部活動に参加できるようにし、最後まであきらめずに継続することや仲間と協力して成し遂げることの喜びを体験できるようにします。	全中学校の運動部活動は 53 部あり、それぞれの運動部活動での特性を生かし、生徒一人一人の成長を目指して活動を行いました。
1-(4)	運動系部活動指導補助員の充実 【指導課】	中学校に運動系部活動の技能の向上を図るため指導補助員を派遣し、より専門的な指導を行います。	全中学校で 31 名の部活動指導補助員を派遣し、生徒の能力向上を図りました。また、運動部及び文化部の部活動指導員を市内で 14 名派遣しました。
1-(4)	部活動対外試合への支援 【庶務課】	部活動の各種大会の参加費や全国大会及び関東大会への交通費を支援します。	部活動に対して、各種大会の参加費や消耗品、備品等を支出しました。また、関東大会以上の試合に出場するための交通費、宿泊費等については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で大会が実施されず、支出がありませんでした。

[表7]

〈東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査〉

※網掛け・太字は、都の平均を越えている種目

令和元年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）について
 体格及び体力・運動能力結果平均値（昭島市） 令和元年10月10日

	性別	学年	人数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	持久走(秒)	シャトルラン(回)	50M走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	体力合計点	(東京都) 体力合計点
小学校	男子	1	478	116.3	21.0	9.2	10.8	27.1	25.0	-	18.2	11.5	110.9	7.7	29.2	29.38
		2	437	123.0	23.6	10.7	14.3	28.0	29.5	-	26.7	10.7	124.7	11.1	36.9	36.99
		3	462	127.9	26.3	12.7	16.6	30.5	32.0	-	36.5	10.1	131.8	14.6	42.9	43.16
		4	502	133.4	29.8	14.6	18.8	33.2	38.1	-	44.5	9.6	143.7	18.0	49.9	48.92
		5	479	138.8	32.8	16.5	19.8	35.1	41.0	-	50.1	9.2	152.2	20.6	54.1	54.18
		6	454	145.6	37.8	20.1	22.1	36.3	43.2	-	59.1	8.7	162.9	24.6	60.1	59.56
	女子	1	483	115.5	20.7	8.6	11.3	29.2	24.1	-	15.0	11.9	104.2	5.5	29.7	29.28
		2	460	121.8	23.5	10.1	14.6	31.3	28.5	-	20.3	10.9	116.1	7.4	38.2	37.17
		3	456	127.4	26.1	12.2	15.9	34.3	30.7	-	26.1	10.5	124.9	9.4	43.4	43.62
		4	455	133.9	29.9	13.8	18.0	36.7	36.5	-	33.3	10.0	134.7	11.5	50.7	49.99
		5	450	140.0	33.6	16.5	19.4	39.6	39.6	-	39.7	9.4	147.1	14.0	56.8	55.89
		6	428	147.2	39.6	20.0	20.3	40.0	41.4	-	44.0	9.0	152.7	16.1	60.8	61.14
中学校	男子	1	410	153.3	43.3	23.5	24.6	41.8	50.2	433.7	86.0	8.6	180.4	18.3	34.6	32.72
		2	410	159.7	47.6	27.9	27.7	42.9	53.5	389.0	83.1	8.0	196.1	21.3	41.5	40.86
		3	415	166.2	52.7	34.8	30.3	50.0	55.9	377.1	94.2	7.5	212.3	23.6	49.9	47.80
	女子	1	410	152.2	43.3	22.0	21.5	43.3	46.3	310.4	65.0	9.1	163.6	11.9	44.6	44.25
		2	392	155.2	46.6	23.8	23.7	45.7	46.9	290.5	58.8	8.8	169.1	13.9	49.6	49.56
		3	371	157.1	49.0	25.1	24.4	47.4	47.1	293.6	51.3	8.8	170.2	14.4	51.2	51.74

※令和2年度は全小・中学校の調査結果が揃わないため、昨年度のもの掲載。

【主な課題】

- (a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について
 令和2年度は全小・中学校での調査ができなかったため、令和元年度の調査資料を活用するなど、各学校で工夫して目標設定する必要がある。
- (b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について
 各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、2021年を終えてもオリンピック・パラリンピック教育の財産を生かせるようにする必要がある。
- (c) 校庭芝生化について
 芝の生育状態や、除草、散水などの管理等に学校間で差がある。また、保護者や地域の方の協力をしていただいているが、維持管理費用がかかる。
- (d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について
 「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に運動部活動を実施できるよう検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について
 体力向上・健全育成の取組のために作成した「元気アップガイドブック」や「グッドモーニング 60分」の取組を活用して日常的な遊びや運動を通じた総合的な体力向上を図る。

- (b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について
各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、全体計画、年間指導計画にレガシーを反映させて取組を充実させる。
- (c) 校庭芝生化について
芝生の大規模校については、散水用に井戸水や雨水を利用するなど維持管理費の抑制に努めていく。また、踏圧等により芝生が枯れてしまった部分について、児童・生徒の教育活動と関連させて補植するなど、適切に維持していく。
- (d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について
「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき、運動部活動を適切に運営していく。また、部活動指導員を活用し、部活動指導の充実を図るとともに教員の長時間勤務の解消に努めていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 2 学校給食・食育の充実

子どもの健全な発育のため、地元農家の協力を得て、地場野菜を積極的に活用し、安全・安心な学校給食の提供を行います。

また、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校、家庭及び地域等と連携し、食育を推進します。

そして、各学校では、「食に関する全体計画」に基づき、食育リーダーを中心とした指導体制を一層充実するとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣の形成を促進します。

【施策の取組状況】

- (1) 学校給食の充実
- (2) 食に関する指導の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	学校給食運営基本計画の策定及び実施 【学校給食課】	学校給食に関する中期的な計画を策定し、学校給食の充実を図ります。	令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする「昭島市学校給食運営基本計画（改訂版）」を策定しました。共同調理場整備事業では、現位置での建て替え整備に向けて基本設計を実施しました。中学校給食については親子調理方式に移行することとし、自校調理校の用途地域における許可申請を行いました。 また、安全、安心な給食を将来にわたり安定的に提供するため、令和3年4月より共同調理場第一調理室を調理業務委託することとし、業者選定を行いました。
2-(1)	学校給食施設・設備の維持管理 【学校給食課】	学校給食を安定的に提供するため、学校給食の調理用施設・設備の維持管理を行います。	施設等の適正な維持管理をするため、保守点検などを行うとともに、調理機器の修繕や買換えを行い、安全・安心な給食の提供に努めました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	学校給食を通じた食育の推進 【学校給食課】	子どもに身近な教材である学校給食を通して、食料の生産・流通や地域の食文化及び適正な食生活の理解を深めます。	栄養教諭及び栄養士が児童・生徒に対し、食に関する指導を行い、食育の推進に努めました。夏休み前に、発達段階に応じたレシピを掲載した「おうちでLet's 食育クッキング」を配布し、多くの児童生徒に対し、料理作りのきっかけとなる情報を提供しました。また、学校給食食育展示展示予定の資料を市のホームページで公開し、学校給食における食育の取り組みについて周知しました。
2-(1)	地産地消の推進 【学校給食課】	地産地消を進め、自然に親しみ、自然のめぐみと生産者への感謝の心を育成するため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れます。	地産地消の推進を図るため、生産者と連携を図り、共同調理場だけではなく、自校給食校の給食にも地場食材を取り入れました。また、江戸東京野菜である「拝島ネギ」を使用し、地域の伝統野菜を生きた教材として活用しました。
2-(2)	お弁当の日の実施 【学校給食課】	学齢に応じたお弁当作りへの協力を通じて、家庭内での役割や食事の大切さについて考える機会となるよう、お弁当の日を実施します。	全小・中学校において「お弁当の日」を年2回実施しました。児童生徒が発達段階に応じたお弁当づくりに係わることができるよう取り組みました。
2-(2)	食に関する指導の推進 【指導課】 【学校給食課】	食育の推進を図るため、各学校で食育リーダーを選任し、食に関する全体計画を作成し、家庭へ情報発信をします。	教育課程編成時に今までの食に関する全体計画の取組を見直し、作成しました。また、各学校で食育リーダーを選任し、年2回会議を開き、学校における食育の推進に向けて、食育の取組の展開や内容の充実を図りました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	栄養教諭の活用 【学校給食課】 【指導課】	共同調理場に栄養教諭を配置し、学校を巡回しながら、食に関する指導の充実を図ります。	授業や給食時間を利用し、栄養教諭及び栄養士が学校と連携を図り、食に関する指導を行いました。授業では、朝食の大切さや健康増進に欠かせない食べ物のお話の他に、生産者と栄養教諭が地元でとれる野菜の育成や生産者の思いを伝えるなど、地域への愛着を育みました。また、栄養教諭の巡回指導に関しては、食育リーダー会議で発表するなど、各学校の取組の充実に向け、活用を図りました。

【主な課題】

- (a) 新たな学校給食共同調理場の整備について
学校給食共同調理場の老朽化に伴い、新たな学校給食共同調理場の建て替え整備を行う必要がある。
- (b) 衛生管理について
安全・安心な学校給食の提供を行うため、業者、職員等へ衛生管理の徹底を図る必要がある。
- (c) 食育推進のための連携について
学校給食を通じた食育を推進していく中で、家庭や地域と連携した取組みについて、更に検討を進める必要がある。
- (d) 食育指導の充実について
食育を更に推進するため、栄養教諭の複数配置が必要である。また、食育の取組は、各学校の実態に合わせたものが必要である。
- (e) 家庭における食育の取組について
食育を推進するにあたり、家庭での食育が重要であり、保護者や児童・生徒が食育を身近にとらえる機会や情報提供が必要である。
- (f) 地産地消の推進について
地元の農産物を積極的に給食に活用し、生産者や食材への感謝の気持ち、地域への愛着を育むことができるようにすることが必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) 新たな共同調理場の整備について

新たな共同調理場の現位置での建て替えに向けて、関係各所への手続きや設計業務が円滑に進行するよう進行管理を行う。また、新たな共同調理場の整備後の給食配送車の運用や、アレルギー対応給食の提供等について検討していく。

(b) 衛生管理について

職場環境の整備や職員の衛生管理に対する意識向上を図り、異物混入や食中毒を防いでいく。また、異物混入時の連絡体制などの徹底を図るとともに、食品の選定時にはより細かく確認することにより、食中毒の防止や安全な食材の調達に努める。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進するため、家庭・学校・地域が一体となって取り組める体制を整える。

(d) 食育指導の充実について

栄養教諭の増員配置について東京都教育委員会へ要望し、各学校と連携を図りながら食育を推進していく。

(e) 家庭における食育の取組について

家庭での食育を推進するため、お弁当の日の取組を家庭に周知し、理解を深めていくとともに、児童・生徒がお弁当づくりを通じて、食への関心や食事の大切さなどについて、家庭で考えるきっかけづくりとなるようにする。また、情報発信について、その手法について検討していく。

(f) 地産地消の推進について

市内の農産物の生産者と連携を深め、生産の状況に合わせた計画的な使用をする。また、特色ある伝統野菜を活用することで地域のよさを理解させ、郷土への関心を高める。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 3 学校保健安全の推進

子どもたちが安全な学校で安心して学校生活を送ることができるよう、安全教育を推進するとともに心と体の健康を保つための体制を整えます。

【施策の取組状況】

- (1) アレルギー疾患対応の充実
- (2) 心と体の健康管理の充実
- (3) 安全教育・防災教育の充実
- (4) 通学路における安全対策の推進
- (5) 中学生救命救急講習授業の実施

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	アレルギー疾患対応マニュアルに基づいた対応の充実 【指導課】 【学校給食課】	学校がアレルギー疾患を理解し、個々の子どもの症状等を的確に把握します。また、個別の配慮や緊急時の対応へ備えます。	アレルギー疾患対応については、「学校生活管理指導表」の提出を受け、面談を行い、保護者、学校、教育委員会が共通認識をもち対応しています。また、学校管理職・養護教諭・栄養士・学級担任を対象としたアレルギー疾患マニュアルの説明会を実施し、教職員の啓発、当事者意識の向上に努めます。 なお、学校給食における食物アレルギー対応については、「昭島市学校給食食物アレルギー対応給食実施要綱」に基づき対応しています。
3-(2)	定期健康診断の実施 【指導課】	子どもの健康状態を定期的に把握するために、定期健康診断を行います。	新型コロナウイルス感染症の影響により6月30日までは定期健康診断を実施できませんでしたが、令和3年3月までにすべての学校が定期健康診断を行い、子どもの健康状態を把握しました。
3-(2)	就学時健康診断の実施 【指導課】	小学校入学前の子どもに対して、安心して学校生活を始めることができるよう、就学時健康診断を行います。	各学校で10月～11月に就学時健康診断を実施し、希望する保護者に対して面談を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(2)	薬物乱用防止教室の実施 【指導課】	小学校低学年では「薬の正しい使い方」から学び、中学校では、薬物（シンナー・覚せい剤・危険ドラッグ等）の作用を科学的に学び、薬物の害について理解を深め、自己の生き方を考え、行動選択ができるようにします。	全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施し、薬物の害についての理解を深めることができました。セーフティ教室等を活用し、教員が資料を活用して指導したり、警察官・学校薬剤師等、薬物乱用防止について専門性の高い講師を活用したりして実施しました。
3-(3)	学校地震防災計画の実施 【指導課】	各学校で策定した計画を確実に実施し、子どもの安全確保に努めます。	学校地震防災計画を基にした避難訓練を各学校において、年11回程度実施しました。
3-(3)	学校保健安全計画の実施 【指導課】	安全指導や保健指導、避難訓練、不審者対応訓練など、各学校が策定した計画を確実に実施します。	教育課程編成時に学校保健安全計画を基に実施した取組を改善して作成し、実施形態を工夫しながら取り組みました。
3-(3)	セーフティ教室の実施 【指導課】	子どもが自分で自分の身を守ることができるよう、様々な危険について対応できる能力を育成するためにセーフティ教室を開催します。	セーフティ教室の実施形態を各学校において工夫し、警察や関係諸機関と連携した、犯罪被害防止や万引き防止、SNSにおけるトラブル防止に関する学習を行いました。
3-(4)	スクールガード・リーダーや見守り活動の実施 【指導課】	学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、スクールガード・リーダーや地域・保護者による見守り活動の充実を図ります。	スクールガード・リーダーを6名配置し、通学路や校内安全について1校あたり年4回の巡回指導を実施しました。また、各学校でPTA・地域と連携し、登下校の見守りを実施しました。
3-(4)	防犯ブザーの貸与 【指導課】	防犯ブザーを小学校1年生に貸与します。	小学校第1学年924名に対して防犯ブザーを配布しました。
3-(4)	防犯カメラの設置 【指導課】	学校、地域等が行う通学路における児童の見守り活動を補完するため、計画的に防犯カメラを設置します。	見守り活動の補完的な役割を果たす、市内の小学校通学路上に設置している75台の防犯カメラの保守・点検を実施しました。
3-(5)	中学生救命救急講習の全員実施 【指導課】	昭島消防署と連携し、中学校2年生全員を対象に救命救急講習を行い、非常時への備えを学ばせます。	実施に向けて調整してきましたが、実施が叶いませんでした。令和3年度に対象学年への指導を計画しております。

【主な課題】

(a) アレルギー疾患対応について

平成29年度に改訂し、全教職員へ配布したアレルギー疾患対応マニュアルについての周知徹底、フォローアップの実施が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) アレルギー疾患対応について

アレルギー疾患は生命に関わる事態となるため、今後も対応マニュアルに基づいた適切な対応ができるよう各学校に指導していく。また、食物アレルギーのある児童・生徒については、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)をもとに学校・家庭・学校給食課で情報を共有するとともに、間違いが起きないチェック体制を整備し、それぞれの児童・生徒に合った安全な対応を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実

幼稚園・保育園と小学校の間において、小学校入学段階において円滑なスタートができるよう連携会議を開催したり、学級支援員の配置等を行ったりします。

また、小学校から中学校への進学時に学習や生活面においてギャップを感じる事が無いように、小・中連携推進委員会において情報交換を行い、年間3回の小・中連携の日を設定するなどの取組を推進します。

また、特別な支援を必要とする子どもに適切な支援を行うため、個別の教育支援計画を小学校と中学校間で情報共有します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	幼・保・小連携推進委員会の開催 【指導課】	幼稚園・保育園・小学校の代表者が集まり、円滑な小学校生活が始まるよう情報を共有します。	幼・保・小連携推進協議会を年3回開催し、幼稚園長、保育園長、小学校長と情報交換を行いました。また、小学校入学当初の円滑な接続を目指したカリキュラムである「昭島市版スタートカリキュラム スタートブック」を作成しました。
1	小・中連携推進の強化 【指導課】	中学校の学区ごとに年間3回小・中連携の日として具体的な取組を行うとともに、小中一貫教育の在り方について検討を行います。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、教員同士の交流は実施できず、必要に応じて児童・生徒の情報交換を電話や学校訪問等で行いました。また、中学校生徒会が作成したDVDを小学校第6学年の児童が視聴したり、生徒会主催による新入生説明会、部活動体験会を実施したりする取組が中学校校区毎で行われました。
1	学級支援員の配置 【指導課】	新1年生が学校生活を始める4月に、きめ細かな指導を行うために学級支援員を配置します。	全小学校の新第1学年に学級支援員（学習支援員）を配置しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1	個別の教育支援計画の活用 【指導課】	特別な支援を必要とする子どもに対して、個別の教育支援計画を立て活用するとともに、進学時に引継を行います。	発達に課題のある子どもには、保護者の協力を得て、個別の教育支援計画を作成して、進学時引き継ぎを行いました。

【主な課題】

(a) 小・中学校の連携推進について

小中一貫教育研究指定校により昭島市における小中一貫教育の在り方について研究を進め研究発表会を実施したが、他校においても小中一貫の視点による教育活動を更に推進していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 小・中学校の連携推進について

研究指定校の成果を受けて、各中学校区において義務教育9年間を見据えた育てたい子ども像を共有した上で、年3回「小・中一貫の日」を設定し、引き続き教員間及び児童・生徒間の交流活動を実施する

主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実

子どもの発達の段階を踏まえ、各教科等を通じて日本の文化や伝統、東京都や昭島市の歴史と風土についての学習を充実することで、我が国と郷土を愛し、伝統や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。また、他国を尊重し、国際社会で活躍する子どもの育成に努めます。

また、小学校において音楽鑑賞教室・連合音楽会を実施するとともに、連合の展覧会を開催し、豊かな情操を育成します。

【施策の取組状況】

- (1) 伝統文化教育の推進
- (2) 文化行事の開催

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	各教科等における日本の伝統文化教育の推進 【指導課】	学習指導要領等の趣旨を踏まえ、各教科等において、日本の伝統文化教育を推進し、我が国の歴史や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。	各教科等で日本の伝統・文化について取り上げ、日本の伝統文化教育を推進しました。また、オリンピック・パラリンピック教育の一環としても実施しました。
2-(1)	体験活動を通じた日本の伝統文化教育の推進 【指導課】	生活科や総合的な学習の時間における昔あそび等の体験活動を充実します。また、日本の伝統や文化、昭島市の歴史や風土について学ぶ機会の充実を図り、伝統文化を継承・発展させようとする態度を育みます。	例年は、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材を活用した昔あそび等の体験活動や尺八や箏、三味線といった伝統楽器等の学習を行っていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から校内での活動が中心となりました。
2-(1)	地域との連携による伝統文化教育の推進 【指導課】	外部講師として地域人材の活用を図り、東京都や昭島市の歴史や文化を学ぶことで、郷土を愛する心や継承しようとする態度を育成します。	例年は、和太鼓、茶道、箏など伝統文化に関する見識の高い外部講師を招聘し、体験的な活動に重点をおいて日本の伝統文化教育を実践していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から実施が困難となりました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(2)	連合音楽行事 の開催 【指導課】	小学校5年生で音楽鑑賞教室、小学校6年生で連合音楽会を行い、音楽に親しむ機会を設けます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、音楽鑑賞教室及び連合音楽会は中止としました。
2-(2)	小学校展覧会 の実施 【指導課】	小学校全校で取り組んでいる図画工作の作品から代表作品を集め、展覧会を実施し、鑑賞する機会を設けます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は実施しませんでした。
2-(2)	中学校合唱 コンクールの実施 【指導課】	中学校において合唱コンクールを実施することにより、協力する大切さや豊かな情操を育成します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、合唱コンクールは市内全中学校で中止としました。

【主な課題】

- (a) 地域との連携による伝統文化教育について
日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育むために、継続して体験活動を実施していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 地域との連携による伝統文化教育について
日本の伝統・文化のよさを体験的に理解できるように系統性のある指導計画を作成できるよう指導・助言を行う。また、地域と連携した取組についてどのような形態でなら実施可能か模索し、検討していく。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上

子どもたちの教育は、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、充実させる必要があります。

学校での学習指導に加えて、家庭における基礎的な生活習慣や学習習慣を身に付けていくことも大切です。

そのために、家庭学習についての重要性を各学校が家庭に伝え、連携して取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3	家庭学習の定着 【指導課】	学習ドリルや家庭学習のしおり等を活用し、家庭での学習習慣の定着を図ります。	「家庭教育のすすめ」等の資料を作成するなど、各学校で保護者と連携して学年や発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図りました。
3	家庭における生活習慣の充実 【指導課】	「早寝・早起き・朝ごはん」などの家庭における生活習慣の啓発を行い、保護者の協力のもと、充実を図ります。	全小・中学校で、年度当初の保護者会において、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣についての啓発を図りました。また、「グッドモーニング 60分」の取組により、登校前の時間を有効に活用することができるようになりました。
3	eライブラリ事業の展開 【庶務課】 【指導課】	インターネットの接続環境がある中で、学校以外でも予習・復習ができるコンテンツにアクセスできるeライブラリ事業を展開します。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校期間中に家庭学習ができるよう、各小・中学校のホームページにリンクを設定するなど各家庭に周知しました。また、学校再開後に改めて、家庭学習の利用促進資料「くじらーニング」の各家庭への配布及び教員用への家庭学習利活用手順を配布し、利用の促進を図りました。

【主な課題】

(a) 家庭学習の定着について

家庭学習に意欲的に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が起きている。より一層の家庭学習の習慣化の取組が必要である。

(b) eライブラリ事業の普及について

新型コロナウイルス感染拡大防止の休校期間中に家庭学習を行えるコンテンツとして需要が高まったが、利用回数について個人差が大きい。

【今後の取組の方向性】

(a) 家庭学習の定着について

家庭での学習習慣の定着を図るために、教務主任会等において各学校の取組状況や実践事例の発表を行い、全小・中学校で家庭学習の定着を図るとともに、自ら学ぶ姿勢が身に付けられるように取組を推進する。

(b) eライブラリ事業の普及について

GIGAスクール構想による一人一台端末でも利用する。引き続き家庭学習活用パンフレットや利用手順書等を各家庭に配布するとともに、教員への研修も行い、よりいっそうの活用を促進する。家庭学習活用パンフレットについては内容を精査し、児童・生徒がより興味を持って取り組むことができるよう工夫する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 4 学校運営の改善

多くの行事、各種公開講座、学校公開週間等の機会を設け、「開かれた学校」づくりを推進し、学校運営の状況について、保護者・地域の方々の理解を図ります。

現在増加している若手教員に研修や経験を積ませることにより、リーダーとしての資質を身に付けるとともに指導力を高めます。

また、各学校の自己評価（教員による評価）、学校関係者評価（子ども・保護者、学校評議員による評価）、第三者評価（専門家による評価）を関連させ、学校の取組に対して評価と支援をいただき、学校運営を活性化します。

【施策の取組状況】

- (1) 教育推進計画の着実な実施
- (2) 「開かれた学校」の推進
- (3) 人材育成の推進
- (4) 学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	教育推進計画の 着実な実施 【指導課】	各学校が作成する教育推進計画（HDS プラン）を着実に実施し、学校運営の充実を図ります。	学校評価の様式と教育推進計画の様式を統合し、学校経営のPDCA サイクルに生かせるようにしました。2月の教育課程の届出相談に合わせて成果と課題を確認しました。
4-(2)	情報発信への取組 の推進 【指導課】	学校の取組をホームページや学校だより等を通じて、保護者や地域に向けて発信します。	全小・中学校のホームページにおいて、各学校の教育活動を紹介しました。
4-(2)	学校公開の推進 【指導課】	現在行っている学校公開（行事・公開講座・公開週間）について積極的に行うとともに、主な行事の公開の日についてのホームページで公表します。	4・5月は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から臨時休校となり、学校が再開した6月から3月にかけても、例年通りの学校公開（行事・公開講座・公開習慣）はできず、人数制限や動画配信等、各学校が工夫をして児童・生徒の様子を公開しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	スクール インターンシップ 事業の実施 【指導課】	近隣の大学と連携・協力し、小・中学校で実習活動する大学生を受け入れ、教育活動を活性化します。	小中学校で教員を目指しているスクールインターンシップの学生を例年は5月から受け入れていましたが、4・5月に臨時休校になったことで、令和2年度は9月から小学校4校・中学校1校で受け入れ、教育活動の活性化を図りました。
4-(3)	職層に応じた研修 の実施 【指導課】	職層に応じた研修を教育委員会が行うとともに、教育課題についての研修会を設定し、教員の指導力を高めます。	職層に応じて、4月に新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長を対象とした研修を実施しました。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、校長研修は中止となり、新任主幹教諭、新任主任教諭研修は課題の提出による紙面での開催となりました。
4-(4)	学校評価の充実 【指導課】	自己評価・学校関係者評価・第三者評価を行い、多くの視点から学校運営を検証し、課題として明らかになった部分を改善します。	自己評価及び学校関係者評価を全小・中学校で実施し、次年度の教育課程に生かしました。第三者評価については、平成29年度に検討した結果、一定の役割を果たしたことを受け、事業を終了しました。

【主な課題】

(a) 学校評価の充実について

「社会に開かれた教育課程」を実現するためにも学校関係者評価を充実させることが課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 学校評価の充実について

学校経営計画・評価シートに学校関係者評価の様式の見直しを行ったため、令和3年度においても同じ様式を使用して、学校の自己評価及び学校関係者評価の一層の充実を図る。

また、学校評価の状況をホームページで公開することで積極的な情報発信を行う。

主要施策 5 教育環境の整備

子どもたちが安全で快適に学校生活を送り、効果的な学習活動ができるように施設や設備、教材の維持・整備を計画的に行います。

また、地域の活動拠点としての学校施設の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
- (2) 学校施設の維持と活用
- (3) 学校ICT・教育機器・教材の整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	学校施設の大規模改修工事の計画的実施 【庶務課】	空調設備やトイレ、外壁、プールなどの大規模改修工事を計画的に実施します。	富士見丘小ほか5校の体育館に空調設備を設置、拝島第三小校舎空調設備の更新、玉川小及び中神小の外壁改修、東小プール浄化装置改修などの工事を実施しました。
5-(2)	学校施設・設備の維持及び整備 【庶務課】	子どもたちが安全・安心で快適に学校生活が送れるよう、各種施設の維持管理を行うとともに、設備を利用しやすいよう整備します。	冷暖房機、プール浄化装置、消防用設備などの保守点検や、快適な学習環境の確立に向けた修繕を実施しました。
5-(2)	校内防犯体制の整備 【庶務課】	不審者等の侵入に備えて、子どもたちを守る体制を整えるとともに、設備の充実を図ります。	不審者侵入対策として、非常通報装置を設置するとともに、各学校に防犯カメラ、モニター、感知式パトライトの常時起動を行っています。
5-(3)	学校ICTの整備 【庶務課】	情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行います。	国のGIGAスクール構想に基づき、市内全小・中学校の児童・生徒及び教員用のタブレット型端末8,800台を整備しました。また、大型ディスプレイ93台を普通教室・特別教室に設置しました。
5-(3)	教育機器・教材等の整備 【庶務課】	学習指導要領に対応した授業を円滑に実施するため、教育機器・教材等の整備を行います。	理科教育設備及び算数・数学教育設備の整備のため、小学校4校と中学校5校に顕微鏡や電源装置等の教材を購入しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(3)	情報教育研修 の実施 【指導課】	導入した ICT 機器や教育機器・教材等を有効活用するため、情報教育研修を実施します。	夏季休業日中に、初任者教員を中心に 28 人が受講しました。学校で活用している教育用ソフトウェアの操作・活用方法を中心とした研修を実施しました。

【主な課題】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の老朽化が進み、大規模改修工事を行わなければならない施設が多々ある。
- (b) 校内防犯体制の整備
学校の困障等によっては、不審者の学校敷地内への侵入を防ぐのが難しい。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙や机・椅子の引きずる音が気になる子どもがいる。

【今後の取組の方向性】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の大規模改修等工事については、実施計画に基づき実施し、学校運営に支障が出ないよう施設を整備する。
- (b) 校内防犯体制の整備
不審者対応として、校内に設置している防犯カメラによる訪問者の確認と来校者に対する教職員の声掛け等を徹底する。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙をなくしたり、棚にカーテンをつけるなど各学校に徹底させる。机・椅子の足にテニスボールをつけ騒音を減らす。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 6 情報教育の推進

子どもたちが高度情報化社会に柔軟な対応ができるようにするため、情報機器の導入や視聴覚ソフトの活用による効果的な学習指導を行うとともに、インターネットなどを活用した学校間交流などを推進します。

また、情報リテラシー教育の徹底により、正しい利用方法の指導を行うとともに、インターネットなどの普及による多種多様な危険や犯罪に巻き込まれないよう、情報教育の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
6	小・中学校コンピュータ等の活用の推進 【指導課】	子どもが ICT の活用方法に慣れ親しみ、習熟することなどを通じて、急速に進展する情報化社会に対応した能力を身に付けます。	教科等の学習を通してコンピュータに慣れ親しむとともに、プログラミングやコンピュータリテラシー等の授業を取り入れ、子どもの ICT 活用能力を高めました。
6	タブレット端末の活用 【指導課】	タブレット端末の教育効果を検証し、計画的な配備を行い、子どもたちの活用能力を育成します。	各教科の調べ学習や、体育での動画撮影、プログラミング教育等において、効果的に活用しました。
6	情報活用能力の育成 【指導課】	コンピュータや学習情報センターとしての図書館を利用した学習を通して、子どもの情報活用能力を育成します。	国語・社会・総合的な学習の時間等において、図書館やコンピュータを活用した調べ学習を授業に取り入れ、子どもの情報活用能力を育成しました。
6	情報モラル教育の推進 【指導課】	情報活用には光と影の部分があり、SNS やスマートフォンの活用には、それらを踏まえた情報モラルが必要であることを指導します。	各学校において教育活動全体を通して、情報モラルの向上について指導しました。また、セーフティ教室では、SNS やスマートフォンの正しい利用方法について指導しました。

【主な課題】

(a) 情報モラル教育の推進について

LINE 等の SNS を用いた子ども同士の不適切な関わりから生じるいじめなどの諸問題の発生は、年々低年齢化している。これらの問題に対して学校で計画的な指導に取り組み、家庭に情報発信する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやインターネットから生じるネットいじめ等の諸問題について、児童・生徒に危険性を認識させる。また、情報活用によるメリットやマナーを守った適正な使用により生活を向上させることを目的とした指導を、セーフティ教室や学級活動、道徳の時間等で実施する。学校便り等で保護者にも情報提供を行い、情報モラルに関する啓発活動を推進する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 7 環境教育の推進

自然に親しみ、自然を大切にすることを育成するとともに、地球環境の保全について考え、行動できる教育を推進します。

また、学校・家庭・地域の連携・支援体制を確立し、環境教育のより一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
7	豊かな自然環境を生かした教育の推進 【指導課】	総合的な学習の時間を活用して、農業体験や昭島に残されている自然やその保全など、地域の教育資源を生かした教育活動を実施します。	生活科・総合的な学習の時間を活用し、地域や学校の実態に応じた農業体験等を実施しました。
7	環境月間における環境教育の推進 【指導課】	環境月間（6月）に関連して、各教科等で環境教育を推進します。	各学校が環境月間において、それぞれの学校の実態に応じて、各教科等との関連を図りながら、リサイクル・節電・節水等に取り組みました。
7	みんなで実行 ISO の実施 【指導課】	電気・ガス・水道について使用量等の調査活動を通して、環境への配慮や節約意識を醸成します。	電気・ガス・水道について使用量が見えるようにし、全教職員に節約意識を周知させ、環境への配慮を行いました。

【主な課題】

(a) ごみの減量について

ごみの減量は、昭島市全体の課題であるため、子どもたちが主体的にごみの減量やリサイクルに取り組む態度を継続して育てていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) ごみの減量について

各学校でごみの減量や分別の取組を徹底し、子ども達がごみの減量に主体的に取り組む態度を育てるため、日常生活指導や「ごみ減量ポスター」の作成等の機会を捉えて指導する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 8 国際理解教育の推進

グローバル化が進展するなかで、子どもたちが広い視野をもち、異文化を理解し、世界の人々と協調しながら生きていく態度を身に付けることを目指し、国際理解教育を推進します。

また、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育てるために、小・中学校において外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 外国語教育・外国語活動の推進
- (2) 国際理解に関する事業の実施

番号	施策・事業名	概要	取組内容
8-(1)	外国語教育や外国語活動の充実 【指導課】	外国語の授業や外国語活動を通じて、小学校段階から系統的に指導を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力の基礎を培います。	小学校と中学校で情報共有し、授業改善の視点について話し合いました。授業交流については実施が難しい状態であったため、来年度に向けて実施方法等を工夫していきます。
8-(1)	ALT（外国語指導助手）派遣事業の充実 【指導課】	国際理解教育を一層推進するために、各小・中学校にALTを派遣し、中学校外国語教育及び小学校外国語活動の充実を図ります。	中学校外国語の授業では外国語を母国語とするALTを全中学校6校に派遣しました。1校あたりで約95日派遣しました。小学校外国語の授業では、小学校5・6年生の各学級に約35時間、小学校外国語活動では小学校3・4年生の各学級で約20時間派遣しました。
8-(1)	小学校外国語カリキュラムの開発 【指導課】	学習指導要領の内容を踏まえ、文部科学省が発行する外国語活動副教材に合ったカリキュラムを実施します。	新学習指導要領全面実施を受け、令和2年度は、各学校において作成した年間指導計画を基に、小学校高学年で年間70時間の外国語授業を行いました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
8-(2)	平和教育の充実 【指導課】	他者と共存できる感性を育み、命と人権に関する身近な問題から平和な社会的関係のあり方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていることを理解したりして、共に友好的に生きることのできる基礎を養います。	小・中学校の教科等の指導においては、社会の授業を中心に、平和な社会的関係の在り方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていたりすることへの理解を図りました。また、各学校が人権教育を推進する中で、命と人権の大切さを指導しました。
8-(2)	中学生英語スピーチコンテストの実施 【指導課】	英語による中学生の主張の機会を設け、話すことを中心として積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ります。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は実施しませんでした。
8-(2)	英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業の実施 【庶務課】 【指導課】	国内施設に宿泊し、外国人学生がリーダーとなり、英語研修や英語を使ったゲームなどを行い、外国人とのコミュニケーションを図る楽しさを実感させます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、令和2年度は実施しませんでした。
8-(2)	中学生海外交流事業の実施 【庶務課】 【指導課】	オーストラリア（パース）にある学校との相互交流を通して、直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げさせます。	新型コロナウイルス感染症拡大により海外との往来が困難であることから、令和2年度は実施しませんでした。

【主な課題】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

小学校で身に付けるべきことを確実に身に付けさせ、中学校1年生の始めの段階で生徒が学習につまずかないようにする必要がある。小学校と中学校の連携を図り、授業改善を推進していく必要がある。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施できなかった。

【今後の取組の方向性】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

東京都教育委員会から委託を受けた中学校英語教育推進モデル地区事業の研究の成果を生かして、中学校卒業時のゴールを見据え、小学校第6学年までに学ぶ内容と、中学校で学ぶ内容について教職員が共通理解して取り組めるように研修する。また、小中一貫の取組等を活用し、小・中学校の教員の連携を強化することで、授業改善を推進していく。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

中学生海外交流事業では世界的な新型コロナウイルス感染症拡大のため、海外往来による交流再開の見通しが見えない中で、オンライン交流を含めた今後の交流事業の在り方について、検討する。

また、英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業においても、十分な感染症対策を講じたうえで、今後どのように実施していけるか検討する必要がある。

主要施策 9 キャリア教育の推進

子どもの望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路につなげるキャリア教育が重視されています。職場訪問や職場体験などの体験活動は、子どもの勤労観・職業観を育成する上で大きな期待が寄せられ、小学校段階から意図的・計画的に実践する必要があります。自立した社会人・職業人として生きていくために求められる資質、能力の育成を目指して、キャリア教育を推進します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
9	キャリア教育全体計画の作成と年間指導計画の作成 【指導課】	各学校において「キャリア教育全体計画」に基づいた年間指導計画を作成し、子どもが将来への夢をもてるようにするとともに、望ましい勤労観を育成します。	一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ったりしました。
9	中学生職場体験の充実 【指導課】	全中学校において2年生による職場体験を実施し、働くことの意義や勤労観・職業観を育成するとともに、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職場体験は全中学校で中止としました。各学校では、職業調べ、身近な人への職業インタビュー、ハローワークの職員による職業講話などを実施しました。
9	職場体験受入事業所の確保・拡大 【指導課・各課】	生徒に幅広い選択肢の中から自分の将来の夢に近い事業所や興味のある事業所で働くことを体験させ、好ましい勤労観を育成します。そのために中学生職場体験の受入事業所の確保に努めます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、職場体験は全中学校で中止となりました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
9	キャリア教育 推進委員会の活用 【指導課】	小・中学校のキャリア教育推進担当教員が集まり、講師を招いた研修会や情報交換を行うとともに、研究授業を通じて教員の指導力の向上を図ります。	キャリア教育の推進について、進路指導主任会において、キャリア・パスポートを活用したキャリア教育の実践事例や今後の課題等について協議し、「昭島市版キャリアアルバム」を作成しました。

【主な課題】

- (a) 職場体験受入事業所について
すべての生徒が希望する事業所で体験することが難しいため、体験できる事業所を広げる必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 職場体験受入事業所について
進路指導主任会等で学校間の情報交換を行い、事業所の確保に引き続き努める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 1 生涯学習

平成 25 年 3 月に策定した「あきしま学びぷらん（第 2 次昭島市生涯学習推進計画）」に基づき、「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習社会の実現に向けて、学習の機会と場の充実を計画的に推進します。

また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 生涯学習推進体制の整備
- (2) 生涯学習の推進
- (3) 公民館活動の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(1)	社会教育関係団体 指導者育成 【社会教育課】	社会教育関係団体の育成、発展を図るため団体の登録、補助事業や指導者育成の研修会などを実施します。	社会教育関係団体研修会 市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議 2月27日 オンライン開催 参加者30名
1-(1)	生涯学習推進のための校区協議会 機能の充実 【社会教育課】	「小学校区を中心にした生涯学習」を推進するために、PTAや自治会などと連携し、実施団体の設置や活動を支援します。	生涯学習校区協議会育成補助金については、活動休止により実施しませんでした。
1-(1)	市立会館 管理運営事業 【社会教育課】	11館設置されている市立会館が市民の皆様の活動拠点として、また、地域の情報交換の場としての充実を図ります。	やまのかみ会館空調設備の改修工事を実施しました。
1-(2)	生涯学習援助協力者の登録制度の充実と活用の促進 【社会教育課】	生涯学習援助協力者制度の充実を図り、登録者への支援の場の提供など支援者の充実を図ります。	生涯学習援助協力者 登録者 12人 生涯学習サポーター養成講座は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(2)	土曜地域ふれあい事業 【社会教育課】	子どもたちの居場所づくりと地域の方々の技能や技術を生かした生涯学習の場の充実を図ります。	・囲碁教室（6月～10月） ・陶芸教室（6月・7月） ・ダブルダッチ（11月） 以上の各事業は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。により中止しました。
1-(2)	生涯学習情報センターの設置 【社会教育課】	生涯学習情報雑誌「あきしま学びガイド」による生涯学習の機会の情報提供を図り、生涯学習センターとしての機能強化のため市立会館の充実を図ります。	4月に発刊予定でしたが、市主催の講座・イベントなど新型コロナウイルス感染症拡大防止のため各事業が中止となったため発行を中止しました。
1-(2)	成人式の実施 【社会教育課】	昭島市の将来を担う市民の成人式を、新成人による実行委員会を組織し、実施します。	1月11日に新型コロナウイルス感染症拡大防止措置を講じながら、2部制で市内ホテルにて開催しました。 実行委員 8人 参加者 593人
1-(3)	公民館事業の充実 【公民館】	仲間づくりの場、集団活動の場、学びの場、文化創造の場として明日を築く市民が育つ場としての事業を展開します。	障害のある青年の交流講座、各種講座、自主企画事業を実施しました。
1-(3)	公民館利用団体懇談事業の実施 【公民館】	公民館がより一層効果的に活用されるよう、公民館運営に関する意見交換会を公民館利用登録団体と行います。	保育室保育者連絡会を実施しました。公民館活動や利用に関するアンケート調査を行いました。
1-(3)	市民講座の実施 【公民館】	地域課題や生活課題に即したテーマでの各種講座を開設し、市民の皆さんの自主的な学習の場を提供します。	家庭教育セミナー、男女共同参画セミナー、社会文化セミナー、歴史文化セミナー、シニア講座、時局講演会、地域課題講座等を実施しました。
1-(3)	市民大学の実施 【公民館】	市民としての自治能力を培い、学びの成果を地域で活かせるように、学術的な学びの場を提供する昭島市民大学を実施します。	市民大学第10期1年次 ※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止とし、次年度へ延期しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
1-(3)	シニア講座の実施 【公民館】	高齢者が抱える様々な課題を学び、交流し、学びの成果を自身の生活に活かせるような講座を実施します。	講座「己書流基礎講座」を実施しました。 ※応募者が多かったため、全4回の講座を2回実施しました。 参加者合計 36人
1-(3)	障害のある青年の交流講座の実施 【公民館】	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動し、交流を深め、共生できる社会の実現のために、多様な機会の提供と支援に努めます。	インドアペタンク、クリスマスの集い、新聞づくりを実施しました。 全3回 参加者 20人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10月まで活動を中止しました。

【主な課題】

(a) 生涯学習事業等について

新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの行事や事業が中止または延期を余儀なくされた。新しい生活様式における各種事業等のあり方について検討する必要がある。

(b) 市立会館管理運営事業について

市立会館は、設置後40年以上経過する施設があり、経年劣化による施設の改修工事や維持管理を進める必要がある。また、省エネルギー性能の向上など環境に配慮し時代の変化に応じた施設機能の向上を図る必要がある。

(c) 土曜地域ふれあい事業について

学校週5日制実施により始めた事業であるが、児童の習い事や家族で過ごす時間の増加などにより参加者が減少傾向にある。参加者を増やすために広報活動の工夫が必要である。また、ボランティア講師の高齢化が顕著となっているため新たな人材発掘が必要である。

(d) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育委員との連携事業「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」において、団体の活動の悩みや情報交換の場の提供をしているが、若い世代の会議への参加について、更なる働きかけが必要である。

(e) 生涯学習推進事業について

生涯学習情報は、冊子や団体紹介カードなどの活用や窓口での案内など情報提供に努めているが、学びたい市民と団体とをつなげる機能が弱い。

(f) 公民館の役割及び支援体制について

誰もが自由に学べる拠点として市民が求める多様な学習課題と時局の流れを的確に把握する必要がある。公民館で学んだことを地域に生かすということ、講座を通じ地域活動を活性化させることが公民館活動の目的のひとつであることから、その活動の場の提供や、活動の支援をするために、庁内や関係機関との連携を図ることが必要である。

(g) 市民会館・公民館の施設整備について

市民会館・公民館は昭和57年の開館以来39年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。市民に安全で快適な施設を提供するために、実施計画に基づき、大規模改修工事を行っている。今後は公共施設等総合管理計画における個別施設計画に基づき、改修計画の詳細を決めていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 生涯学習事業等について

新しい生活様式における生涯学習事業等のあり方について、ICTの活用も含め検討を進める。

(b) 市立会館管理運営事業について

昭島市公共施設総合管理計画の市立会館個別計画により各施設の特性に適した保全を実施し計画的な改修と維持管理に努めていく。

(c) 土曜地域ふれあい事業について

大学の協力により、大学生と子ども達がふれあう場として実施しているが、更に魅力のある事業となるよう検討していくとともに特別支援教室の児童にも参加を呼びかけるなど、引き続き参加者の拡大に努めていく。また、新たなボランティア講師確保に向け、広報活動を積極的に行っていく。

(d) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育関係団体の活動支援としてのパソコン講習会と「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」をとおして、団体活動におけるスキルアップと横のつながりをつくるための場の設置を進めていく。

(e) 生涯学習推進事業について

冊子による生涯学習の情報提供を継続するとともに、生涯学習サポーターの育成と活用を図り、学びたい市民と活動団体とをつなげるコーディネーターの設置を進めていく。また、サポーターの養成については、養成講座修了者の会まなぶんの活動を支援していく。

(f) 公民館の役割及び支援体制について

市民が求める多様な学習課題と時局の流れを把握するための情報収集を行うとともに、公民館の活動や役割について積極的な周知を行っていく。

また、市民の自主的な公民館活動を支え、地域での活動の場に関する情報を提供できるよう努めるとともに、庁内・関係機関との連携について引き続き検討していく。

(g) 市民会館・公民館施設整備について

公共施設等総合管理計画における個別施設計画に基づき、施設の長寿命化を図り、計画に沿った改修事業を進める。また、利用者へのサービス向上と、維持管理経費節減のため、管理運営の手法についても検討を行う。

主要施策 2 図書館活動

市民図書館は、市民生活に欠かすことのできない教育文化施設です。子どもの読書活動推進のための様々な事業、青少年の読書活動、図書館利用の推進及びあらゆる人に対応した読書環境への整備を進めます。

また、(仮称)教育福祉総合センターの中に中央図書館の建設が計画されており、図書館機能の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 図書館サービスの充実
- (2) 図書館資料の充実
- (3) 子どもの読書活動の支援
- (4) サービス網の整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	中央図書館の整備 【市民図書館 管理課】	中央図書館建設に向けて図書館機能の充実を図ります。	新しい図書館は貸出・返却、学習席等の利用に ICT を活用し、セルフサービス化を推進するとともに、自動化書庫の導入による省力化も実現し、利便性が高く効率的な運営が可能となりました。 また、ティーンズコーナーや屋外読書ひろば等の多彩な閲覧環境と個人学習席やグループ学習室、研究個室等の学習環境を備えました。 旧市民図書館閉館に伴い、東部地区の臨時窓口を玉川会館内に開設しました。
2-(1)	障害者用録音図書 のデジタル化 【市民図書館 管理課】	障害者用録音図書の安定供給や利便性の向上を図ります。	デージー図書（録音図書の CD 版）を 2 タイトル制作し、また、他の図書館からの借用を含め 389 タイトルを貸出しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(1)	図書館ボランティアの活用や市民図書館協議会との連携 【市民図書館管理課】	図書館ボランティア講習会を実施し、活躍の場を広げるとともに、市民図書館協議会との共催事業を企画するなど、市民が参画した図書館づくりに努めます。	音訳者講習会をオンラインで実施しました。
2-(2)	蔵書の充実 【市民図書館管理課】	市民の身近な課題解決を支援したり、ブックスタートに適したりする図書を中心に蔵書を充実させていきます。また、利用者のリクエストや社会ニーズを考慮した資料の整備に努めます。 さらに、児童・青少年を対象とした各種事業を行うとともに、児童図書の充実に努め、児童・青少年の図書館利用の促進を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・図書購入冊数 22,845 冊 ・多文化サービスの充実を図るため、中国語、ハングル語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語、英語などで記された図書を購入しました。 ・電子書籍サービスを開始しました。(3,912 タイトル)
2-(3)	第二次子ども読書活動推進計画の推進 【市民図書館管理課】	平成 24 年 3 月に策定した計画を学校等とともに連携をしながら実施します。	本計画は平成 28 年度をもって終了し、第三次子ども読書活動推進計画へ移行しました。引き続き第三次計画においても学校等と連携し、子ども読書活動の推進を図っています。
2-(3)	第三次子ども読書活動推進計画の策定及び実施 【市民図書館管理課】	第二次子ども読書活動推進計画の取り組み状況や国の計画などを参考に第三次子ども読書活動推進計画を策定し、子ども読書への関心を深める事業を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校 1 年生を対象に貸出券を交付しました。 ・おはなし会やものがたりライブなど、読書習慣の定着を促がす事業を実施しました。 ・交流ひろばを利用して季節展示を実施しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
2-(3)	学校図書館との連携 【市民図書館管理課】	小学校教育研究会との連携や職員の学校派遣を行い、連携を深めます。また、中学校の読書活動推進委員会と協働し、中学生の読書活動を推進します。	・小学校へ職員を派遣し、ブックトークを3回実施しました。 ・小学校及び中学校の司書教諭等を対象とした司書教諭等研修会は新型コロナウイルス感染拡大抑止のため中止となりました。 ・児童・生徒による図書館見学(1,139人)
2-(3)	中・高校生の読書フォーラム 【市民図書館管理課】	中・高校生の読書フォーラムを実施し、読書に関する興味・関心を深めます。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止し、代替として投票型のPOPバトルを実施しました。
2-(4)	移動図書館の実施 【市民図書館管理課】	図書館から遠い地域や身体的理由で図書館を利用できない方々のために、移動図書館「もくせい号」による利用サービスの向上を図ります。	従来市内13箇所のサービスステーションに加え、東中神駅南口駅前ロータリーステーションも新たにスタートし、延べ217回実施しました。
2-(4)	近隣他市の図書館との連携 【市民図書館管理課】	近隣他市の図書館との相互利用について模索し、市民の利便性を高めます。	現在、立川市、福生市、武蔵村山市、あきる野市との相互利用を継続しています。

【主な課題】

(a) 図書館利用の拡大について

新たな図書館の開館に伴い、より多くの市民に図書館の有用性を知ってもらい、図書館利用の拡大を図る必要がある。

(b) 図書館資料の充実について

市民の多様な目的に対応できるよう、様々な分野の資料を網羅した選書を行う必要がある。

(c) 子どもの読書活動の支援について

第三次子ども読書活動推進計画の目標達成に向け効果的な事業を実施するとともに、第三次計画が令和3年度で計画期間が終了するため、第四次の計画を策定する必要がある。

(d) 読書活動に対する学校支援について

子どもの読書力向上のために、学校と連携して団体貸出による学校図書館の支援、ブックトークなどの学校訪問、司書教諭研修など学校支援を充実する必要がある。

- (e) 高齢者への対応について
今後更に進む高齢化に対応し、高齢者にとっても利用価値の高い図書館となるよう、魅力的な事業展開が求められる。
- (f) 東部地区の図書館機能について
旧市民図書館の閉館に伴い、東部地区の図書館機能を有した施設の整備が必要である。

【今後の取組の方向性】

- (a) 図書館利用の拡大について
様々な年代に向けた啓発事業を実施することにより、図書館の魅力を発信するとともに、児童サービス、レファレンス等、図書館におけるサービスの充実をはかり利用者の拡大に努める。
- (b) 図書館資料の充実について
各分野を網羅した選書を心がけるとともに、多文化・多言語サービスの充実を図るため、外国語資料の収集に努める。
- (c) 子どもの読書活動の支援について
新型コロナウイルス感染症拡大防止に万全を期しつつ可能な範囲で様々な事業の実施を図るとともに、調べる学習コンクールへの積極的な参加を促す取り組みを行う。
また、第四次子ども読書活動推進計画を策定する。
- (d) 読書活動に対する学校支援について
団体貸出や学校を訪問してのブックトーク等の実施を継続するとともに、学校図書館運営において要となる司書教諭に対する研修会を実施する。
また、学校の要望を反映し、調べ学習に対応した資料の収集と提供に努める。
- (e) 高齢者への対応について
高齢者向けの図書館オリエンテーションを実施する等、図書館を身近な施設と捉えてもらうとともに、高齢者向けの資料の充実及び講演会等の催し物の実施に努める。
- (f) 東部地区の図書館機能について
東部地区の図書館機能の整備について、具体的な検討を進める。

主要施策 3 文化・芸術

昭島市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、市民の文化活動の振興を図るため、身近な場所での多様な芸術鑑賞の機会の提供、また、日常的な文化活動や発表の機会の提供を行い、市民の文化活動や教養を高め、感動や喜び、精神的な安らぎをもたらす心豊かにする文化芸術活動を推進します。

【施策の取組状況】

- (1) 市民文化の育成
- (2) 自主的な活動の支援
- (3) 文化芸術に関する意識の高揚
- (4) 文化芸術に接する機会の拡充
- (5) 文化芸術を担う人材の育成

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(1)	市民文化祭の実施 【公民館】	昭島市の文化の祭典として、多くの市民が日頃の文化活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として市民文化祭を実施します。	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。
3-(2)	文化・芸術活動団体への支援 【公民館】	自主的な文化芸術活動を行っている団体への活動場所の提供や発表の機会の拡充に努める。	文化芸術活動を行っている公民館登録団体に、公民館の使用料を免除し活動場所の提供をしました。また、発表の場として市民文化作品展（美術展・陶芸展）を4日実施しました。参加団体4団体。参加者延べ156人
3-(3)	文化芸術に関する講座・講演会の実施 【公民館】	日々の生活に潤いをもたらす文化芸術作品に触れ、豊かな感性を養えるよう関心と理解を高める講座・講演会等を実施します。	歴史文化セミナー 「妖怪にみる時代の変化」を実施しました。 全4回 参加者24人 シニア講座「己書流基礎講座」を実施しました。 ※応募者が多かったため、全4回の講座を2回実施しました。 参加者合計36人

番号	施策・事業名	概要	取組内容
3-(4)	市民会館自主文化事業の充実 【市民会館】	昭島市民会館文化事業協会を中心に質の高い多様な芸術・文化事業を実施し、市民文化活動の振興と地域文化の向上を目指します。	市民会館文化事業協会による、自主文化事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全事業中止としました。
3-(4)	公民館ふれあいコンサートの充実 【公民館】	市民のみなさんに身近な場所で芸術鑑賞の機会を提供します。	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止としました。
3-(5)	伝統芸能の後継者の育成 【社会教育課】	市民の共有の財産であり、将来の文化芸術の発展の基礎となる伝統芸能を保存・継承するための支援をします。	【文化財保存事業補助金】 ・拝島日吉神社祭礼囃子保存育成事業 120,000円 ・福島ばやし保存育成事業 60,000円

【主な課題】

(a) 文化芸術の振興について

昭島の文化芸術に関する施策は、現在、市長部局、教育委員会の各課が独自に実施している。「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」において課題となっている文化芸術の振興を計画的に推進していくため、市の各部課との調整と、民間団体との連携強化を検討中である。

(b) 文化芸術活動の推進について

公民館事業として市民文化に接する機会の拡充を検討する必要がある。また、ほぼ同時期に実施しているシニアグループ合同発表会と公民館まつりの在り方について検討が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) 文化芸術の振興について

平成22年に策定した「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」は対象期間を10年としていることから、市の文化芸術に関する施策を計画的に推進していくために、新たに「昭島市文化芸術推進計画」のを策定に努める必要がある。令和3年度より企画部が主体となり計画策定に向けて動き出すが、生涯学習部としても文化芸術の推進の場として、計画策定に向けて協力していく。

(b) 文化芸術活動の推進について

市民文化祭をはじめ、市民による自主的な文化芸術活動の発表の場を提供し、文化芸術の活動の推進を図るとともに、さらなる活動の促進のために文化芸術に関する情報の発信と、施設の限られたスペースを有効活用し、誰でも気軽に情報を得ることができるように検討をしていく。また、シニアグループ合同発表会と公民館まつりを集約し、文化芸術の更なる発展を図っていく。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 4 スポーツ・レクリエーション

健康志向の高まりにより、生涯にわたりスポーツに親しみ、個々のライフステージに応じたスポーツの楽しみ方が求められ、スポーツ・レクリエーションの種目も多様化しています。

こうした中で、市民が健やかでより豊かな生活を実現するため、「いつでも どこでも いつまでも」スポーツ・レクリエーションを親しむ地域スポーツ社会と市民の多様なニーズに取り組みます。

【施策の取組状況】

- (1) スポーツ振興計画の推進
- (2) スポーツライフの形成
- (3) スポーツ・レクリエーションの基盤整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	スポーツ振興計画の推進 【スポーツ振興課】	スポーツ振興計画の基本施策の実現に向けて着実に実施します。	スポーツ振興計画については、平成 28 年度に計画期間を満了し、検証結果を踏まえた上で、平成 28 年 3 月に新たにスポーツ推進計画を策定しました。
4-(1)	スポーツ推進計画の策定及び実施 【スポーツ振興課】	平成 23 年度に改正された「スポーツ基本法」に基づき、国の定めた「スポーツ基本計画」を参酌し、「昭島市スポーツ推進計画」を策定し、実施します。	平成 28 年 3 月に策定した昭島市スポーツ推進計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の 4 つの基本施策に基づき、気軽に参加できるスポーツプログラムの提供や、スポーツ団体への支援、スポーツ施設の改修やスポーツを通じた地域や学校との連携など、総合的に施策を推進しました。
4-(2)	チャレンジデーの実施 【スポーツ振興課】	市民のスポーツへの参加のきっかけづくりと健康づくりを図るため「チャレンジデー」を実施します。	平成 30 年度よりチャレンジデーからスポーツ週間へと変更しましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 予定期間 6 月 22 日から 28 日
4-(2)	各種スポーツ・レクリエーション教室の充実 【スポーツ振興課】	多様なニーズに応じたスポーツ・レクリエーション教室を開催し、スポーツをするきっかけづくりとともに健康づくりを支援します。	幅広い年齢層の参加者を対象とした教室を開催しました。 開催教室数 全 20 教室 参加者 延べ 2,318 人

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	市民体育大会 の実施 【スポーツ振興課】	競技スポーツとしての日頃の練習成果を発揮する場及びスポーツを通して、地域の交流を深め、活性化を図る機会を提供します。	種目別大会並びに自治会ブロック別運動会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。
4-(2)	スポーツによる市民 交流大会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、市民の健康づくりを図り、地域の交流と親睦を深める大会を実施します。	自治会対抗スポーツ大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 開催予定日 3月
4-(2)	気軽にスポーツを 親しむ事業の実施 【スポーツ振興課】	子どもから高齢者までが様々なスポーツを体験し、身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。	親子ふれあいスポーツデー並びにスポーツレクリエーションフェスティバルを予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 スポーツレクリエーションフェスティバル 開催予定日 6月28日
4-(2)	高齢者のためのス ポーツ大会の実施 【スポーツ振興課】	高齢者が生涯スポーツに親しみ、健康維持・増進を図るためのスポーツ大会を実施します。	シニア軟式野球大会を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 開催予定日 11月7日
4-(2)	新春駅伝競走大会 の実施 【スポーツ振興課】	「走る」ことによるスポーツの振興と健康づくり及び市民の交流を深める機会を提供します。	第66回の大会を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。 開催予定日 1月10日
4-(2)	スポーツ力向上 事業の充実 【スポーツ振興課】	競技力向上を目的として、トップアスリートなどを招き、専門的な指導を実施します。	昭島市体育協会の所属スポーツ団体にて実施しました。 実施団体 7団体 参加者 385人
4-(2)	スポーツ推進委員 によるスポーツ の推進 【スポーツ振興課】	各小学校区域にスポーツ推進委員を配置し、市民の健康づくりのためにスポーツの推進を図ります。	定例会時において、インドアペタンの体験会を実施し、ルール等を学びました。 市民健康づくり歩け歩け運動を予定しておりましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(2)	大会への選手・役員の派遣 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、近隣市等との交流を深めるとともに、競技力向上のために各種大会に選手・役員を派遣します。	都民体育大会などに昭島市代表として選手を派遣しました。 派遣大会数 2大会 派遣選手数 49人
4-(3)	指導者向け講習会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツ団体の指導員向けの各種講習会を実施することにより、さらなる競技力の向上を図ります。	指導者を対象に、上級救命講習会を実施しました。 参加者 12人
4-(3)	運動施設の整備 【スポーツ振興課】	市内各運動施設の適切な維持管理を図るとともに、利用者が安心して利用できる施設整備を行います。	老朽化が進む各スポーツ施設において、建物・機械設備など各種修繕を行いました。 令和元年の台風19号により被災した多摩川河川敷の運動施設の復旧工事を実施し、併せて駐車場を整備し、駐車台数を増加しました。 多摩川河川敷の移動式トイレの買替を行いました。
4-(3)	学校施設の活用 【スポーツ振興課】	学校教育の場である学校施設の運動施設を、夜間及び休日に、地域のスポーツ活動の場としての活用を図ります。	校庭夜間照明設備開放 ・つつじが丘小 利用者 1,129人 ・旧拝島第四小 利用者 426人 ・昭和中校庭 利用者 1,327人 ・昭和中テニスコート 利用者 232人 旧拝島第四小学校運動施設開放 校庭 590人 体育館 213人
4-(3)	スポーツ団体への支援 【スポーツ振興課】	各種スポーツ団体への支援に努めるとともに、組織化の推進及び活動の活性化を図ります。	スポーツ団体の普及及び競技力向上のため各団体に補助金を拠出しました。 団体数 7団体 補助金額 4,381,000円

【主な課題】

(a) 運動習慣の定着について

平成29年度までチャレンジデーを実施していたが、実施日が5月の最終水曜日に決められているため、参加しづらいとの意見もあり、改めて市民一人一人が個々の状況に応じて、継続的に運動やスポーツを行うことのきっかけを作る施策の検討が必要である。

(b) 国際的な大会の開催について

新型コロナウイルス感染症の影響により延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、市民のスポーツへの関心が高まる中、啓発活動の充実の検討が必要である。

(c) 運動施設の整備について

老朽化が進む各運動施設の修繕等の対策が必要である。また、新たに設置を予定している立川基地跡地内調節池の平常時利用の運動施設としての設置については、近年の気象状況に鑑み、残堀川から水が流入した場合の利用者の安全対策や、流入後の施設への影響等を再検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 運動習慣の定着について

新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント等の中止や、施設の閉館等により運動習慣の定着が難しい状況となってしまった。コロナ禍における新たな生活様式に沿った運動機会の提供や方策についても検討が必要となっており、新型コロナウイルス感染症の収束後に向け、事業の見直し等も必要となっている。

(b) 国際的な大会の開催について

新型コロナウイルス感染症の影響により延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、パラリンピック競技の更なる啓発活動や、ジュニア育成のため、競技団体と連携し競技力の向上を目指すとともに、市民の誰もがスポーツに親しむための機会の充実を図る。

(c) 運動施設の整備について

健康づくりとしての生涯スポーツの関心が高くなっている現状を踏まえ、より多くの市民に安全・安心なスポーツ環境を提供するため、老朽化が進む運動施設の計画的な修繕を昭島市公共施設等総合管理計画における個別計画により実施する。大規模改修工事として、総合スポーツセンターB棟・C棟については、令和3年度に設計、令和4年度に外壁等改修工事を予定している。

また、新たに設置する調節池の平常時利用の運動施設整備については、調節池に残堀川の水が流入するのは数年に一度と予測していたが、近年の気象状況においては、年に数回の可能性もあることから、施設利用者の安全対策、施設への流入時の影響等を調査し、運動施設の内容について再検討を行い、東京都等と調整を行う。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 5 文化財

文化財は、地域の伝統的な文化が結実したもので、昭島の歴史や文化の理解に必要な不可欠なものです。また、将来の地域づくりの核となるものとして、確実に次世代に継承していくことが大切です。

そこで、これらの文化遺産を後世に伝え、地域の文化遺産としての活用を図るため、その調査と保護・保存と活用を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 文化財の保護・保存
- (2) 文化財の活用

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	郷土資料室の展示 【社会教育課】	市内の遺跡から発掘された土器・石器類や古文書、農具等の民具を体系的に展示し、昭島の歴史や文化の理解を図ります。	アキシマエンシス国際交流教養文化棟に郷土資料室、校舎等に郷土資料展示室を開設 (6月9日開館) 来場者 延べ47,028人 (内訳) ・郷土資料室 46,079人 ・郷土資料展示室 949人
5-(1)	民具の調査・整理 【社会教育課】	現在では使用されなくなった民具は、先人の生活実態を知る手掛かりとして貴重な文化財です。その収集と保存に努めます。	民具調査整理補助作業員4名(会計年度任用職員)を雇用しアキシマエンシス校舎等3階及び旧拝島第四小学校内民具等の調査、整理、分類作業を実施しました。
5-(1)	埋蔵文化財の発掘調査 【社会教育課】	土木工事等により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の散逸を防ぐため、文化財保護法に基づき、諸手続きを確実に実施します。	埋蔵文化財発掘調査箇所 ・経塚下遺跡 (334.48㎡) ※宅地開発等に伴う遺跡範囲の確認調査

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	指定文化財の保護 【社会教育課】	国や都の指定文化財を保護・保存の支援を行うとともに、市指定文化財の保護・保存と活用を図るため助成事業などを継続します。	文化財保存事業補助金 ・文化財公開謝礼 17件 204,000円 ・木造大日如来坐像ほか2軀修理事業 1,780,000円 ・大日堂境域及び日吉神社境域防災事業 787,000円 ・中神の獅子舞花笠等新調事業 275,000円 ・熊野神社消防設備設置事業 275,000円 ・熊野神社畳入替事業 269,500円 ・山王祭礼図絵修復事業 271,000円 ・拝島日吉神社祭礼加美町屋台修理事業 1,072,000円 ・拝島日吉神社祭礼奈賀町屋台修理事業 4,409,000円
5-(2)	文化財ボランティアガイドの活用 【社会教育課】	文化財ボランティアガイドによる文化財めぐりの企画や郷土資料室の団体見学の解説など、活動の場の提供に努めます。	・浄土古墳清掃 (毎月1回実施) ・文化財ボランティア研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。
5-(2)	文化財めぐりの実施 【社会教育課】	郷土昭島の歴史を自らの目で確かめ、身近な文化遺産を通して郷土を知り、文化財保護に対する啓発を図るために実施します。	・拝島のフジ開花時史跡案内 ・文化財めぐり ・大日如来(金剛像)坐像特別公開時の文化財ボランティアによる大日堂・拝島公園周辺史跡説明 ・文化財講演会 以上すべての事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(2)	市史・文化財資料 図書の発刊・頒布 【社会教育課】	昭島市の歴史や文化財に関する資料を作成し、広く市民に周知します。	・あきしまの歴史散歩2020年版 1,000冊発刊 ・昭島市近代史調査報告書Ⅷ ～追跡！まぼろしの八高線 衝突事故～ 1,000冊発刊
5-(2)	郷土資料室企画 事業の充実 【社会教育課】	郷土資料室の企画による「まが玉づくり教室」の実施のほか、郷土の歴史や文化に親しむ機会の場の提供を図ります。また、アキシマクジラの化石の活用を検討します。	郷土資料室企画展 ・「みせてみせて！ むかしの商タイム展」 12月15日～1月11日 入場者数 3,223人 ・「アキシマクジラの絵と作文 募集・展示」 (対象：小学生以下) 応募者数 191人 展示 市民ギャラリー 2月1日～7日 ・まが玉づくり教室は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止しました。

【主な課題】

(a) 郷土資料室の展示について

旧郷土資料室展示品及び旧昭和中学校木造校舎に収蔵していた大量の民具や出土遺物をアキシマエンシス校舎棟へ移送したが、その整理と展示に向けた適切な管理が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) 郷土資料室の展示について

アキシマエンシス校舎棟保管室に民具、土器、遺物、化石などが集約できた一方、約2万点をこえる豊富な民具や土器、化石等を整理し、管理、利活用するため民具データベースとの照合や土器等のデータベース化が必要となる。

新たにアキシマエンシスに開設した郷土資料室、郷土資料展示室の恒常的な展示を避けるため、これらの収蔵資料を、分野ごとに特化した企画展示を実施するなど創意工夫をすることでリピーターの絶えない施設運営をし、文化財保護思想の普及、啓発を図りつつ、内外から人を呼び込む観光資源としての機能をもつ文化財発信拠点となるよう努めていく。

第4章 令和2年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者 アンケート」の調査結果（令和3年1月定例会で報告）

1 目的

児童・生徒及び保護者が、学校の教育活動についてどのような意見や要望をもっているかを把握し、学校評価等の資料に活用する。また、第2次昭島市教育振興基本計画の進捗状況について確認するための参考資料とする。

2 調査対象

○小学校第4～6学年の児童及びその保護者

○中学校第1～3学年の生徒及びその保護者

※保護者は、児童・生徒が複数在学している場合、児童・生徒数で回答

3 調査方法

保護者については、保護者用アンケート、児童・生徒については、校種ごとにアンケートを実施した。（令和2年11月実施）

4 回収数及び回収率

○小学校第4～6学年の児童	2 7 2 0名(96.4%)
○小学校第4～6学年の保護者	2 2 7 2名(80.5%)
○中学校第1～3学年の生徒	2 3 2 0名(92.8%)
○中学校第1～3学年の保護者	2 1 0 8名(84.3%)

1 確かな学力①

肯定的な回答(とてもわかりやすい、わかりやすい)をした児童は93%、生徒は87%である。
 ⇒各校で授業改善推進プランに基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組を更に進めていく。また、デジタル教科書やタブレットを効果的に活用し、児童・生徒にとってより分かりやすい授業を実現していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とてもわかりやすい	わかりやすい	わかりにくい	とてもわかりにくい	
児童	令和2 学校の授業はわかりやすいですか。 4=とてもわかりやすい 3=わかりやすい 2=わかりにくい 1=とてもわかりにくい	35%	58%	6%	1%	0%
	令和元 学校の授業はわかりやすいですか。	わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい	無回答
	令和元 4=わかりやすい 3=ややわかりやすい	52%	41%	6%	1%	0%
	平成30 2=ややわかりにくい 1=わかりにくい	53%	40%	6%	1%	0%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とてもわかりやすい	わかりやすい	わかりにくい	とてもわかりにくい	
生徒	令和2 学校の授業はわかりやすいですか。 4=とてもわかりやすい 3=わかりやすい 2=わかりにくい 1=とてもわかりにくい	21%	66%	11%	1%	1%
	令和元 学校の授業はわかりやすいですか。	わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい	無回答
	令和元 4=わかりやすい 3=ややわかりやすい	29%	56%	11%	3%	1%
	平成30 2=ややわかりにくい 1=わかりにくい	23%	60%	14%	3%	0%

1 確かな学力②

小学校では9%、中学校では24%の保護者が否定的(あまりそうは思わない、そうは思わない)な回答をしている。
 ⇒各校で授業改善の取組を更に進めていくとともに、保護者会や学校公開日等を通して、各校の学力向上に向けた取組を一層丁寧に保護者に伝えていく。

【小学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様に学力を身に付けさせていると思いますか。	30%	60%	8%	1%	1%

【中学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様に学力を身に付けさせていると思いますか。	17%	58%	21%	3%	1%

1 確かな学力③

89%の児童・生徒が、肯定的な回答(よく取り組んでいる、取り組んでいる)をしている。それに対し、保護者の肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は児童・生徒の肯定的な回答の割合よりも低く、小学校では13%、中学校では31%の保護者が否定的な回答をしている。
 ⇒各校で、意欲的に学習に取り組むことが難しい児童・生徒への指導、支援を更に進めていくとともに、家庭ともより一層連携して、児童・生徒の学習状況を把握する。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	
児童	授業に対して、進んで取り組んでいますか。 4=よく取り組んでいる 3=取り組んでいる 2=あまり取り組んでいない 1=取り組んでいない	32%	57%	10%	1%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様が意欲的に学習できるよう、授業を工夫していると思いますか。	26%	60%	12%	1%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく取り組んでいる	取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	
生徒	授業に対して、進んで取り組んでいますか。 4=よく取り組んでいる 3=取り組んでいる 2=あまり取り組んでいない 1=取り組んでいない	32%	57%	9%	2%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様が意欲的に学習できるよう、授業を工夫していると思いますか。	11%	56%	28%	3%	2%

1 確かな学力④

79%の児童、83%の生徒が、肯定的な回答(よく参加している、参加している)をしている。
 ⇒子ども同士、あるいは子どもと教員の対話を通じて、自己の考えを広げ深める対話的な学びが展開されており、各校の授業改善の成果が表れている。今後も各校で、対話的な学習に取り組むことが難しい児童・生徒への支援、指導を更に進めていく。

【小学校】

	質問事項	よく参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答
		児童	授業中、子ども同士で話し合う時間や、意見などを発表する時間に、すすんで参加していますか。 4=よく参加している 3=参加している 2=あまり参加していない 1=参加していない	34%	45%	

【中学校】

	質問事項	よく参加している	参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答
		生徒	授業中、子ども同士で話し合う時間や、意見などを発表する時間に、すすんで参加していますか。 4=よく参加している 3=参加している 2=あまり参加していない 1=参加していない	36%	47%	

1 確かな学力⑤

小学校では74%の児童、中学校では62%の生徒が、放課後に1日平均、2時間未満勉強していると回答している。また、家庭学習の習慣について、小学校では66%の保護者、中学校では50%の保護者が学習習慣が身に付いている(そう思う、だいたいそう思う)と回答している。
 ⇒各校において、児童・生徒の望ましい学習習慣を確立するために、各教科等において計画表の作成や実際の取組に対する振り返りの実施、他者の家庭学習の方法について知り、自分の家庭学習を見直す活動などを行う。また、学習習慣の確立のためには基本的な生活習慣の確立が重要であることから、「グッドモーニング60分」を活用した朝の生活習慣の見直し、改善も行う。また、保護者に対しては、各学校が、保護者が考える学習習慣を踏まえた上で、家庭での効率的な学習の方法などについて保護者会で伝えていく。

【小学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	
児童	放課後に1日平均、何時間勉強していますか。						
	5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満	5%	5%	15%	40%	34%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない		無回答
保護者	お子様は、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	24%	42%	27%	7%		0%

【中学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	
生徒	放課後に1日平均、何時間勉強していますか。						
	5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満	4%	10%	23%	34%	28%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない		無回答
保護者	お子様は、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	17%	33%	32%	18%		0%

1 確かな学力⑥

小学校では61%の児童、中学校では74%の生徒が、放課後の読書時間について1日平均1時間未満と回答している。また、保護者についても、小学校では68%の保護者、中学校では77%の保護者が否定的な回答(あまりそうは思わない、そうは思わない)をしている。
 ⇒各校で、継続して朝読書等の時間を活用した児童・生徒の読書時間を確保するとともに、学校図書館等の活用をより一層推進して、本に慣れ親しみ読書を習慣化させる取組を推進していく。

【小学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	
児童	放課後に1日平均、何時間読書をしていますか。						
	5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満	3%	4%	9%	21%	61%	2%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない		無回答
保護者	お子様は、毎日読書していると思いますか。	12%	19%	33%	35%		1%

【中学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	
生徒	放課後に1日平均、何時間読書をしていますか。						
	5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満	3%	2%	5%	15%	74%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない		無回答
保護者	お子様は、毎日読書していると思いますか。	8%	15%	31%	46%		0%

2 豊かな心①

肯定的な回答(とても思う、思う)をした児童は95%、生徒は93%となっている。保護者についても肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校が92%、中学校では80%となっている。
 ⇒各校における、人権教育を中心とした「自他ともに大切に作る心」の醸成に向けた取組の成果が表れている。今後も、各校で継続して、自分の大切さとともに他の人の大切さも認められる児童・生徒を育成する人権教育の充実を図っていく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
児童	自分や友達を大切にしていると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	52%	43%	4%	1%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様に関心を持って自分や友達を大切に作る心を育てていると思いますか。	36%	56%	7%	1%	0%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
生徒	自分や友達を大切にしていると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	50%	43%	6%	1%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校は、お子様に関心を持って自分や友達を大切に作る心を育てていると思いますか。	22%	58%	18%	1%	1%

2 豊かな心②

肯定的な回答(とても思う、思う)をした児童は87%、生徒は91%である。保護者についても肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合が約90%となっている。
 ⇒各校における道徳教育を中心とした「思いやりの心」の醸成に向けた取組の成果が表れている。今後も、道徳科や特別活動を中心に教育活動全体を通して思いやりについて考えたり、行動したりする場面を意図的・計画的に設けていく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答	
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない		
児童	令和2 思いやりの心を持って行動していると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	31%	56%	12%	1%	0%	
	あなたは、思いやりの心をもって行動していますか。 4=行動している 3=だいたい行動している 2=あまり行動していない 1=行動していない	行動している	だいたい行 動している	あまり行動 していない	行動して いない	無回答	
		令和元	39%	49%	9%	2%	1%
		平成30	40%	51%	8%	1%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答	
保護者	令和2 お子様は、思いやりの心を持って行動している様子が見られますか。	36%	56%	7%	0%	1%	

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答	
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない		
生徒	令和2 思いやりの心を持って行動していると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	35%	56%	8%	1%	0%	
	あなたは、思いやりの心をもって行動していますか。 4=行動している 3=だいたい行動している 2=あまり行動していない 1=行動していない	行動している	だいたい行 動している	あまり行動 していない	行動して いない	無回答	
		令和元	42%	50%	6%	2%	0%
		平成30	36%	55%	7%	2%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答	
保護者	令和2 お子様は、思いやりの心を持って行動している様子が見られますか。	33%	58%	7%	1%	1%	

2 豊かな心③

肯定的な回答(とても思う、思う)をした児童は84%、生徒は81%である。保護者についても肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合が80%を超えている。
 ⇒男女の別なく接することができる児童・生徒の育成及び男女共同参画社会の実現に向けて、今後も各校で人権教育や性教育をより一層推進していく。

【小学校】

		質問事項	4	3	2	1	無回答
			とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
児童	令和2	男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	44%	40%	13%	3%	0%
		あなたは、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していますか。	接している	ほぼ接している	あまり接していない	接していない	無回答
	令和元 平成30	4=接している 3=ほぼ接している 2=あまり接していない 1=接していない	49% 49%	38% 37%	11% 11%	2% 3%	0% 0%
		質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2	お子様は、男女の性別に関係なく、接することができますか。	43%	46%	9%	1%	1%

【中学校】

		質問事項	4	3	2	1	無回答
			とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
生徒	令和2	男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していると思いますか。 4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない	37%	44%	15%	4%	0%
		あなたは、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していますか。	接している	ほぼ接している	あまり接していない	接していない	無回答
	令和元 平成30	4=接している 3=ほぼ接している 2=あまり接していない 1=接していない	44% 44%	39% 38%	12% 14%	4% 3%	1% 1%
		質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2	お子様は、男女の性別に関係なく、接することができますか。	34%	48%	16%	2%	0%

2 豊かな心④

肯定的な回答(できている、だいたいできている)をした児童は89%、生徒は90%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)は、小学校が84%、中学校が77%となっている。
 ⇒各校において、全ての児童・生徒にやさしい学校・学級の実現に向けて「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」の効果的な活用並びに学級満足度調査の分析結果及び心理士によるフィードバックを活用し、児童・生徒が安心して過ごせる学級経営及び個に寄り添った対応を行う。また、継続して、気持ちが不安定な児童・生徒や不登校傾向にある児童・生徒に対しても、教育支援室の活用やフリースクールとの連携など気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	
児童	令和2 学校で落ち着いて安心して生活できていますか。 4=できている 3=だいたいできている 2=あまりできていない 1=できていない	50%	39%	8%	3%	0%
	令和元 あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。 4=できている 3=だいたいできている 平成30 2=あまりできていない 1=できていない	48%	38%	10%	3%	1%
		49%	39%	9%	3%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 学校は、お子様の気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていると思いますか。	25%	59%	13%	2%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない	
生徒	令和2 学校で落ち着いて安心して生活できていますか。 4=できている 3=だいたいできている 2=あまりできていない 1=できていない	49%	41%	8%	2%	0%
	令和元 あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。 4=できている 3=だいたいできている 平成30 2=あまりできていない 1=できていない	43%	46%	8%	3%	0%
		41%	45%	11%	3%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 学校は、お子様の気持ちが安定するように配慮した心の居場所づくりに努めていると思いますか。	15%	62%	18%	3%	2%

2 豊かな心⑤

肯定的な回答(楽しく過ごしている、ほぼ楽しく過ごしている)をした児童・生徒は90%である。保護者についても肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合が約90%である。
 ⇒今後も児童・生徒が楽しく学校生活を送れるように教育活動を充実させるとともに、楽しく学校生活を送れているかどうか、児童・生徒の日常の様子を学校全体で見守り、教員間で児童・生徒の情報共有を密に行う。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答	
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない		
児童	令和2 楽しく学校生活を過ごしていますか。 4=楽しく過ごしている 3=ほぼ楽しく過ごしている 2=あまり楽しく過ごしていない 1=楽しく過ごしていない	55%	35%	7%	3%	0%	
	あなたは、楽しく学校生活を過ごしていますか。 4=楽しく過ごしている 3=ほぼ楽しく過ごしている 2=あまり楽しく過ごしていない 1=楽しく過ごしていない	楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答	
		令和元	55%	34%	8%	2%	1%
		平成30	57%	31%	10%	2%	0%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答	
保護者	令和2 お子様は、楽しく学校生活を送っていると思いますか。	47%	44%	6%	2%	1%	

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答	
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない		
生徒	令和2 楽しく学校生活を過ごしていますか。 4=楽しく過ごしている 3=ほぼ楽しく過ごしている 2=あまり楽しく過ごしていない 1=楽しく過ごしていない	54%	36%	8%	2%	0%	
	あなたは、楽しく学校生活を過ごしていますか。 4=楽しく過ごしている 3=ほぼ楽しく過ごしている 2=あまり楽しく過ごしていない 1=楽しく過ごしていない	楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない	無回答	
		令和元	53%	34%	8%	4%	1%
		平成30	51%	36%	8%	4%	1%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答	
保護者	令和2 お子様は、楽しく学校生活を送っていると思いますか。	37%	51%	9%	2%	1%	

2 豊かな心⑥

困ったことがあったら、相談してみようと思う大人がいると回答した児童の割合は84%であり、生徒の割合は78%である。一方で、「いない」と回答した児童の割合は15%であり、生徒の割合は21%である。また、学校に相談できる先生がいる(そう思う、だいたいそう思う)と答えた保護者の割合は小学校では77%、中学校では67%である。
 ⇒悩みや不安を抱えた児童・生徒が大人に相談できるように、今後も各校が「SOSの出し方に関する教育」を確実に実施していく。また、配慮を要する児童・生徒に対しては、教員がより積極的に声を掛けるなど、児童・生徒、保護者とのより一層の信頼関係を構築していく。

【小学校】

	質問事項	3	2	1		無回答
		2人以上いる	1人いる	いない		
児童	令和2 困ったことがあったら、相談してみようと思う大人はいいますか。 3=2人以上いる 2=1人いる 1=いない	60%	24%	15%		1%
	学校に相談できる先生がいますか。	2人以上いる	1人いる	いない		無回答
	令和元 平成30 3=2人以上いる 2=1人いる 1=いない	52%	32%	14%		2%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様のことで、何か困ったときに、学校に相談できる先生がいますか。	33%	44%	17%	5%	1%

【中学校】

	質問事項	3	2	1		無回答
		2人以上いる	1人いる	いない		
生徒	令和2 困ったことがあったら、相談してみようと思う大人はいいますか。 3=2人以上いる 2=1人いる 1=いない	52%	26%	21%		1%
	学校に相談できる先生がいますか。	2人以上いる	1人いる	いない		無回答
	令和元 平成30 3=2人以上いる 2=1人いる 1=いない	41%	30%	27%		2%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様のことで、何か困ったときに、学校に相談できる先生がいますか。	21%	46%	23%	9%	1%

3 輝く未来①

肯定的な回答(ある、時々ある)をした児童は80%、生徒は77%である。
 ⇒各校のキャリア教育において、自己理解を深める学習や自分の生き方について考える学習をより一層推進する。また、児童・生徒が学習等で達成感を味わえるようにするなど、より一層、自己肯定感を高めるために、褒める機会を増やしたり個に応じた課題を与えたりするなどの取組を推進していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
児童	令和2 「自分の得意なことは何か」「自分に向いていることは何か」について考えることがありますか。	41%	39%	14%	6%	0%
	令和元 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	49%	35%	12%	4%	0%
	平成30	47%	35%	12%	6%	0%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
生徒	令和2 「自分の得意なことは何か」「自分に向いていることは何か」について考えることがありますか。	36%	41%	16%	7%	0%
	令和元 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	30%	45%	18%	7%	0%
	平成30	32%	44%	18%	6%	0%

3 輝く未来②

「学校が将来の生き方や夢について考える機会を提供しているかどうか」について、保護者の肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校が67%、中学校が61%である。
 ⇒各校で、保護者会や学校公開日、三者面談等を通して、各校のキャリア教育の取組を更に丁寧に保護者に伝えていく。また、学校便り等でも各校のキャリア教育の取組について紹介していく。

【小学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
		保護者	学校は、お子様に将来の生き方や夢について考える機会を提供していると思いますか。	14%	53%	

【中学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
		保護者	学校は、お子様に将来の生き方や夢について考える機会を提供していると思いますか。	10%	51%	

3 輝く未来③

「学校から提供される進路に関する資料・情報は、役立つかどうか」について、保護者の肯定的な回答（そう思う、だいたいそう思う）の割合は小学校が48%、中学校が60%である。
 ⇒保護者会や三者面談等を通して保護者と進路について考える時間を共有するとともに、保護者にとって有益な進路やキャリア形成に関わる資料の提供や情報発信を行っていく。また、小学校においては進路指導について分かりやすく保護者に説明する機会を確保する。

【小学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校からお子様提供される進路に関する資料・情報は、役立ちますか。	8%	40%	42%	8%	2%

【中学校】

	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校からお子様提供される進路に関する資料・情報は、役立ちますか。	10%	50%	31%	6%	3%

3 輝く未来④

肯定的な回答（ある、時々ある）をした児童は80%、生徒は76%である。保護者については肯定的な回答（そう思う、だいたいそう思う）の割合は小学校が51%、中学校が58%である。
 ⇒各校で、児童・生徒が自らの生き方を考え、主体的に進路を選択できるように、より一層キャリア教育を充実させるとともに、保護者会や学校公開日等を通して、自分を知る学習や上級学校調べ、職場調べ、職場体験等の取組、次の学年に向けた心構えや目標をつくる取組等各校のキャリア教育の取組を更に丁寧に保護者に伝えていく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
児童	令和2 自分の将来について考えることがありますか。	45%	35%	13%	7%	0%
	令和元 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	48%	31%	13%	7%	1%
	平成30	50%	30%	13%	7%	0%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、自分の将来や進路について考えていると思いますか。	15%	36%	39%	9%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
生徒	令和2 自分の将来について考えることがありますか。	39%	37%	18%	6%	0%
	令和元 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	45%	34%	14%	6%	1%
	平成30	43%	35%	15%	6%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、自分の将来や進路について考えていると思いますか。	18%	40%	33%	9%	0%

3 輝く未来⑤

87%の児童・生徒が肯定的な回答(とても思う、思う)をしている。
 ⇒各校において、学習や生活の振り返りを丁寧に行い、児童・生徒が生活をより良く改善していけるように指導を行っている成果である。今後もキャリア・パスポートの活用などによる生活の振り返りや目標の設定等、一人一人のキャリア形成と自己実現に向けた活動を推進していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
児童	これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思えますか。	37%	50%	11%	2%	0%
	4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない					

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		とても思う	思う	あまり思わない	思わない	
生徒	これまでの自分の生活を振り返り、よりよくしようと思えますか。	34%	53%	10%	3%	0%
	4=とても思う 3=思う 2=あまり思わない 1=思わない					

3 輝く未来⑥

肯定的な回答(ある、時々ある)をした児童は59%、生徒は58%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校、中学校共に61%である。
 ⇒各校で、学級活動等をはじめとして教育活動全体を通して、将来について自分以外の人と対話する機会をより一層つくっていく。また、児童・生徒が自分の将来について家族と話し合い、考える機会をつくるように、保護者会等を通じて保護者からの働き掛けについて啓発していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
児童	令和2 自分以外の人と、自分の将来について話をすることがありますか。 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	25%	34%	25%	16%	0%
	令和元 家族と自分の将来について考えることがありますか。 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	32%	32%	22%	13%	1%
	平成30	33%	30%	22%	14%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、家庭で将来について話をしますか。	21%	40%	31%	7%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		ある	時々ある	あまりない	ない	
生徒	令和2 自分以外の人と、自分の将来について話をすることがありますか。 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	22%	36%	29%	13%	0%
	令和元 家族と自分の将来について考えることがありますか。 4=ある 3=時々ある 2=あまりない 1=ない	34%	34%	21%	10%	1%
	平成30	32%	35%	21%	11%	1%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、家庭で将来について話をしますか。	22%	39%	30%	9%	0%

4 たくましい体①

肯定的な回答(たくさんしている、している)をした児童は81%、生徒は68%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校では75%、中学校では67%である。
 ⇒小学校に比べて中学校では肯定的な回答の割合が低くなっている。中学校では、部活動等で日常的に運動を行っていない生徒の運動量が少なくなっている可能性もある。新型コロナウイルス感染症対策により、児童・生徒が体を動かす時間が減少していることも踏まえ、各校において「元気アップガイドブック」等を効果的に活用しながら、日常的な体力向上の取組を更に推進していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		たくさんしている	している	あまりしていない	していない	
児童	学校で、遊んだり体を動かしたりしていますか。	47%	34%	16%	3%	0%
	4=たくさんしている 3=している 2=あまりしていない 1=していない					
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校の体力向上の取組について、満足していますか。	18%	57%	21%	3%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		たくさんしている	している	あまりしていない	していない	
生徒	学校で、遊んだり体を動かしたりしていますか。	33%	35%	22%	10%	0%
	4=たくさんしている 3=している 2=あまりしていない 1=していない					
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	学校の体力向上の取組について、満足していますか。	12%	55%	27%	5%	1%

4 たくましい体②

肯定的な回答(よく生かしている、生かしている)をした児童は82%、生徒は72%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校では80%、中学校では70%である。
 ⇒各校で今後も安全や健康についての指導を安全指導日や体育科(保健体育科)の学習を中心に計画的に実施する。また、児童生徒が学習した内容を生かして、安全で健康な生活を送ることができるように、各校の取組の改善を図っていく。また、保護者に対し、保健便り等で学校の取組を啓発していく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく生か している	生かしている	あまり生か していない	生かして いない	
児童	学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていますか。	29%	53%	15%	2%	1%
	4=よく生かしている 3=生かしている 2=あまり生かしていない 1=生かしていない					
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	お子様は、授業などで学んだ安全や健康についての知識を日常の生活の中で生かしていると思いますか。	22%	58%	18%	1%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく生か している	生かしている	あまり生か していない	生かして いない	
生徒	学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中で生かしていますか。	21%	51%	22%	6%	0%
	4=よく生かしている 3=生かしている 2=あまり生かしていない 1=生かしていない					
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	お子様は、授業などで学んだ安全や健康についての知識を日常の生活の中で生かしていると思いますか。	13%	57%	25%	4%	1%

4 たくましい体③

肯定的な回答(よく生かしている、生かしている)をした児童は70%、生徒は57%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校では63%、中学校では55%である。
 ⇒中学校の保護者の肯定的な回答の割合が特に低くなっており、各校においては、より多くの生徒が学習したことを食生活に生かしていけるようにするために、取組の改善を図っていく。また、継続して家庭科や保健体育科の学習、給食の時間、お弁当の日の取組等を活用して、食育指導の充実を図り、より良い生活習慣の確立を図っていく。

【小学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく生かしている	生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	
児童	令和2 学校で学んだ食事や栄養についての知識を生活の中で生かしていますか。	23%	47%	25%	4%	1%
	令和元 4=よく生かしている 3=生かしている	30%	44%	19%	6%	1%
	平成30 2=あまり生かしていない 1=生かしていない	33%	42%	19%	5%	1%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、授業などで学んだ正しい食事の在り方についての知識を日常の食生活の中に生かしていると思いますか。	15%	48%	31%	5%	1%

【中学校】

	質問事項	4	3	2	1	無回答
		よく生かしている	生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	
生徒	令和2 学校で学んだ食事や栄養についての知識を生活の中で生かしていますか。	15%	42%	32%	10%	1%
	令和元 4=よく生かしている 3=生かしている	20%	39%	29%	11%	1%
	平成30 2=あまり生かしていない 1=生かしていない	19%	41%	30%	10%	0%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	令和2 お子様は、授業などで学んだ正しい食事の在り方についての知識を日常の食生活の中に生かしていると思いますか。	9%	46%	37%	7%	1%

その他1-①

放課後の過ごし方について、小学校においては、塾や習い事、宿題や勉強がそれぞれ20%以上であり、中学校においては塾や習い事、宿題や勉強に加え、部活動がそれぞれ20%以上である。
 ⇒多くの児童・生徒が放課後、多様な活動を行い、有意義な時間を過ごしている。各校においては、学習と運動、あるいは学習と部活動の両立等、放課後の有意義な時間の使い方について、一人一人のキャリア形成や自己実現の視点も踏まえながら、継続的に指導していく。

【小学校】

	質問事項	部活動	塾、習い事	宿題、勉強 (自習)	読書	友達と遊ぶ	その他	無回答
児童	放課後は、どのように過ごしていますか。 5=部活動 4=塾、習い事 3=宿題、勉強(自習) 2=読書 1=友達と遊ぶ 0=その他 (2つ以上答えてもかまいません)	2%	22%	25%	11%	24%	13%	3%

【中学校】

	質問事項	部活動	塾、習い事	宿題、勉強 (自習)	読書	友達と遊ぶ	その他	無回答
生徒	放課後は、どのように過ごしていますか。 5=部活動 4=塾、習い事 3=宿題、勉強(自習) 2=読書 1=友達と遊ぶ 0=その他 (2つ以上答えてもかまいません)	21%	24%	21%	6%	14%	14%	0%

その他2-①

自分専用のスマートフォンやタブレットを持っている児童は67%、生徒は90%であった。使用時間については小学校では2時間未満が全体の70%を占め、中学校では2時間以上が全体の63%を占めている。
 ⇒小学校、中学校ともに所持率は高いと言える。また、中学生になると小学生の時と比べ、使用時間も長くなっている。各校において、安全教育年間指導計画に基づいた安全教育をより一層推進するとともに、小学校低学年の段階から継続的に視力の低下防止や姿勢の保持等、健康面とも関連付けた利用に関する注意事項やインターネット利用時の留意事項に関する指導を行っていく。

【小学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	0	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	もっていない	
児童	自分専用のスマートフォンやタブレット等は1日平均、何時間使いますか。 5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満 0=もっていない	9%	7%	12%	19%	20%	31%	2%

【中学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	0	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	もっていない	
生徒	自分専用のスマートフォンやタブレット等は1日平均、何時間使いますか。 5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満 0=もっていない	22%	17%	24%	18%	9%	9%	1%

その他2-②

使用時間について、小学校では家族がスマートフォンやタブレットを持っている児童のうち、2時間未満の使用が全体の61%を占め、中学校では持っている生徒のうち、2時間未満の使用が全体の46%を占めている。
 ⇒家族が持っているスマートフォンやタブレットを使用している児童・生徒の割合は高いと言える。今後、各校においてSNSの使用ルールについて、より丁寧に指導するとともに、家庭においても、SNS家庭ルールに基づいた使用をしていくよう保護者に対して啓発をしていく。また、各校において、スマートフォンやタブレット等の長時間使用による健康被害や生活習慣への影響についても、体育科(保健体育科)を中心に学習を深めていく。

【小学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	0	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	もっていない	
児童	家族が持っているスマートフォンやタブレット等は1日平均、何時間使いますか。 5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満 0=もっていない	4%	5%	8%	16%	45%	20%	2%

【中学校】

	質問事項	5	4	3	2	1	0	無回答
		4時間以上	4時間未満	3時間未満	2時間未満	1時間未満	もっていない	
生徒	家族が持っているスマートフォンやタブレット等は1日平均、何時間使いますか。 5=4時間以上 4=4時間未満 3=3時間未満 2=2時間未満 1=1時間未満 0=もっていない	6%	4%	7%	9%	37%	23%	14%

その他2-③

利用率が高かったアプリは小学校については、ユーチューブが29%、ゲームアプリが27%であった。中学校については、ラインが21%、ユーチューブが21%であった。
 ⇒各校において、SNSを適切に使用するための基本的な考え方や態度を身に付けさせるとともに、SNS上で発生するトラブルを回避するための情報モラルについての教育をより一層推進していく。また、今後も、SNS東京ノート等を活用した授業を継続して行っていく。

【小学校】

	質問事項	7	6	5	4	3	2	1	0	無回答
		ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	インスタグラム	ティックトック	フェイスブック	その他	
児童	次のアプリのうち、使っているものはどれですか。 7=ライン 6=ゲームアプリ 5=ユーチューブ 4=ツイッター 3=インスタグラム 2=ティックトック 1=フェイスブック 0=その他 (2つ以上、答えても構いません)	15%	27%	29%	4%	3%	8%	1%	12%	1%

【中学校】

	質問事項	7	6	5	4	3	2	1	0	無回答
		ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	インスタグラム	ティックトック	フェイスブック	その他	
生徒	次のアプリのうち、使っているものはどれですか。 7=ライン 6=ゲームアプリ 5=ユーチューブ 4=ツイッター 3=インスタグラム 2=ティックトック 1=フェイスブック 0=その他 (2つ以上、答えても構いません)	21%	18%	21%	9%	11%	11%	2%	7%	0%

その他2-④

「決めている」、または「話し合い中」と回答した児童は77%、生徒は66%である。保護者については肯定的な回答（そう思う、だいたいそう思う）の割合は小学校では73%、中学校では66%である。
 ⇒各校において、SNS東京ノート等を活用し、情報モラルやSNS東京ルールについて継続して指導していく。また、保護者に対しても保護者会や三者面談等を通じて、SNS家庭ルールを必ずつくり、そのルールに沿った使用をさせるように促していく。

【小学校】

		3	2	1		無回答
		決めている	話し合い中	決めていない		
児童	スマートフォンやインターネットを使うときは、家庭でルールを決めていますか。 3=決めている 2=話し合い中 1=決めていない	71%	6%	21%		2%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	お子様が、家庭でスマートフォンやインターネットを使うときは、ルールを守らせていますか。	27%	46%	18%	4%	5%

【中学校】

		3	2	1		無回答
		決めている	話し合い中	決めていない		
生徒	スマートフォンやインターネットを使うときは、家庭でルールを決めていますか。 3=決めている 2=話し合い中 1=決めていない	56%	10%	31%		3%
	質問事項	そう思う	だいたい そう思う	あまりそうは 思わない	そうは 思わない	無回答
保護者	お子様が、家庭でスマートフォンやインターネットを使うときは、ルールを守らせていますか。	18%	48%	26%	7%	1%

その他2-⑤

肯定的な回答(とてもよく生かしている、生かしている)をした児童は76%、生徒は70%である。保護者については肯定的な回答(そう思う、だいたいそう思う)の割合は小学校、中学校ともに63%である。
 ⇒SNSを使う際のルールは全ての人が守らなければならないものであり、肯定的な回答の割合が決して高いとは言えない。今後も各校において継続して、SNSのルールについて、具体的な事例を挙げながら指導を行い、児童・生徒が日常生活に生かせるようにしていく。

【小学校】

	質問事項	とてもよく生かしている	生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
児童	学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていますか。 4=とてもよく生かしている 3=生かしている 2=あまり生かしていない 1=生かしていない	28%	48%	15%	7%	2%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	お子様は、学校で学んだスマートフォンやインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていると思いますか。	19%	44%	27%	5%	5%

【中学校】

	質問事項	とてもよく生かしている	生かしている	あまり生かしていない	生かしていない	無回答
生徒	学校で学んだインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていますか。 4=とてもよく生かしている 3=生かしている 2=あまり生かしていない 1=生かしていない	19%	51%	19%	9%	2%
	質問事項	そう思う	だいたいそう思う	あまりそうは思わない	そうは思わない	無回答
保護者	お子様は、学校で学んだスマートフォンやインターネットを使うときのルールを、生活の中で生かしていると思いますか。	12%	51%	27%	9%	1%

第5章 令和2年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれぞれに対する実績について

令和2年度

昭島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子	ビジョン 【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】
--------	----------------------------------	---

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	自己の課題を意識し、「めあてをもたせる、実現への意欲を高める、努力の過程を認める、めあて達成の支援・援助をする」このサイクルの中で、学ぶ楽しさを実感させることのできる日常的な指導の実践	基礎的・基本的な内容の確実な定着	UDを意識し、授業で姿勢よく字を丁寧に書かせ、補習・漢検等、効果的に実施する。	4 児童の補習参加への呼びかけ・出席率100%	2
				3 0.75	
				2 0.5	
		授業改善及び授業力の向上(校内研究の充実・研究指定校としての取組)	改善推進プランを作成し、週案に基づく授業を実施し、校内研で授業力向上を目指す。	4 週案への記述・提出率100%	4
				3 0.9	
				2 0.8	
		思考力・判断力・表現力の育成	校内研究の成果を生かしながら、1～6年までの算数習熟度別指導の充実を図る。	4 児童の表現への意欲・発言率100%	3
				3 0.8	
				2 0.6	
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いながら、子どもの内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと特別の教科「道徳」としての改善・充実	教科としての授業改善を進め、道徳授業地区公開講座での内容の充実を目指す。	4 毎週の授業実践・略案の作成100%	4
				3 0.75	
				2 0.5	
		トライ&チャレンジふれあい月間の取組の推進	毎学期のアンケートを生かし、SCとも連携しながら、いじめ・不登校0を目指す。	4 アンケート実施後の個別対応100%	4
				3 0.95	
				2 0.9	
		運動会や学芸会等の学校行事、遠足や移動教室等の校外学習の充実	前例踏襲とならないよう反省を生かしながら、児童の実態に合った内容に改善する。	4 反省に基づく改善案の提案3点以上	4
				3 2点	
				2 1点	
健やかな体	様々な運動を体験させ、その特性にふれた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	休み時間の外遊びを奨励し、運動に親しみやすい環境整備を行う。	4 毎週子どもたちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上	3
				3 2回	
				2 1回	
		年間を通した体力の向上(元気アップガイドブックの活用)	東ンピックの継続により、日常的に運動に親しみ、心身ともに健康な児童を育成する。	4 年間で楽しい種目の開発3点以上	2
				3 2点	
				2 1点	
		食育の充実	ランチルームを活用し、栄養教諭や共同調理場と連携しながら食育の推進を図る。	4 年間で食育に関する授業の実施3回以上	4
				3 2回	
				2 1回	
輝く未来	人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指した、生涯教育の基盤づくりとなる学校教育の推進	ソーシャルスキル教育の充実	年2回のQUの活用で一人一人の良さを生かし、やる気とまとまりのある学級集団作りを目指す。	4 毎週の学級活動等での実践100%	3
				3 0.75	
				2 0.5	
		オリンピック・パラリンピック教育の実践	競技種目や選手に注目させるとともに、人とかかわりや多文化理解・交流を進める。	4 オリパラに関する授業3回以上	3
				3 2回	
				2 1回	
		外国語教育の推進	外国語の研修を積極的に行い、ALTと協力しながら楽しい外国語教育を実践する。	4 年間で外国語の公開授業3回以上	1
				3 2回	
				2 1回	

令和3年5月定例会で報告

年度末評価【総括表】

○子どもにとって安全安心で、誰もが自慢できる学校	○家庭・地域とともにある学校	○教職員にとって魅力的で、働きがいのある学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子ども	○心身ともに健康で、活力のある子ども
○人権感覚を磨き、子どもを大切にする教師	○常に向上心をもち、指導力向上に努める教師	○公務員としての自覚をもち、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 6年全国学力調査基礎正答率+5%以上(都平均)	2	都や全国の学力テストが中止され、6年生を対象に全国学力テストを校内で行った。土曜補習の出席率は高いが、水曜日の出席率も上がった。	休業期間から開始への移行がスムーズに完了して、その後の授業も大きな支障なく行へ多様で良かった。やはり対面で行う授業の大切さを痛感する。	B	国語・算数はさらに基礎・基本の徹底を図る。読書活動に力を入れ、特に課題となっている国語の言語指導に力を入れ、学力向上を目指す。
3 国語+3.5%・算数+4.5%					
2 国語+2%・算数+4%					
1 国語0.5%・算数+3.5%					
4 児童による評価(授業が分かりやすい)100%	4	週案の提出率は100%だが、提出が遅れたり記述の内容が不十分で見通しがもてなかつたりといった状況である。児童は教師に信頼を寄せていて授業が分かりやすいと肯定的に評価している。	コロナ禍で行うことのできない種の教育活動を何らかの形で補えるとよい。英語学習の導入と並行して、導入するのはハードルが高いが、日本の古典に触れる機会をもたせてほしい。	A	授業改善推進プランを作成し、それに基づいた週の指導計画を立案し、日々の実践を通して授業力の向上を目指す。
3 0.95					
2 0.9					
1 0.85					
4 6年全国学力調査応用正答率+8%以上(都平均)	2	算数での研究発表に向け、校内での授業研究に取り組んだ。習熟度別の進捗を設け、指導に当たった。「読書好きな児童が多いわりに、国語への関心意欲が低い。	市の研究指定校として、思うように授業を進められない中、紙面発表別としてリーフレットを作成できた。主題に『フワフワ』という言葉が入っているのが良い。	B	算数は、研究発表会の成果を生かし少人数での指導を充実させ、ICTの導入で関心意欲を引き出し、二極化の解消に努める。
3 国語+7%・算数+6%					
2 国語+6%・算数+4%					
1 国語5%・算数+2%					
4 授業参観・意見交換会への出席人数250人・100人以上	2	今年度は道徳授業地区公開講座は、校内のみでの取組をおこなった。	コロナ禍の関係で道徳授業地区公開講座を外部の方に公開できなかったことが残念であった。	B	週案と授業観察による確認を継続し、毎週の授業を推進するとともに、内容の充実が図られるよう校内研も進めていく。
3 231人・80人					
2 209人・66人					
1 180人・50人					
4 不登校(傾向を含む)人数0人	4	全校で不登校児童は0を継続している。運動会も例年通りには行えなかったため、6年生は不満をもっている。現在の状況下でできる行事を工夫して行っていきたい。	不登校児童が0人とは、相当な努力が認められると思われた。	A	学年行事や全校行事等感染症対策とともに、計画段階からあらゆる工夫をし、できるだけ行えるような状況を作っていく。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 児童による評価(行事が楽しい)100%	3	これまでの反省を生かし、充実した内容の学校行事等が実施できている。特に東フェスティバルでは、熱中症対策として児童席にもテントを設置し、保護者から大きな評価を得た。	コロナ禍で、感染防止対策をし、展覧会や運動会、6年生を送る会等、企画、開催していただき感謝します。階段に6年生からのメッセージが貼ってあるのが、良いアイデアだと思う。	B	行事実施後すぐに来年度に向け、改めて実施方法や実施時期等の見直しを図り、それぞれの計画を再考していく。
3 0.95					
2 0.9					
1 0.85					
4 休み時間の外遊び率100%	2	休み時間は多くの児童が外に出て遊んでいるが、高温で外遊びが中止となることも多かった。中には外に出たがらない児童も数名いる。	外遊びが充実して実施されているようで、今後も継続をお願いしたい。	B	学校だよりや保護者会に加え、学校保健委員会を開催し、児童の健康や体力について啓発を図り、家庭と連携する。
3 0.95					
2 0.9					
1 0.85					
4 6年体力・運動能力調査合計点+0.4・7.1以上(都平均)	未	親体力テストが実施できなかったため、昨年との比較ができないが、ステイホームの取組もあり、児童全体の体力低下が懸念される。	元気アップやグッドモーニング60分などの市の取組もありますが、東ンピックをぜひ大切にしてほしい。	C	東ンピックでは、縄跳び検定しか行えておらず実施方法について改善していく。投力向上の方策を練る。
3 男子+0.3・女子+6.1					
2 男子+0.2・女子+5.1					
1 男子+0.1・女子+4.1					
4 年間の残菜率3.30%	4	毎日の給食を完食しているクラスもあれば、必ず残菜が出てしまうクラスがある。食育は、栄養教諭と連携を取りながら1年生から4年生のクラスで実施した。	残菜率が低いことは素晴らしい。栄養教諭がいることも心強く感じている。	A	残菜については、担任の声掛けとともに管理職も指導していく。また、食育の計画に基づきランチルームを活用する。
3 0.035					
2 0.037					
1 0.039					
4 QUの結果で各学級の要支援群0人	2	要支援群0人が3、1人が1、2人が2、4人が1クラス。夏季休業中、スクールカウンセラーによるQUのフィードバックがあり、2学期は、フェスティバル、遠足等の取組を通し、指導に生かすことができている。	大空教室と連携して、どの児童も居場所のある学校生活が送れるように今後とも生かしてほしい。	B	11月に私費で今年度2回目の調査を実施する。次年度も実施し、SCやSSW、大空の教員とも連携を図りながら活用していく。
3 1人					
2 2人					
1 3人					
4 児童による評価(取組が充実している)100%	3	オリンピック等の選手を招き、授業を行ったことで、児童のスポーツ、オリンピックへの意識の高揚が見られた。	オリンピック等選手を招き授業が実施できたことは良い。オリンピックの開催ができればよいが、なぜオリンピックを行うのかの意味について知ることが重要である。	B	総合的な学習の時間や各教科の中で多文化理解を深め、身近なものとする。オリンピック等を招聘し、身近なものとしていく。
3 0.95					
2 0.9					
1 0.85					
4 児童による評価(授業が楽しい)100%	2	外国語の授業に対する担任の意識が少しずつ変わってきた。担任がT1としての抵抗感が減り、ALTとのT・Tで授業を進めることができるようになった。	外国語の授業が新たに取り入れられたことだが、教員も大変だと思いますが、今度の努力に期待したい。	B	GIGAスクール構想に沿った整備計画の中で、効果的なICT機器の活用を全教科の授業の中で取り組んでいく。
3 0.95					
2 0.9					
1 0.85					

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができる、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。	振り返りを生かした授業を展開する。	4 90%以上の教員が振り返りの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が振り返りの指導に取り組んだ	4
		すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	毎日「できた」と児童が感じる時間をつくる。	4 90%以上の教員が学習のゴールの工夫に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が学習のゴールの工夫に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が学習のゴールの工夫に取り組んだ 1 70%未満の教員が学習のゴールの工夫に取り組んだ	4
		考えを言語化・可視化して深めることができる授業をつくる。	考えを言語等で表す活動を工夫した授業を展開する。	4 90%以上の教員が言語化・可視化に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ 1 70%未満の教員が言語化・可視化に取り組んだ	4
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	あいさつの意義を考え、自分も相手も大切にす態度を育む。	児童が「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」をより意識するよう取り組む。	4 90%以上の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がアイコンタクトの指導に取り組んだ	4
		「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	「やさしい言葉」を増やす活動に児童が主体的に取り組む指導を継続する。	4 90%以上の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が継続的な活動の指導に取り組んだ	4
		小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	組織的に児童のサインをキャッチし、こまめに声を掛ける指導をする。	4 90%以上の教員がこまめな声掛けに取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がこまめな声掛けに取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がこまめな声掛けに取り組んだ 1 70%未満の教員がこまめな声掛けに取り組んだ	4
健やかな体	児童が自分の心を体の健康に関心をもって学ぶことができるようにするとともに、運動を楽しむ態度、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む取組を計画的に行う。	児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを継続的に活用する。	4 90%以上の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 3 80%～90%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 2 70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した 1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	2
		健康と食について理解を深め、望ましい生活習慣づくりに向けて実践的な態度を育む。	「グッドモーニング60分」に家庭と連携して取り組み、児童自身による習慣化を図る。	4 90%以上の教員が家庭と連携して習慣化を図った 3 80%～90%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 2 70%～80%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った 1 70%未満の教員が家庭と連携して習慣化を図った	4
		自分の心の健康づくりに関心をもち、他者の心も大切にする意識や態度を育む。	心のもち方や他者との関わり方について学習の継続を図る。	4 90%以上の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が継続的に心の指導に取り組んだ	4
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とかかわりを大切にしたい豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	集団の中で、自分のできることを判断し、行動する力を育む。	リーダー・フォロワーシップを理解し、自己決定のうえ実践できるよう指導する。	4 90%以上の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ 1 70%未満の教員が自己決定・実践の指導に取り組んだ	4
		福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。	スタンダードの内容を細分化し、スモールステップで継続的に指導する。	4 90%以上の教員がスモールステップでの指導に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員がスモールステップでの指導に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員がスモールステップでの指導に取り組んだ 1 70%未満の教員がスモールステップでの指導に取り組んだ	4
		児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が相互に承認する活動に取り組む。	4 90%以上の教員が認め合う活動に取り組んだ 3 80%～90%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 2 70%～80%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ 1 70%未満の教員が認め合う活動に取り組んだ	4

年度末評価【総括表】

①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校 ②児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校③児童が課題を解決する過程で、「学びがい」を感じる学校 ④児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を見付け合う児童 ②誰かのために自分ができることを考え実行する児童③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童 ④一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師 ②児童の心情や意図の理解に努め、価値付ける教師③児童にとって魅力ある授業づくりを努め、変容を見出す教師 ④運動の楽しさと心の元気を児童に感じさせる教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	90%以上の児童が振り返りをしたと回答	3	児童が自らの学習状況を振り返って次に生かすという意識や態度は育ってきている。	生き生きと学んでいる。自らゴール設定し取り組むことは、取得したいスキル。成果評価は教師の感触が大切。	B	振り返りの時間を確保し、児童自身が主体的な学習態度を意識できるような方法を工夫する。
3	80%～90%未満の児童が振り返りをしたと回答					
2	70%～80%未満の児童が振り返りをしたと回答					
1	70%未満の児童が振り返りをしたと回答					
4	80%以上の児童が毎日「できた」と思えたと回答	3	学習のゴールを明確にし、児童が考えを共有しながら達成感を味わえるよう取り組めた。	達成感を味わうのは大事。できた走り寄る児童の姿がよい。小さな課題でも自信になり、スモールステップはよい取組。	B	スモールステップで支援・評価し、習得した内容を活用する場面を意図的に設定する。
3	70%～80%未満の児童が毎日「できた」と思えたと回答					
2	60%～70%未満の児童が毎日「できた」と思えたと回答					
1	60%未満の児童が毎日「できた」と思えたと回答					
4	90%以上の児童がよりよく考えたと回答	3	校内研修で継続的に取り組んだ。感染症対策をしながら、意見交流する工夫をした。	発表は慣れが大切。コロナ禍で工夫を凝らすよい経験になった。教員の努力と児童の成長を実感。	B	学習のねらいに沿って、考えを表現する方法を工夫したり、語彙を増やしたりする。
3	80%～90%未満の児童がよりよく考えたと回答					
2	70%～80%未満の児童がよりよく考えたと回答					
1	70%未満の児童がよりよく考えたと回答					
4	80%以上の児童がアイコンタクトができると回答	4	会釈や話を聞く態度などを指導した。新しい生活様式に合った指導を全校で継続した。	児童の育ちを確信する。挨拶、返事は社会生活でもコミュニケーションの上でも大事。市内でも評価されるよう継続を。	A	児童自身がよりよいあいさつについて考え実践する児童会活動を継続する。
3	70%～80%未満の児童がアイコンタクトができると回答					
2	60%～70%未満の児童がアイコンタクトができると回答					
1	60%未満の児童がアイコンタクトができると回答					
4	90%以上の児童ができることに取り組んだと回答	2	児童自身がいじめについて考え、防止行動について考えるよう、指導機会を設定した。	家庭や地域との連携が重要。学校が地域に発信するなど児童を通じた働きかけができないか。	B	一人一人の行動がいじめ防止につながっていることを評価し、価値付ける指導を工夫する。
3	80%～90%未満の児童ができることに取り組んだと回答					
2	70%～80%未満の児童ができることに取り組んだと回答					
1	70%未満の児童ができることに取り組んだと回答					
4	90%以上の児童が学校に相談できると回答	3	全教員で児童の状況を共有し、役割や段階等を相談して組織的に指導にあたった。	気軽に相談できる環境づくりが大切。悩みがある時は表情に出るので、マスク生活でもキャッチを。	B	児童に、相談することがよいことであることを継続して伝え、相談機会を確保する。
3	80%～90%未満の児童が学校に相談できると回答					
2	70%～80%未満の児童が学校に相談できると回答					
1	70%未満の児童が学校に相談できると回答					
4	90%以上の児童が運動は楽しいと回答	4	体育・健康について継続的に指導したが、コロナ禍で全校での取組が困難であった。	児童が自分で考え運動に取り組んでいる。コロナ禍でストレスを感じる児童が運動し体力向上にもつながるよう継続を。	B	安全確保に努めながら、友達と一緒に運動することのよさを味わう機会をつくっていく。
3	80%～90%未満の児童が運動は楽しいと回答					
2	70%～80%未満の児童が運動は楽しいと回答					
1	70%未満の児童が運動は楽しいと回答					
4	80%以上の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答	3	家庭の協力により、「グッドモーニングカード」の取組が習慣化された。	健康な心と食の実践が大切にされている。生活習慣は学力向上につながる。家庭との連携は重要。	B	家庭での生活習慣全般の改善につながるよう、時間意識の指導・評価を継続する。
3	70%～80%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
2	60%～70%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
1	60%未満の児童・保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
4	90%以上の児童が他者のためになる行動をしたと回答	4	心の健康を意識化できるよう指導に取り組んだ。自己有用感につながる指導を継続した。	領域をまたいだ学習も多く、よい影響を期待する。教員も児童も心の健康に気を付けてほしい。	A	生活場面や学習活動において、児童が相互に評価を視覚化・言語化できるよう取り組む。
3	80%～90%未満の児童が他者のためになる行動をしたと回答					
2	70%～80%未満の児童が他者のためになる行動をしたと回答					
1	70%未満の児童が他者のためになる行動をしたと回答					
4	90%以上の児童が自分のよさについて考えたと回答	3	全校や学年集団での取組は困難であったが、各学級の活動を工夫して取り組んだ。	小集団での取組は役割の判断等の面で基本を身に付けるにはよい。異学年交流を通じての育成を。	B	感染症対策を講じながら、異学年の交流や少人数集団での活動を工夫して取り組む。
3	80%～90%未満の児童が自分のよさについて考えたと回答					
2	70%～80%未満の児童が自分のよさについて考えたと回答					
1	70%未満の児童が自分のよさについて考えたと回答					
4	90%以上の保護者が学校と連携したと回答	2	「学習スタンダード」の内容を細分化し、週ごとに具体的な行動目標を立てた。	体育的活動の公開では、明るく元気に助け合い一生懸命で力強い演技、練習の成果、素晴らしい笑顔が見られた。机上ばかりが教育ではないと改めて感じた。小中連携の活動は素晴らしい。	B	スタンダードの内容を細分化し、児童の行動の定着状況を見ながら段階的に指導する。
3	80%～70%未満の保護者が学校と連携したと回答					
2	70%～80%未満の保護者が学校と連携したと回答					
1	70%未満の保護者が学校と連携したと回答					
4	90%以上の児童がありがとうを伝えたと回答	3	他者の行動のよさに着目し、価値を言語化したり、交流したりする機会を多くもった。	大事なことを学んでいる。他者への思いやりを忘れず成長してほしい。	B	「ありがとう」を伝える機会を適時に設定し、互いに支え合っていることを自覚させる。
3	80%～90%未満の児童がありがとうを伝えたと回答					
2	70%～80%未満の児童がありがとうを伝えたと回答					
1	70%未満の児童がありがとうを伝えたと回答					

学校教育目標	○ よく考える子ども ○ けんこうな子ども ○ すすんで働く子ども ◎ 思いやりのある子ども	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	答えのない課題に最善解を導くことができる資質能力を育成する。	基礎的・基本的な学習内容の定着	教育活動全体を通して「書くこと」を重視	4 授業で書くことを重視…90%以上の授業 3 授業で書くことを重視…80%以上の授業 2 授業で書くことを重視…70%以上の授業 1 授業で書くことを重視…70%未満の授業	3
		学ぶ楽しさ、学びに向かう姿勢の向上	UDとICTによる効果的効率的な指導の工夫	4 やさしい学習指導…90%以上の授業 3 やさしい学習指導…80%以上の授業 2 やさしい学習指導…70%以上の授業 1 やさしい学習指導…70%未満の授業	3
		学習習慣・学習規律の定着	学校の授業・補習と家庭学習の一体化	4 家庭学習との連携を図る…週3回以上 3 家庭学習との連携を図る…週2回 2 家庭学習との連携を図る…週1回 1 家庭学習との連携を図る…週1回未満	2
豊かな心	自分も、他の人も、敬意をもって大切にできる豊かな心情を育成する。	社会性の向上	認知機能や感情統制の支援	4 認知機能・感情統制支援…週3回以上 3 認知機能・感情統制支援…週2回 2 認知機能・感情統制支援…週1回 1 認知機能・感情統制支援…週1回未満	1
		自己有用感の醸成	QUの結果を踏まえた特別活動の充実	4 自己有用感を図る特活…月3回以上 3 自己有用感を図る特活…月2回 2 自己有用感を図る特活…月1回 1 自己有用感を図る特活…月1回未満	2
		心の居場所づくり	全教員が一体となった個の支援・相談	4 学級以外の児童支援…週3回以上 3 学級以外の児童支援…週2回 2 学級以外の児童支援…週1回 1 学級以外の児童支援…週1回未満	3
健やかな体	生涯にわたりスポーツに親しみ、心身ともに健康に過ごす資質能力を育成する。	基本的な生活習慣・食習慣の定着	生活習慣改善に向けた家庭との協働	4 生活・学習のすすめを活用…月3回以上 3 生活・学習のすすめを活用…月2回 2 生活・学習のすすめを活用…月1回 1 生活・学習のすすめを活用…月1回未満	2
		体力・運動能力の向上	運動習慣に結びつく授業の工夫	4 元気アップの取組…18項目以上 3 元気アップの取組…14項目以上 2 元気アップの取組…10項目以上 1 元気アップの取組…10項目未満	2
		オリンピック・パラリンピック教育の推進	発達段階に応じた4×4の取組	4 4×4の取組…全学級年3回以上 3 4×4の取組…全学級年2回 2 4×4の取組…全学級年1回 1 4×4の取組…全学級年1回未満	2
輝く未来	社会や世界と向き合い、未来の創り手となる資質能力を育成する。	課題解決・探究的な学びの充実	学校図書館機能の活用充実	4 図書館を活用した授業…全学級月3回以上 3 図書館を活用した授業…全学級月2回 2 図書館を活用した授業…全学級月1回 1 図書館を活用した授業…全学級月1回未満	2
		主体的・対話的で深い学びの推進	全教育課程を通して言語活動を充実	4 略案による授業観察…年6回以上 3 略案による授業観察…年5回 2 略案による授業観察…年4回 1 略案による授業観察…年3回以下	3
		地域の中の学校としての役割の遂行	家庭や地域との協働	4 家庭や地域と協働した取組…年3回以上 3 家庭や地域と協働した取組…年2回 2 家庭や地域と協働した取組…年1回 1 家庭や地域と協働した取組…年1回	1

年度末評価【総括表】

職員が組織的に協働して、児童が主体的に活動し、生涯学習の基礎を確実に身に付け、家庭・地域の信託に応える学校
 未来の創り手として、自ら考え、創造力・表現力に富み、互いを尊重し人の為に尽くす、心身共に健康で活力に満ちた子供
 児童・保護者・地域の願いを受け止め、熱い心と志を持ち、変革に臆することなく、使命と役割を遂行し、結果に責任を持つ教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 書くことが好き…80%以上の児童 3 書くことが好き…70%以上の児童 2 書くことが好き…60%以上の児童 1 書くことが好き…60%未満の児童	4	○「書くこと」を重視 ○「短作文」の成果 ●推進プランを要改善	探究心、創造力を育成 十分話し合う労力を重視	A	研究方針に沿って、すべての学級で継続的に確実に取り組んでいく。
4 授業が分かりやすい…80%以上の児童 3 授業が分かりやすい…70%以上の児童 2 授業が分かりやすい…60%以上の児童 1 授業が分かりやすい…60%未満の児童	4	○主体的な学び ○ICTによる授業改善 ●探究学習を充実推進	統一した指導が効果的 生き生きとした授業展開	A	授業の振り返りを大切に し、児童が自ら学びに向 かう姿勢を培っていく。
4 学年×10分の達成…80%以上の児童 3 学年×10分の達成…70%以上の児童 2 学年×10分の達成…60%以上の児童 1 学年×10分の達成…60%未満の児童	3	○学習意欲と習慣向上 ○自主学習の向上 ●放課後補習時間確保	発展的家庭学習も大切 興味付けで学習を深化	B	補習時間の確保など、 学力の底上げのための 時間と場や方法を確保 する。
4 社会通念上のいじめ…0件 3 社会通念上のいじめ…1件から6件 2 社会通念上のいじめ…7件から12件 1 社会通念上のいじめ…13件以上	3	○穏やかな学校生活 ○やり抜く姿勢の向上 ●コグトレで認知機能	児童に熱い眼差し 社会のニュースも教材	B	社会性を育てるための 認知、感情統制、対人ス キル等を育成する。
4 自分の価値を実感…80%以上の児童 3 自分の価値を実感…70%以上の児童 2 自分の価値を実感…60%以上の児童 1 自分の価値を実感…60%未満の児童	4	○互いを認め合う心 ○自己有用感の向上 ●QUのさらなる活用	話し合い活動が大切 柔軟な指導で主体性を	A	QUの結果を踏まえた特 別活動を工夫し、豊かな 自己表現力を醸成する。
4 担任以外に相談できる…80%以上の児童 3 担任以外に相談できる…70%以上の児童 2 担任以外に相談できる…60%以上の児童 1 担任以外に相談できる…60%未満の児童	4	○児童の共通理解 ○変化を見逃さない ●SOSカードの開発	SOSカードの成果に期待 教師から働きかけること	A	SOSカードを導入し、話 しやすい大人が校内に いるという雰囲気を醸成 する。
4 1日の病欠児童数…平均3人以下 3 1日の病欠児童数…平均4～5人 2 1日の病欠児童数…平均6～8人 1 1日の病欠児童数…平均9人以上	3	○生活習慣の向上 ○感染防止の徹底 ●食育の計画的な推進	早寝早起き朝ご飯推進 家庭と連携した食育	B	食習慣と正しい知識を身 に付けるよう家庭・地域と の連携した指導を行う。
4 運動することが楽しい…80%以上の児童 3 運動することが楽しい…70%以上の児童 2 運動することが楽しい…60%以上の児童 1 運動することが楽しい…60%未満の児童	3	○運動習慣が低下 ●取組が不足 ●元気UP活用を充実	子供の笑顔が評価 体験や共同作業が大切	B	元気アップガイドブックを 活用し、指導法を工夫 し、継続して取り組む。
4 オリパラの精神の理解…80%以上の児童 3 オリパラの精神の理解…70%以上の児童 2 オリパラの精神の理解…60%以上の児童 1 オリパラの精神の理解…60%未満の児童	2	○オリパラ教育が停滞 ●取組が欠如 ●最終年度としてまとめ	一律な基準は必要ない 個に応じた目標づくりを	C	オリパラの精神に立ち戻 り、心を耕す取り組みを していく。
4 図書の貸出冊数…年間平均50冊以上 3 図書の貸出冊数…年間平均30冊以上 2 図書の貸出冊数…年間平均10冊以上 1 図書の貸出冊数…年間平均10冊未満	3	○総合学習の単元開発 ○年間指導計画の開発 ●SDGs思索・思考道場	読書が言語力向上に 読書で多様な出会い	B	探求的な見方・考え方を 働かせて、未知の課題 に対峙する資質・能力を 育成。
4 話し合いができる…80%以上の児童 3 話し合いができる…70%以上の児童 2 話し合いができる…60%以上の児童 1 話し合いができる…60%未満の児童	4	○自分の言葉で表現 ○話し合い活動が充実 ●探求ノート開発・活用	教育活動全体で取組 関心と観察力を上げる	A	「探求ノート」を活用した 課題解決・探究学習等、 深い学びを充実させる。
4 学校は信頼できる…80%以上の保護者 3 学校は信頼できる…70%以上の保護者 2 学校は信頼できる…60%以上の保護者 1 学校は信頼できる…60%未満の保護者	4	○集団と個の関係重視 ●異年齢の活動が停滞 ●縦割り班活動の精選	真っ直ぐ育っている 恒常的に取り組むこと	A	児童集会や縦割り班活 動を重視し、主体的な行 動、自治的な力を育て る。

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○学習状況を把握し、児童の課題意識を大切にしながら授業を充実させ、学力向上を図る。	○校内研究を充実させると共に、学校独自の学力調査を実施し、結果を分析して対応策を講じる。	4 全教員が週の指導計画に位置付けた 3 80%~100%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた 2 70%~80%の教員が週ごとの指導計画に位置付けた 1 70%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた	4
		○朝学習や国語科の読書活動を充実させ、読書の習慣化を図る。	○図書館支援員を活用し、読書週間と朝読書時間を設定することで、読書活動を推進する。	4 全教員が読書計画に基づいた指導を実施した 3 80%~100%未満の教員が読書計画に基づいた指導を実施した 2 70%~80%未満の教員が読書計画に基づいた指導を実施した 1 70%未満の教員が読書計画に基づいた指導を実施した	3
		○特別支援教育を充実させ、発達段階に応じたきめ細かい学習指導体制を整える。	○そよかぜ職員によるOJTと、市のユニバーサルデザインを活用した教育実践を図る。	4 全教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 3 80%~100%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 2 70%~80%の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ 1 70%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	4
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、児童個々の良さを発揮し、安心して生活できるようにする。	○人権プログラムを活用した人権教育の取組を計画的に実施する。	4 全教員が人権プログラムを活用した取組を計画的に実施した 3 80%~100%未満の教員が人権プログラムを活用した取組を計画的に実施した 2 70%~80%の教員が人権プログラムを活用した取組を計画的に実施した 1 70%未満の教員が人権プログラムを活用した取組を計画的に実施した	4
		○教育活動全体を通して、道徳の実践力を身に付けさせる。	○児童が考え議論する道徳の授業と評価を確実に実施する。	4 全教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 3 80%~100%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 2 70%~80%の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている 1 70%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	4
		○児童が個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った 3 80%~100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 2 70%~80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○系統性を重視した健康教育と、体育活動を推進し、体力向上を目指す。	○体育講師を有効活用し、少人数展開の授業を実施する。	4 全教員が計画を活用した指導を行った 3 80%~100%未満の教員が計画を活用した指導を行った 2 70%~80%未満の教員が計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	4
		○日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	○体力向上部会を設置し、元気アップガイドブックを有効活用する。	4 全教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った 3 80%~100%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った 2 70%~80%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った 1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った	4
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った 3 80%~100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った 2 70%~80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った 1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	4
輝く未来	○子ども達が自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○小中連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○瑞雲中ブロック、小中一貫教育を推進し、昭島のスタンダードを作成する。	4 全教員が方策を実施した 3 80%~100%未満の教員が方策を実施した 2 70%~80%未満の教員が方策を実施した 1 70%未満の教員が方策を実施した	4
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した 3 80%~100%未満の学年・教員が交流体験を実施した 2 70%~80%未満の学年・教員が交流体験を実施した 1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	4
		○保護者や地域と連携し、児童が活動できる事業を展開する。	○PTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 80%~100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 70%~80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	3
その他	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	○芝生での運動促進と、芝管理も体験させ、環境に対する意識も高めさせる。	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した 3 80%~100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 2 70%~80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した 1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	4

年度末評価【総括表】

○児童にとって充実した学校 ○保護者にとって信頼できる学校 ○教職員にとって働きがいのある学校
 ○思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども○感性あふれる豊かな心をもつ子ども ○すすんで心と体を鍛えることができる子ども
 ○ありのままの児童を受け止め、個性を發揮させる教師 ○授業で勝負できる教師 ○家庭・地域との理解を深め協働できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 調査が前年比+3ポイント以上 3 調査の正答率が前年比0～+3ポイント未満 2 調査の正答率が前年比0～-5ポイント未満 1 調査の正答率が前年比-5ポイント以上	3	児童の実態を把握し、課題に応じた対策を講じた結果、学力調査の正答率は、前年を2.7%上回った。	校内研究の充実、その継続が、全体の学力向上につながっている。	A	各学年の成果と課題を明確にし、次年度へ引継ぎ、新学年での目標に位置付け、更なる向上を図る。
4 全学年で貸出し冊数が前年比プラス 3 4学年で貸出し冊数が前年比プラス 2 半数の学年で貸出し冊数が前年比プラス 1 貸出し冊数が前年比プラスの学年が半数未満	4	10月の読書旬間で図書委員会がイベントを実施した効果として、全ての学年で貸出し冊数が増加した。	コロナ禍という面でも、イベントやアンケートの実施により、児童の意識も向上したと思う。	A	貸出し冊数が増加した結果を次年度も継続できるように、図書協力員と連携を図って推進に取り組んでいく。
4 90%以上の児童が安心した学校生活が過ごせている 3 80～90%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている 2 70～80%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている 1 70%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている	3	安心して生活できている児童は前年を3%上回り88%となった。児童の他者理解が深まったと考える。	優しい、そして安心な場の提供を望む。	B	特別支援教育の更なる充実を図り、残りの12%の児童の心に寄り添い、90%以上を目指す。
4 80%以上の児童が自己肯定感があると感じている 3 70%以上の児童が自己肯定感があると感じている 2 60%以上の児童が自己肯定感があると感じている 1 自己肯定感があると感じている児童が60%以下だった	4	自己肯定感のある児童は、全体の81%であった。人権に配慮し、充実した学級活動を実施できた。	教員の取組により、児童全体の人権等の教育で人権に関する意識が身に付いていると思う。	A	引き続き、教員の人権感覚を高めるため、月1回自己評価を行う。人権プログラムを活用した取組を行う。
4 90%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た 1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった	4	ほとんどの児童が振り返りを書くことができ、自分事としてしっかり考え、振り返りの内容が充実してきた。	子ども達の未来に向け、過去の行いに加え、未来の善行についても考えたとよいと思う。	A	児童の考える時間、自己を振り返って書く時間を十分に確保し、更なる授業と評価の充実を図る。
4 学級生活満足群が50%以上 3 学級生活満足群が40%以上 2 学級生活満足群が30%以上 1 学級生活満足群が30%以下	4	学級生活満足群にいる児童が全体の69%で、昨年より7%上回った。年2回実施の成果が表れた。	年2回のQU調査の実施により、児童の実態を把握して、指導に生かしていると思う。	A	年2回のQU調査実施と専門家による指導を継続し、経年分析も行い、要支援児童へ効果的な支援を行う。
4 調査結果が昨年比平均ポイントから+5ポイント以上 3 調査結果が昨年比 +～+5ポイント 2 調査結果が昨年比 -5ポイント以内 1 調査結果が昨年比 -5ポイント以上	3	休校により体力の低下が懸念されたが、体育講師と連携した取組により、昨年度より0.25ポイント向上した。	コロナ禍において、体力テストの結果が向上したことは素晴らしい。是非継続したい。	A	各学年で体力調査結果を分析し、次年度へ確実に引き継ぎ、指導計画に反映させ、体力の向上を図る。
4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80～90%未満の児童が目標を達成している 2 70～80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している	3	生活リズムの取組率は、90%以上あり、80%以上の児童が目標を達成することができた。	取組結果を分析し、気になる児童への個別支援など大変であり、難しい面もある。	B	生活リズム取組期間後も継続して取り組めるように、次年度も保健だより等で働きかけ習慣化させる。
4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している 3 80～90%未満の児童が食育のめあてを達成している 2 70～80%未満の児童が食育のめあてを達成している 1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している	4	学校給食やお弁当の日を通して、食の大切さを考えさせることができた。	食の大切さ、命に関する心を育む教育は大切だと思う。	A	新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、食生活のマナーや食の大切さを身に付けるようにしていく。
4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる 3 80～90%未満の児童が安心して進級・進学できる 2 70～80%未満の児童が安心して進級・進学できる 1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる	4	小中一貫教育研究成果の活用はできた。安心して進級・進学できると答えた児童は92%であった。	全学級での成果が表れた。次年度は瑞雲中ブロックの児童生徒の交流が行えるとよい。	B	小中一貫したキャリア教育のスタンダードを構築し、計画的に取り組んでいく。
4 90%以上の児童が目標を達成している 3 80～90%未満の児童が目標を達成している 2 70～80%未満の児童が目標を達成している 1 70%未満の児童が目標を達成している	3	感染症対策のため直接交流はできなかったが、文書交流など工夫して取り組むことはできた。	可能な限り実施し、児童の視野が広がるような体験ができるようにと思う。	B	各学年で外部人材との交流を計画し、新しい生活様式、感染症対策の中で工夫して実施する。
4 60%以上の児童が積極的に活動に参加できた 3 50～60%未満の児童が積極的に活動に参加できた 2 40～50%未満の児童が積極的に活動に参加できた 1 40%未満の児童が積極的に活動に参加できた	3	地域の花いっぱい運動に3年生の児童が積極的に参加し、紹介ポスターを作成、地域に広めることができた。	様々な工夫をして行ったと思う。例年の活動継続に感謝する。	B	参加の仕方を工夫し、年度当初にPTAや地域の方との関わりをもつ機会や場を計画する。
4 90%以上の児童が積極的に活動に参加できた 3 80～90%未満の児童が積極的に活動に参加できた 2 70～80%未満の児童が積極的に活動に参加できた 1 70%未満の児童が積極的に活動に参加できた	4	地域の協力を得て、教職員が積極的に維持管理に努めた。児童も芝生の良さを十分に味わっている。	休校中を含め、常に維持管理を行っていて、武蔵野小の”宝物”となっていて素晴らしい。	A	学校のレガシーとして、児童、保護者、地域、教職員皆が誇りに思う気持ちを高める取組を実施する。

学校教育目標	◎精いっぱい学習する子 ○人のためにつくす子 ○すすんで体をきたえる子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、自ら考え、判断し、表現できる学習方法を工夫する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	生活科や総合的な学習の時間の授業改善を中心に、対話的な学びの授業を実践する。	4 授業で話し合い活動等の交流…80%以上の授業	3
				3 授業で話し合い活動等の交流…70%以上の授業	
				2 授業で話し合い活動等の交流…60%以上の授業	
		児童向け資料「家庭学習の進め方」を活用し、家庭学習の充実を図る。	保護者向け資料「学びのすすめ」を作成し、家庭に発信して、活用を促す。	4 家庭学習の進め方を作成…完成	4
				3 家庭学習の進め方を作成…80%以上の完成	
				2 家庭学習の進め方を作成…60%以上の完成	
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を工夫改善する。	玉小スタンダードに基づき、教室環境や学習環境を整える。	4 玉小スタンダードに基づいた指導…90%以上の教員	4
				3 玉小スタンダードに基づいた指導…80%以上の教員	
				2 玉小スタンダードに基づいた指導…70%以上の教員	
豊かな心	規範意識、社会参画意識を養い、自己有用感を高めさせる。	挨拶運動や人権週間を充実・改善・定着させる。	児童が主体的につくる「人権集会」を充実させるなど、人権意識を高めていく。	4 教員が児童に敬称…全教員	2
				3 教員が児童に敬称…95%以上の教員	
				2 教員が児童に敬称…90%以上の教員	
		「玉川小のやくそく」を分かりやすく発信し続け、定着させる。	全教員が共通理解を深める中で、生活・授業規律を徹底する。	4 玉っ子ハンドブックを活用…90%以上の教員	4
				3 玉っ子ハンドブックを活用…80%以上の教員	
				2 玉っ子ハンドブックを活用…70%以上の教員	
		特別活動の充実を図り、自己有用感を高めさせる。	学級会の流れを系統的に学ばせ、自主的、実践的な集団行動を身に付けさせる。	4 学級会の実施回数…8回以上の実施	4
				3 学級会の実施回数…7回以上の実施	
				2 学級会の実施回数…6回以上の実施	
健やかな体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、運動に親しむ資質や能力を向上させる。	体力調査結果を検証・活用し、体育朝会を改善する。	体育朝会の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして、系統立てて実施する。	4 体育朝会の実施…25回以上の実施	-
				3 体育朝会の実施…20回以上の実施	
				2 体育朝会の実施…15回以上の実施	
		生活指導部を中心に、安全に配慮した学校運営を行う。	計画的に安全に関する研修を行い、危険察知能力を高める。	4 安全に関する研修の実施回数…5回以上	2
				3 安全に関する研修の実施回数…4回以上	
				2 安全に関する研修の実施回数…3回以上	
		健康教育・食育推進計画を改善、充実させる。	健康教育と保健指導、食育指導を総合的に関連させて取り組んでいく。	4 健康や保健、食育指導回数…計20回以上	-
				3 健康や保健、食育指導回数…計17回以上	
				2 健康や保健、食育指導回数…計14回以上	
輝く未来	障害者理解、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を身に付けさせる。	外部人材等を活用し、伝統文化に関する理解を深めさせる。	外部人材等を発掘し、伝統文化に関する授業を実践する。	4 外部人材等の活用による伝統文化の授業実施…全学年	-
				3 外部人材等の活用による伝統文化の授業実施…五つの学年	
				2 外部人材等の活用による伝統文化の授業実施…四つの学年	
		多様性を尊重し、心のバリアフリーを浸透させる。	オリパラ教育を年間指導計画に沿って、読本を活用しながら、計画的に実施する。	4 講話＋体験＋交流の実施…全学年	-
				3 講話＋体験＋交流の実施…5つの学年	
				2 講話＋体験＋交流の実施…4つの学年	
		小中連携した児童の育成を図る。	キャリアパスポートを作成し、自身の成長や変容に気付かせる。	4 キャリアパスポートを作成…90%以上の完成度	2
				3 キャリアパスポートを作成…80%以上の完成度	
				2 キャリアパスポートを作成…70%以上完成度	
				1 キャリアパスポートを作成…70%未満の完成度	

年度末評価【総括表】

・子供たちにとって学びがよい学校	・教職員にとって働きがよい学校		
・心身ともに健康な児童	・創造性に富んだ児童	・人間として調和のとれた児童	
・人権感覚が豊かな教師	・創造性に富んだ教師	・チームを意識した協調性のある教師	・絶えず研究と修養に励む教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学習定着度90%以上…9割以上の児童	3	話し合い活動に代わり、タブレットや付箋を使い、児童間の交流を図った。	対話が難しい中、工夫して取り組まれている。他人に答えを聞くことで満足している児童もいるように思う。	B	意見交流と学力向上に向けて、タブレットの効果的な活用を推進していく。
3 学習定着度90%以上…8割以上の児童					
2 学習定着度90%以上…7割以上の児童					
1 学習定着度90%以上…7割未満の児童					
4 家庭学習の提出率…90%以上の児童	3	「学びのすすめ」の改定作業を進めている。家庭学習の取り組み方や提出率は、個人差が大きい。	学力の定着には、家庭の協力が不可欠である。	B	より分かりやすい「学びのすすめ」を作成し、家庭と連携して家庭学習の推進を図る。
3 家庭学習の提出率…80%以上の児童					
2 家庭学習の提出率…70%以上の児童					
1 家庭学習の提出率…70%以上の児童					
4 授業が分かりやすい…80%以上の児童	4	「玉コスタンダード」に基づき全校で教室環境を整えた。全ての児童に分かりやすい授業を心掛け指導している。	学習・教室環境等に配慮していることが、通信やHPから伝わってくる。	A	年に2回の授業観察を全教員に公開したり、日々の授業観察を推奨し、指導力の向上を図る。
3 授業が分かりやすい…70%以上の児童					
2 授業が分かりやすい…60%以上の児童					
1 授業が分かりやすい…60%未満の児童					
4 社会通念上のいじめ…0件	3	人権意識は高まっているが、場に応じた挨拶には課題が残る。	社会に出て多様な人間がいることを伝えると良い。人付き合いの方法を指導する必要がある。	B	児童の呼名や掲示物など、生活指導主幹を中心に、定期的に見直し、その都度改善を図る。
3 社会通念上のいじめ…1件から6件					
2 社会通念上のいじめ…7件から12件					
1 社会通念上のいじめ…13件以上					
4 善悪の判断がある…95%以上の児童	2	全体的には落ち着いて学校生活を送れている。通学路を守って登校するよう指導する必要がある。	日常生活の中で善悪に気付けるようになってほしい。玉っ子ハンドブックをぜひ見たい。	C	生活指導夕会で情報を共有し、全教職員が組織的に生活指導を進める。
3 善悪の判断がある…90%以上の児童					
2 善悪の判断がある…85%以上の児童					
1 善悪の判断がある…85%未満の児童					
4 友達との交流満足度…90%以上の児童	3	話し合い活動の制限により、「学級会」の実施が困難であった。また縦割り活動、集会ができなかった。	コロナ禍において、高学年の児童の活躍の場が少なかったように思う。	B	タブレット等を活用した新たな意見交流の方法を探り、学級会の充実を図る。
3 友達との交流満足度…80%以上の児童					
2 友達との交流満足度…70%以上の児童					
1 友達との交流満足度…70%未満の児童					
4 運動習慣のある児童…9割以上	2	コロナ禍で十分に行うことができなかったため、運動習慣を十分に身に付けさせるには至らなかった。	世の中が競技志向に傾きつつある中、健やかな体づくりを一層推進してほしい。	C	運動の日常化につなげるような観点で体育朝会の内容を見直し、計画的に実行する。
3 運動習慣のある児童…8割以上					
2 運動習慣のある児童…7割以上					
1 運動習慣のある児童…7割未満					
4 安全や健康について学んでいる…9割以上の児童	4	全校朝会での安全指導を踏まえて、各学級で実態に応じて指導し、安全に対する意識が高まった。	安全で事故のない日常に取り組んでいる様子で安心できる。	A	全校児童に向けた安全指導を生活指導部が輪番で実施し、かつ学級指導を行う。
3 安全や健康について学んでいる…8割以上の児童					
2 安全や健康について学んでいる…7割以上の児童					
1 安全や健康について学んでいる…7割以上の児童					
4 1日の病欠児童数…平均3人以下	4	コロナ禍において十分に行うことができなかった。コロナ感染予防のための欠席児童が増えた。	ICT機器を使う上で、目の保護等についても学ばせる必要があると感じる。	A	健康に関する意識を高められるよう、保健委員会、給食委員会が定期的に新聞を発行する。
3 1日の病欠児童数…平均4～5人					
2 1日の病欠児童数…平均6～8人					
1 1日の病欠児童数…平均9人以上					
4 伝統文化について学んでいる…90%以上の児童	4	外部人材による伝統文化の授業はできなかったが、各教科・領域で指導している。	正しい歴史や文化を学習する機会はとても大切である。	A	児童の知的好奇心を喚起させるため、学期に1回外部人材を活用した特別授業を行う。
3 伝統文化について学んでいる…80%以上の児童					
2 伝統文化について学んでいる…70%以上の児童					
1 伝統文化について学んでいる…70%未満の児童					
4 オリパラの精神の理解…80%以上の児童	2	コロナ禍の中で交流等が実施できなかったが、各学級ごとにパラスポーツに取り組むことができた。	オリンピック・パラリンピック開催に向けて、継続して取り組んでほしい。	C	特別授業「パラスポーツ」を実施する。また、体育でポッチャに取り組み、障害者理解を深める。
3 オリパラの精神の理解…70%以上の児童					
2 オリパラの精神の理解…60%以上の児童					
1 オリパラの精神の理解…60%未満の児童					
4 自分の将来や進路について考える…9割以上の児童	3	市教委から例示されたキャリアパスポートを活用し、低学年から将来や進路について考えさせている。	中学生の活躍を紹介するなど、児童に希望をもたせる取組ができると良い。	B	学校で統一したキャリアパスポートを活用し、系統的にキャリア教育を進める。
3 自分の将来や進路について考える…8割以上の児童					
2 自分の将来や進路について考える…7割以上の児童					
1 自分の将来や進路について考える…7割未満の児童					

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、諦めずに問題に取り組む子ども)	ビジョン	【目指す学校像】
	○心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切に子ども)		【目指す児童・生徒像】
	○たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りつよく行動する子ども)		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価		
確かな学力	基礎・基本を大切に、分かる授業の実現に努め、確かな学力の定着を図る。	自ら学ぶ基本的な学習習慣や読書習慣の定着を図る。	朝学習や授業及び家庭学習への取り組み方など学び方を学ぶ指導を行う。	4 全学級が具体的な取組を行っている	4		
				3 具体的な取組を行っている学級が85%以上である。			
				2 具体的な取組を行っている学級が75%以上である。			
				1 具体的な取組を行っている学級が75%未満である。			
		読み取る、書く、伝える、計算する、考察する力の育成及び定着を図る。	東京ベーシックドリルやくじラーニングの活用で、基礎・基本の定着80%を目標に取り組む。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を設定する。	4 全学級テスト実施率が100%である。	4	
					3 全学級テスト実施率が90%である。		
					2 全学級テスト実施率が80%である。		
					1 全学級テスト実施率が80%未満である。		
		ICTを活用し、プログラミング的思考をする学習を行う。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を設定する。	資料や既習事項を基に考えたり、まとめたり、発表したりする場を設定する。	4 全教科等において実施する。	4	
					3 90%以上の教科等において実施する。		
					2 80%以上の教科等において実施する。		
					1 80%未満の教科等において実施する。		
豊かな心	互いに認め合い、支え合う豊かな心を育成する。	すすんであいさつをする子を育成する。	場に応じたあいさつが、自主的にできるような取組を行う。	4 全学級が実施する。	4		
				3 90%以上の学級が実施する。			
				2 80%以上の学級が実施する。			
				1 80%未満の学級が実施する。			
		共生社会を生きる子どもの育成を図る	体験や交流を通して障害者理解教育を行う。	体験や交流を通して障害者理解教育を行う。	4 全学級が実施する。	3	
					3 80%以上の学級が実施する。		
					2 70%以上の学級が実施する。		
					1 70%未満の学級が実施する。		
		言語環境を整え、児童の居場所となる学級づくりを推進する。	道徳・学級活動を中心に各教科等において、よりよい人間関係を築くための活動を実施する。	道徳・学級活動を中心に各教科等において、よりよい人間関係を築くための活動を実施する。	4 全学級が実施する。	4	
					3 90%以上の学級が実施する。		
					2 80%以上の学級が実施する。		
					1 80%未満の学級が実施する。		
健やかな体	生活習慣を見直し、丈夫な身体とたくましい心を育成する。	グッドモーニング60分に取り組みながら生活習慣を見直すとともに、基礎体力の向上を図り、健康教育を推進する。	グッドモーニング60分に取り組めるよう指導し、基本的な生活習慣の定着を図る。	4 全教員が指導する。	4		
				3 90%以上の教員が指導する。			
				2 80%以上の教員が指導する。			
				1 80%未満の学級が指導する。			
		オリンピック・パラリンピック教育を通して運動・スポーツへの興味・関心を高める。	オリンピック・パラリンピック教育を通して運動・スポーツへの興味・関心を高める。	オリンピック・パラリンピック教育を通して運動・スポーツへの興味・関心を高める。	4 全学級が実施する。	4	
					3 80%以上の学級が実施する。		
					2 70%以上の学級が実施する。		
					1 70%未満の学級が実施する。		
		輝く未来	保護者・地域との連携を深める。	地域を素材とした学習や伝統文化の体験を通して、郷土昭島に対する愛着や誇りを育てる。	地域人材を活用したり伝統文化の体験を取り入れる。	4 全学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	4
						3 5つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
						2 4つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
						1 3つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
自分の身は自分で守る知識の習得と実践する態度を養う。	安全教育プログラムなどを活用し、様々な災害から身を守る方法について指導する。			安全教育プログラムなどを活用し、様々な災害から身を守る方法について指導する。	4 全学級で指導する。	4	
					3 90%以上の学級で指導する。		
					2 80%以上の学級で指導する。		
					1 80%未満の学級で指導する。		

年度末評価【総括表】

- 特別支援教育を全校で進める学校 ○子ども教職員も当たり前のことを当たり前に行っている学校 ○子ども、保護者・地域、教職員が中神小でよかったと思える学校
- 自ら考え、主体的に学ぶ子ども ○互いを尊重し思いやりのある行動ができる子ども ○心身ともに健康でたくましい子ども
- 人権感覚を磨き子どもの自尊感情を高める教師 ○常に向上心をもち指導力向上に努める教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 諦めずに取り組む児童が90%以上である。	3	家庭学習の取り組み率、提出率は向上してきたが、一人では学習に集中できない児童の存在もある。	読書や漢字、計算の練習を繰り返し、学ぶことの習慣化につなげてほしい。できれば「勉強が好き」になるとよい。	A	現在検討中の「中神スタンダード」の項目を精査し、自ら学ぶ基本的な学習習慣や読書習慣を90%以上の児童に確実に定着させることを目指す。
3 諦めずに取り組む児童が80%以上である。					
2 諦めずに取り組む児童が70%以上					
1 諦めずに取り組む児童が70%未満である。					
4 テストの平均点が80点以上である。	3	東京ベーシックドリルは各学期に実施、平均点も向上しているが、二極化の傾向がある。	算数は分からなくなるとなかなか取り戻せないと思う。どの学年でも基礎・基本を理解し身に付くよう、引き続き取り組んでいただきたい。	A	東京ベーシックドリルテストの結果分析を丁寧に実施し、教員が明確な課題意識をもって児童の実態に応じた指導を行う。
3 テストの平均点が70点以上である。					
2 テストの平均点が60点以上である。					
1 テストの平均点が60点未満である。					
4 90%以上の児童がすすんでできた。	3	まとめたり発表したりする学習が習慣化するよう、毎時間多くの教科で取り組み、成果が上がってきている。	指導方法の工夫を通し、児童に考えさせる授業を進めている様子を、参観時に見受けた。成果が上がっているとのこと、喜ばしい。	A	資料や既習事項の活用、応用の場を更に増やし、児童の学力を様々な角度から育成し定着させることを目指す。
3 80%以上の児童がすすんでできた。					
2 70%以上の児童がすすんでできた。					
1 70%未満の児童がすすんでできた。					
4 主体的に問題解決しようとする児童が80%以上である。	4	教室の大型モニター等を利用して授業を行うことで、児童の学習意欲の向上が見られた。	児童が論理的に考える力を養う教育が一層進められることを期待する。	A	全児童に一台ずつ貸与されるタブレットの利用法を含めツールとしてのICTをどう活用して児童の学力の育成及び定着を図るか、全教職員で検討していく。
3 主体的に問題解決しようとする児童が70%以上である。					
2 主体的に問題解決しようとする児童が60%以上である。					
1 主体的に問題解決しようとする児童が60%未満である。					
4 場に応じたあいさつができる児童が90%以上である。	3	主に担任が挨拶の大切さを繰り返し指導し、ほとんどの児童は自主的に挨拶ができるようになった。	児童の自主的な挨拶を定着させてほしい。	A	全ての児童が自分からすすんで場に応じた挨拶ができるように、引き続き指導を継続していく。
3 場に応じたあいさつができる児童が80%以上である。					
2 場に応じたあいさつができる児童が70%以上である。					
1 場に応じたあいさつができる児童70%未満である。					
4 障害者への理解を深めた児童が90%以上である。	2	予定していた体験活動や直接の交流の実施が難しくなったため、1,3,4,5,6年が現在未実施である。	コロナ禍の影響で体験学習の機会がもてなかったのは残念である。	B	障害者理解教育については、体験や交流の方法を工夫するなどして、理解が深まる方法を検討していく。
3 障害者への理解を深めた児童が80%以上である。					
2 障害者への理解を深めた児童が70%以上である。					
1 障害者への理解を深めた児童が70%未満である。					
4 学校が楽しいと思っている児童が90%以上である。	3	どの学級でも人間関係の構築に関しては力を入れており、児童に考えさせ、話し合わせながら指導を進めている。	よりよい人間関係を築くことは、大人になっても大切である。更なる向上を期待する。	A	児童の居場所となる学級づくりについて、教員の課題意識の一層の向上を目指す。
3 学校が楽しいと思っている児童が80%以上である。					
2 学校が楽しいと思っている児童が70%以上である。					
1 学校が楽しいと思っている児童が70%未満である。					
4 自らすすんで取り組む児童が90%以上である。	3	「グッドモーニング60分」については家庭からの協力も得ており、生活リズムを意識する児童が増えている。	各家庭の事情もあるだろうが、登校時に心も体もよい状態で学校生活を送れるよう、指導をお願いしたい。	A	教員が児童の家庭生活も念頭に置いた健康教育を丁寧に進め、全ての児童がすすんでグッドモーニング60分に取り組もうとする意欲を育てる。
3 自らすすんで取り組む児童が80%以上である。					
2 自らすすんで取り組む児童が70%以上である。					
1 自らすすんで取り組む児童が70%未満である。					
4 オリンピック・パラリンピックに興味・関心をもつ児童が90%以上である。	3	オリンピック・パラリンピックについての学習を通じてスポーツに興味をもつ児童が増えたが、延期により意欲の維持が難しい状態である。	オリンピック・パラリンピックに関係なく、運動・スポーツに関心をもつ取り組みを期待する。	B	オリンピック・パラリンピックに向けての学習は進めているので、実施の如何を問わず、機会を見つけて運動への興味・関心を一層高めていく。
3 オリンピック・パラリンピックに興味・関心をもつ児童が80%以上である。					
2 オリンピック・パラリンピックに興味・関心をもつ児童が70%以上である。					
1 オリンピック・パラリンピックに興味・関心をもつ児童が70%未満である。					
4 楽しく活動できた児童が90%以上である。	4	児童は伝統文化の体験や見学に意欲的に参加したが、3年は予定していた体験ができなかった。	地域とのつながりは、児童の安心・安全にもつながるので、続けての取り組みをお願いしたい。	A	地域人材の活用や体験学習については、実施可能な形態を工夫するなどして、児童の学びの機会をできる限り保障していく。
3 楽しく活動できた児童が80%以上である。					
2 楽しく活動できた児童が70%以上である。					
1 楽しく活動でき児童が70%未満である。					
4 90%以上の児童が身を守る方法を知った。	4	授業時間以外にも、避難訓練や朝の会等を利用して自分で自分の身を守るよう指導し、児童の意識は向上した。	災害時の避難は、訓練したようにしか体が動かないといわれている。更なる向上を期待する。	A	新しい生活様式の定着も含め、自分や周囲の大切な命を守る学習の機会を繰り返し設定していく。
3 80%以上の児童が身を守る方法を知った。					
2 70%以上の児童が身を守る方法を知った。					
1 70%未満の児童が身を守る方法を知った。					

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校 ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的で深い学びの実現。	休校に伴う時数の削減等に臨機応変に対応し、各学年で指導する内容を確実に定着させるようにしていく。	月ごとに各単元の指導計画の見直しを行う。 モジュール学習を活用して、学習活動の充実と内容の定着を図る。	4	全学年において、必要な学習内容の指導を達成した。	4
				3	5学年以上で、必要な学習内容の指導を達成した。	
				2	4学年以上で、必要な学習内容の指導を達成した。	
				1	3学年以下で、必要な学習内容の指導を達成した。	
		学ぶことの楽しさを味わわせる授業を積み重ね、児童の学びに向かう力を向上させていく。	新型コロナウイルスの感染防止に取り組みながらも、児童自身に課題意識をもたせ、児童主体の問題解決学習を展開していく。	4	8割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	3
				3	7割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
				2	6割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
				1	6割未満の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
		児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	休校明けに実態把握テストの実施、及び、学期ごとの振り返りと課題への対応策の計画と実施を行う。	4	全学年で計画通り実施した。	4
				3	5学年以上で計画通り実施した。	
				2	4学年以上で計画通り実施した。	
				1	3学年以下で計画通り実施した。	
豊かな心	自分とともに他者を大切にできる態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成を図る。	自発的にあいさつをする態度を養い、あいさつが自然に通い合う関係をつくる。	ふれあい月間であいさつ運動を実施する。年度内で3回学校生活目標にあいさつを取り上げて、あいさつ指導の強化を図る。	4	全教員が日常的に指導した。	4
				3	90%以上の教員が日常的に指導した。	
				2	80%以上の教員が日常的に指導した。	
				1	80%未満の教員が日常的に指導した。	
		新型コロナウイルスの感染拡大防止を講じながら児童が落ち着いて安心した学校生活を送ることができるようにする。	児童、保護者、教職員が共通理解できるよう感染拡大予防ガイドラインを作成し、年間を通じて感染予防策を実施できるようにする。	4	全教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。	4
				3	90%以上の教員ガイドラインを活用し、実践に活かした。	
				2	80%以上の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。	
				1	80%未満の教員がガイドラインを活用し、実践に活かした。	
		いじめの未然防止・早期発見・早期解決を行う。人権についての教育を推進する。	軽微ないじめを見逃さない情報共有の日常化と、組織的対応を行う。新型コロナウイルスに関する差別や偏見に対する理解教育を行う。	4	全教員が日常的に情報共有を行った。	4
				3	90%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				2	80%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				1	80%未満の教員が日常的に情報共有を行った。	
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成を図る。	休校時での体力低下の回復とさらなる体力向上を図る。	休校明けのミニ体力テストで体力実態を把握し、休み時間の運動推進と体育授業の改善を行い、2学期予定の体力テストで一人一人の数値を上げる。	4	全児童の数値が上がった。	1
				3	90%以上の児童の数値が上がった。	
				2	80%以上の児童の数値が上がった。	
				1	70%以上の児童の数値が上がった。	
		元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用し、児童の健康意識を高める。	からだ力向上週間、生活リズム記録と振り返りを行う。	4	全学級で記録と振り返りを行った。	4
				3	90%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				2	80%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				1	70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
		児童の危険を予測し、回避する能力を向上させる。	「安全教育プログラム」とワークシート等を活用した安全指導を行う。	4	全学級で指導・活用した。	4
				3	90%以上の学級で指導・活用した。	
				2	80%以上の学級で指導・活用した。	
				1	80%未満の学級で指導・活用した。	
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者とのかかわろうとする児童の育成を図る。	学級活動や学校行事などに、自己のよさを発揮しながら積極的にかわり、自己表現を図ろうとする態度を養う。	「特別活動大人の10の流儀」を意識し、児童が自主的に参画できるように行動する。	4	全教員が意識し、実践に生かした。	4
				3	90%以上の教員が意識し、実践に生かした。	
				2	80%以上の教員が意識し、実践に生かした。	
				1	60%以上の教員が意識し、実践に生かした。	
		中止や縮小の中でも、知恵を出し、工夫しながら新たな行事を生み出し、児童に達成感や連帯感をもたせる。	休校時各自が作った作品を基にミニアートフェスを開催し、さらに秋のアートフェスにつなげる日常の取組を行う。	4	80%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	4
				3	70%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	
				2	60%以上の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	
				1	60%未満の児童が楽しく参加し、協力して取り組んだ。	
		学級活動や児童会・クラブ活動で、集団の一員として学級や学校をよくしようとする態度や自己有用感を高める。	学級活動や、児童会・クラブ活動の時間に、課題を解決するための話し合いの時間を設定する。	4	90%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	3
				3	80%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	
				2	70%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	
				1	70%未満の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	

年度末評価【総括表】

「だれもが笑顔になる学校」○ひとりぼっちにしない学校 ○未来に向かってチャレンジする学校 ○ともに学びを創造する学校
○自ら課題を見付け、論理的に解決する子 ○感性を働かせ、創造・表現する子 ○お互いを認め合い、助け合える子 ○すすんで人とつながる子 ○自ら体を整え、健全な生活を築く子
○子供第一主義で行動する教師 ○子供の「人間モデル」としての教師 ○指導力向上を目指し学び続ける教師 ○家庭や地域と連携できる教師 ○健康管理ができ、人間性豊かな教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 国語・算数の検証テスト4学年以上で達成率80%以上	4	評価は4であるが、国語・算数共に学年が上がるにつれて達成率は下がっている。今年度は、休校に伴う時数削減を踏まえ、月ごとに各単元の指導計画の見直しを行いモジュール学習等を活用して、学習活動の充実と内容の定着を概ね図ることができた。	・休校期間があったが、時数の確保をし、学習内容を確実に教えている。	A	カリキュラムマネジメントを意識した単元計画の見直し、家庭学習のあり方を工夫し思考力・表現力を伴う学力の定着を図る。
3 国語・算数の検証テスト4学年以上で達成率75%以上					
2 国語・算数の検証テスト4学年以上で達成率70%以上					
1 国語・算数の検証テスト4学年以上で達成率70%未満					
4 児童アンケート「進んで学習に取り組む」90%以上	4	学ぶことの楽しさを味わわせる授業、児童が主体的に授業改善を意識した授業を積み重ねたことで、児童の学びに向かう力に変容が見え始めた。	・児童たちの様子や学習状況を聞いて、確実に学力が定着しているのを感じる。	A	引き続き、新型コロナウイルスの感染防止に取り組みながら、児童自身に課題意識をもたせ、児童主体の問題解決学習を展開していく。また、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業研究・実践を図る。
3 児童アンケート「進んで学習に取り組む」80%以上					
2 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%以上					
1 児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%未満					
4 児童アンケート「授業内容が分かる」90%以上	4	休校明けに児童の実態調査を行い、実態に即した授業改善を行った。また、3観点に基づく評価や教科や単元のカリキュラムマネジメントを行うことで、めあてを明確にした授業の実践され、学力の向上につながった。	・コロナ禍ではあるけれど、教員は児童の学びが充実するよう頑張っている。	A	実態把握テストの実施、及び学期ごとの振り返りと課題への対応策の計画と実施を行う。めあてを明確にし、児童が達成感をもてる授業実践を行う。また、指導と評価の一体化を意識した授業作りを行う。
3 児童アンケート「授業内容が分かる」80%以上					
2 児童アンケート「授業内容が分かる」70%以上					
1 児童アンケート「授業内容が分かる」70%未満					
4 児童アンケート「自分からあいさつ」が80%以上	4	児童の自己評価では肯定的評価が高い。前年度と比べてもあいさつできる児童が増えてきている。一方で来校者に対するあいさつが課題である。	・校内ではあいさつをする児童が増えてきているようだが、校外で見守りの方等にも自発的なあいさつができるように指導して行ってほしい。	B	教育計画を基に、職員間で再度あいさつに関する指導内容の共通理解を行い、全職員で指導を徹底できるようにする。
3 児童アンケート「自分からあいさつ」が70%以上					
2 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%以上					
1 児童アンケート「自分からあいさつ」が60%未満					
4 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が80%以上	4	「昭島市立学校ユニバーサルデザイン」による環境づくりが定着している。学年が変わっても落ち着いて学習に取り組める児童が増えた。	・児童はコロナ禍を受け入れて、感染防止を理解し、生活できていた。	A	取組が継続するよう年度始め、学期始めに「昭島市立学校ユニバーサルデザイン」を全職員で読み、共通理解を図る。
3 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が70%以上					
2 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%以上					
1 児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%未満					
4 児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上	4	いじめアンケート、ふれあい月間による指導により児童の意識は高まっている。一方でいじめ対策委員会を開くこともあり、全児童への意識の定着化には課題が残った。	・これからもいじめを見逃さないようにアンケートを高くして児童の様子を見てほしい。 ・コロナに関するいじめがないことは良かった。引き続き、丁寧な指導をしてほしい。	A	軽微ないじめを見逃さないよう「いじめ総合対策【第2次】」を活用し、校内研修などでいじめ対策への理解を深めていく。
3 児童アンケート「いじめは許さないこと」が80%以上					
2 児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%以上					
1 児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%未満					
4 体力テストの結果が4学年以上8項目中4項目で都平均以上	2	休校中の取組により柔軟性や敏捷性は向上したが、その他の項目は都の平均を下回る結果となった。元気アップタイムを実施し、運動に親しむ機会を設けた。	・児童の体力が向上するように保護者や地域と連携していく必要がある。 ・親子で体力テストをする機会があり良かった。今後につなげられる。	B	平均を下回る項目を重点的に向上できるよう、年間を通して活動を行う計画を立てる。
3 体力テストの結果が4学年以上8項目中3項目で都平均以上					
2 体力テストの結果が4学年以上8項目中2項目で都平均以上					
1 体力テストの結果8項目中1項目で都平均以上が4学年未満					
4 児童アンケート「健康について学び理解している」80%	4	生活リズムカードや年間を通した取組んだことで、休校明けや長期休業後も健康に対する意識が高まった。	・生活リズムが不規則な児童は少ないと感じる。日頃の先生たちの指導が生きている。	A	生活リズムカードの取組を継続していく。また、身体計測時の健康指導も来年度の取組に加える。
3 児童アンケート「健康について学び理解している」70%					
2 児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上					
1 児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満					
4 児童アンケート「安全を理解し生活」80%	4	月ごとの安全指導、様々な想定避難訓練などの実施により、危険予測・回避能力が高まった。	・スマホの扱いに関する情報モラル教育もすすめてほしい。 ・避難訓練が確実に定着している。 ・登校時の安全に対する意識が不足している児童がいる。交通安全教育を徹底してほしい。	A	継続して、安全教育プログラムやワークシートを活用した安全指導を実施していく。
3 児童アンケート「安全を理解し生活」70%					
2 児童アンケート「安全を理解し生活」60%以上					
1 児童アンケート「安全を理解し生活」60%未満					
4 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」90%以上	4	感染症対策により、学校行事に工夫が必要となった。ねらいや方針を明確にし、児童の自主性・表現を大事にすることを教員が共有することで、多くの児童が意欲的に取り組むことができた。	・学校行事がコロナ禍でも実施できるよう工夫されていた。 ・行事を工夫して取り組むことで確実に結果を出している。	A	行事のねらいを明確化し、教員の指導における行動目標(大人の10の流儀)を継続的に共通理解していく。
3 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」80%以上					
2 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」70%以上					
1 児童アンケート「学級活動や行事で力を発揮できた」70%未満					
4 児童アンケート「行事の満足度」80%以上	4	個々の作品をクラス・学年共同作品に発展させる取り組みを通して、「話し合う・創作する・認め合う」ことができた。保護者に作品を通して、協働のよさを伝えることができた。	・アートフェスティバルの各学年の作品に児童の気持ちがよく込められていた。 ・6年生の卒業映画製作ができたことは素晴らしいことである。	A	今年度の行事の成果を、今後の行事運営の中に生かせることもある。学校全体の流れ、学年の実態を考慮した行事づくりを行う。
3 児童アンケート「行事の満足度」70%以上					
2 児童アンケート「行事の満足度」60%以上					
1 児童アンケート「行事の満足度」60%未満					
4 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」80%以上	4	集団として活動したり、話し合ったりすることを制限せざるを得ない状況のため、特別活動的な経験を十分にさせられなかった。	・コロナ禍で交流が制限された中で、よく工夫していた。 ・6年生を送る会での各学年の取り組みが学校に一体感を生んだ。	A	低学年から話し合いの機会を意識的に設定していく。縦割り班活動、異学年交流の経験が不足したため、ねらいを明確にし、計画する。
3 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」70%以上					
2 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」60%以上					
1 児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」60%未満					

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康な子 ◎ 考える子 ○ すすんでする子 ○ 協力する子 	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	授業改善を推進し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	新学習指導要領に沿った授業改善、評価の工夫、個に応じた指導の充実を図る。	・評価を明確にした学習の展開 ・単元の学習過程を意識した教材研究 ・個に応じた指導を意識した学習展開 ・学力調査の分析を行い、改善プランを作成し実践する ・朝自習、家庭学習の充実	4 5項目全て取り組むことができた。	3
			3 4項目は取り組むことができた		
			2 3項目は取り組むことができた。		
		読書に関する指導や、読書の習慣化の取組を日常化し、読書活動の充実をめざす。	・朝読書の質の向上 ・読書月間の取組の充実 ・図書支援員の有効活用 ・定期的な意識調査の実施	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		特別支援教育の視点を生かした環境整備の充実、授業改善の推進。	・校内委員会の内容の充実 ・特支教員との共同実践 ・学習用具、生活用具等、ものの定位置指導の徹底 ・研修会の実施(学び合い)	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
豊かな心	計画的な道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成をめざす。	道徳授業の質の向上を図り、自分の考え方に気づき、互いに認め合う児童の育成をめざす。	・自己申告授業観察での公開 ・価値を明確にした授業と児童の変容の見取り(評価の工夫) ・年間計画の確実な実施 ・全教育活動で見える化を図り、児童の実践力を高める	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、問題行動に素早く気づき対応し、安心して通える学校をめざす。	・人権教育プログラムの活用 ・いじめ防止対策冊子の活用 ・生活指導夕会での情報共有と素早い対応、報連相の徹底 ・いじめアンケートの確実な実施	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		人や自然、文化との関わりを通して、本物と出会い自尊感情や自己有用感を高める。	・人間体験活動の実施 ・実践体験活動の実施 ・栽培体験活動の実施 ・縦割り班活動の充実	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
健やかな体	計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成をめざす。	心身ともに健康で、自己管理のできるたくましい児童の育成に向けた取組に挑戦する。	・元気アップガイドブックの活用(体育の授業改善) ・グッドモーニング60分の取組 ・いきいきカードの実施 ・食育に関する指導の取組	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		一人一人が体力向上を意識できる、体育学習の充実を図る。	・めあてが明確な学習の展開 ・体力運動能力調査の分析と、具体的な取組みの推進 ・体育朝会の充実と授業で活用 ・計画的なミニ研修会の実施	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		オリンピック・パラリンピック教育を意図的、計画的に推進する。	・オリ・パラ読本、ビデオ教材の活用 ・チャレンジ、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践 ・オリンピックの観戦、応援 ・オリンピックやパラリンピアンを招聘しての講話や実技指導	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
輝く未来	幼・保・小・中の連携した教育の充実を図り、未来に向けて夢と希望をもち実現しようと努力する児童の育成をめざす。	学級会活動をはじめ、全教育活動において、キャリア教育の充実を図る。	・学校生活への適応 ・仲間づくり、集団の結束 ・自らの役割の自覚 ・年間指導計画に応じた、キャリア教育実践の充実	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		幼・保・小・中の連携について、効果的な方法を検討し実践する。	・年3回の中学校区の計画的な交流活動 ・小中連携の具体的な方策の検討・実践 ・入学前の幼・保との交流活動 ・スタートカリキュラムの推進	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		
		保護者・地域との連携を通して、様々な活動する大人から学び、将来への希望をもつ。	・地域人材を活用した活動内容の充実 ・家庭訪問、個人面談を実施し、児童の状況を把握。必要に応じて個別の指導計画の作成、専門医機関との連携する。 ・PTA活動への理解と協力、参加。 ・地域行事へ年1回参加	4 4項目全て取り組むことができた。	3
			3 3項目は取り組むことができた		
			2 2項目は取り組むことができた。		

：度末評価【総括表】

- 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)
- 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
- 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度の改善策
4 90%以上の児童が授業工夫してると回答	3	教師は、新学習指導要領に沿った授業改善に向けて取り組むことができた。対話的・活動的実践を通して児童の学びを実現するよう心がけるとともに、新しい評価についても取り組んだ。児童も教師の授業の工夫を概ね感じていることが分かる。	コロナ禍、保護者・PTAの目配りとともに、子供が安心して学習に取り組めるよう工夫している教職員の努力を評価したい。コロナ禍という名目のもとに詰め込み式の時間に追われた形の学習で非常に残念。自主性のある、学びが一日も早く行われることを望む。	B	本年度十分に取り組みなかった新学習指導要領の取組について校内研修に位置付け、適切に取り組みを進めていく。
3 80%～90%未満の児童が授業工夫してると回答					
2 70%～80%未満の児童が授業工夫してると回答					
1 70%未満の児童が授業工夫してると回答					
4 95%以上の児童が週1～2日以上読書している回答	1	コロナ禍にあっても、読書週間の取組を行うことができた。しかし、例年以上の取組まで手が回らなかったことが現状である。児童の読書時間の結果は82.5%なので決して悪いとは言えない。本を読む週間が身に付かない児童への働きかけが必要である。	図書ボラによる読み聞かせ等もすべて中止になり、例年よりも取組が足りなかった。放課後開放や週末開放など工夫すればもっと出来たと思う。	C	国語の物語文の指導後に関連した本の紹介や、委員会活動の読み聞かせの活動の充実に努め、児童の読書に対する意欲を高めた。
3 90～95%未満の児童が週1～2日以上読書している回答					
2 85～90%未満の児童が週1～2日以上読書している回答					
1 80～85%未満の児童が週1～2日以上読書している回答					
4 90%以上の児童が授業が分かる回答	4	ユニバーサルデザインの指導を充実させ、どの児童にもわかりやすい指導を心がけていること、また、教師の学び合いの成果が感じられる。児童の「授業が分かる」の評価も高くなっている。	校内委員会やくすのきの取り組みなど全く状況がわからない。学校公開もしていない中、もう少し工夫して学校の様子や活動を具体的に公開するほうがよかった。	B	学びにくさを感じる児童が増えているため、ユニバーサルデザインによる学ぶ環境の整備や習慣付け、自ら学ぶ意欲を高める指導の工夫に引き続き取り組む。
3 80%～90%未満の児童が授業が分かる回答					
2 70%～80%未満の児童が授業が分かる回答					
1 70%未満の児童が授業が分かる回答					
4 90%以上の児童が大切さを学ぶことができた回答	3	道徳授業地区公開講座を実施できなかったが、2学期の研修として全員が道徳の授業を行い、指導の工夫を行った。自分のこと結び付けて考え振り返る、学習の充実により、児童の「大切なことを学ぶ」と回答する児童の割合が高くなったと考えられる。	いじめや困りごと等々を注意深く見直す「ふれあい月間」の意識的な取組は大切なことである。教科書に基づきだけの授業では子どもの思想に対して悪影響があり、多様性を共有するよう改善を求めたい。また人権に関してはもう少し時間を取ってほしいと思う。	B	今後も道徳授業の在り方について研修を深め、児童が自分ごととして考え、判断する力を高められるようにしていく。
3 85%～90%未満の児童が大切さを学ぶことができた回答					
2 80%～85%未満の児童が大切さを学ぶことができた回答					
1 80%未満の児童が大切さを学ぶことができた回答					
4 90%以上の児童が判断できた回答	3	年間3回のアンケートや、児童の情報共有の時間を有効活用することにより、迅速に対応することができた。また、ふれあい月間における道徳授業や、言葉遣いや気持ちのよいマナーエチケットについて考える取組を児童の意識付けにつなげることができた。	子供たちのアンケート結果「自分は大切にされている」94.3%「思いやりをもって行動している」87.7%と豊かな心は育っていると思う。新入生やクラス替え、専科の教師など環境が変わった学年や教科に対して学校が始まったばかりの(6月ごろ)導入プロセスが良くなったと思う。もう少し時間をかけてお互いを承認しあう信頼関係を築くプロセスが必要だったと思う。	B	ふれあい月間において人権について考える機会を大切に、自分の身近で起きる様々な問題について考えさせ、自ら解決できる判断力を養っていきたい。
3 85%～90%未満の児童が判断できた回答					
2 80%～85%未満の児童が判断できた回答					
1 80%未満の児童が判断できた回答					
4 90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	3	コロナウイルスの感染防止のため、体験活動の自由度は低かったが、ゲストティーチャーを招待して学んだり、縦割り班の活動を工夫したりして活動できた。児童の評価も低くならず、コロナ禍にあっても楽しいと感じる児童が88%となりよかった。	本物を見て体験することは大切。今後の充実を期待する。体験活動はアキシマエンスのみ。校長の判断によって中止となった。他校はもっとできていた。	B	来年度も、どのような学習環境になるか分からないが、方法を工夫して人との関わり、自然や地域との関わりを大切にしていきたい。
3 85%～90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
2 80%～85%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
1 80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
4 90%以上の児童が安全健康について学ぶと回答	3	毎日の検温、健康観察、手洗いの習慣が身に付き自己の健康に関する意識が高めることができた。また、グッドモーニング60分の取組も2年目になり、定着している児童も増えてきた。	生活習慣は日々の積み重ね。今後も著実に身に付けて欲しい。グッドモーニング60分など子供たちに自主的に意識させる試みは良かった。運動会の練習よりも内容に時間をかけたのは良かった。放課後のスポーツタイム(休曜日)の復活を望む。	B	年3回のいきいきカードの取組を今後も続け、健康に関する意識を高め、自分の健康は自分で守れる児童を育成する。
3 85%～90%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
2 80%～85%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
1 80%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
4 90%以上の児童が体力付いていると回答	2	体育学習の制限もあったが、体育学習や体育朝会の工夫を行った。しかし、体力の低下が心配されている。児童自身も体力の高まりについては85%の児童が肯定的に感じているが、体力の高まりを感じられない児童もいることが分かる。	スポーツフェスティバル、マラソン週間等、体育の学びを生かした学年の工夫、互いの頑張りを認め合う児童の育成を評価する。	B	次年度も体育指導の制限があったとしても、計画段階から内容を工夫したり、体育朝会での運動の紹介を充実させ、児童の運動の機会と場を確保していく。
3 85%～90%未満の児童が体力付いていると回答					
2 80%～85%未満の児童が体力付いていると回答					
1 80%未満の児童が体力付いていると回答					
4 80%以上の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答	1	年間計画に沿って指導に取り組んだが、体験・交流の活動ができなかった。また、2020オリンピック・パラリンピックの開催が次年度に延期したこともあり、教師・児童ともに意識が高まらなかったことが考えられる。	全く活動できていない。	C	延期したオリンピック・パラリンピックの開催は確定していないが、オリンピックの4つのテーマ「精神・スポーツ・文化・環境」について考えさせていきたい。
3 75%～80%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
2 70%～75%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
1 70%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
4 90%以上の児童が自分の得意なものを考えたと回答	2	休校期間もあったため、PA等の研修を行い、児童の仲間づくり力を入れた。また、学校全体での行事が行えなかったため、学年や学級での取組や縦割り班の活動を中心に自己肯定感を高められるよう工夫した。80%の児童が自己肯定感をもちることができた。	キャリア教育実施は6年生のキッズニアのみ。もっと工夫すれば、オンラインで講義してもらったり出来たはず。	B	キャリア・パスポートの取組をはじめ、自分の目標の設定・活動・振り返りの活動を通して、自己を見つめ達成感を味わえるよう指導していきたい。
3 85%～90%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
2 80%～85%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
1 80%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
4 90%以上の児童が将来について考えたと回答	2	6月からの取組であったが、スタートカリキュラムを取り入れることができた。小中の交流を行うことはできなかった。幼稚園保育園の情報交換は、必要に応じて行うことができた。	全く活動できていない。2021年度の昭島市スタートカリキュラムに期待する。	B	次年度はスタートカリキュラムの取組を充実させ、幼稚園保育園との情報交換も密にし、学校生活へのスムーズな移行を目指す。
3 85%～90%未満の児童が将来について考えたと回答					
2 75%～85%未満の児童が将来について考えたと回答					
1 75%未満の児童が将来について考えたと回答					
4 90%以上の児童が地域の方とのふれあいできた回答	1	例年通りの学校公開や授業参観を行うことができなかった。夏休みの個人面談・11月の授業参観、保護者会を通して保護者との交流をもつことに努めた。地域を生かした学習にも取り組みず残念だった。	都道の見守りを自治会・PTAでできていることを評価する。また、子供会の行事等のボランティア活動を通じて成長できたことも評価する。	B	次年度の状況が見通せないが、保護者会、授業参観は本年度程度は行いたい。地域との交流はできることを模索してみたい。
3 85%～90%未満の児童が地域の方とのふれあいえた回答					
2 75%～85%未満の児童が地域の方とのふれあいえた回答					
1 75%未満の児童が地域の方とのふれあいえた回答					

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	主体的・対話的・深い学びを通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用できる力を身に付けさせる授業の実現に努める。	個々の学習状況を明確にするとともに、読む・書く・計算する力を付けさせる。	始業前15分学習(水:読書、火・金:国・算の反復学習)の充実を図る。	4 毎回9割以上の学級が13分以上取り組んだ。 3 毎回8割以上の学級が10分以上取り組んだ。 2 10分以上確保できていない学級が5割以上ある。 1 学習以外に使っている学級が5割以上ある。	4
		家庭学習を重視し、復習することを習慣付けさせる。	家庭学習チェック表等を活用して家庭学習の習慣化を徹底する。	4 家庭学習チェックを全クラスで実施した。 3 家庭学習チェックを10学級以上12学級未満で実施した。 2 家庭学習チェックを8学級以上10学級未満で実施した。 1 家庭学習チェックの実施が8学級未満だった。	4
		どの子にも分かりやすい授業を実施する(ユニバーサルデザイン)。	市のユニバーサルデザインの冊子にあるチェックを毎月1回以上行い適切な環境作りをする。	4 全教室で月1回以上チェックを実施できた。 3 全教室で年11回以上チェックを実施できた。 2 全教室で年10回以上チェックを実施できた。 1 全教室で年9回以上チェックを実施できた。	4
豊かな心	人権意識を高めて自己とともに大切にしている態度を育成するとともに、集団の一員である自覚と規範意識の育成を図る。	明るく元気で挨拶のあふれる学校にする。	PTAと連携してあいさつ運動を推進する。	4 あいさつ運動を10回以上実施できた。 3 あいさつ運動を8回以上10回未満実施できた。 2 あいさつ運動を6回以上8回未満実施できた。 1 あいさつ運動の実施が6回未満だった。	3
		道徳科の特質に即した授業をしっかりと行い、児童の道徳性を育む。	都道徳教材集を毎月1回以上持ち帰らせ、家庭との連携ツールとして活用する。	4 全学級で実施できた。 3 9割以上の学級で実施できた。 2 8割以上9割未満の学級で実施できた。 1 実施できた学級が8割未満だった。	4
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用し、人権感覚チェックを毎学期・年3回以上行う。	4 年3回以上チェックを実施できた。 3 年2回チェックを実施できた。 2 年1回チェックを実施できた。 1 チェックを実施できなかった。	4
健やかな体	健康で安全な生活を送るための生活習慣を身に付けさせるとともに、日常的な運動を通して体力を向上させる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用し、体力向上のための体育的な活動を行う。	4 意欲的に活動できた児童が9割以上だった。 3 意欲的に活動できた児童が7割以上9割未満だった。 2 意欲的に活動できた児童が5割以上7割未満だった。 1 意欲的に活動できた児童が5割未満だった。	4
		健康で安全な生活習慣を送るための生活習慣を身に付ける。	元気アップガイドブックを活用して、生活習慣を身に付けるための健康教育・食育を行う。	4 健康教育や食育の授業を各学期に1回以上実施した。 3 健康教育や食育の授業を年間2回以上実施した。 2 健康教育や食育の授業を年間1回実施した。 1 健康教育や食育の授業を実施できなかった。	3
輝く未来	学校公開を推進して家庭・地域との信頼関係を構築するとともに、家庭・地域との連携を充実させ、教育活動への参画意識の向上を図る。	保護者や地域関係者が月に1回以上来校する機会を設定する。	学校公開と保護者会を同日に開催する等、来校しやすい日時を設定する。	4 18月を除く11か月で実施できた。 3 10か月以上で実施できた。 2 9か月以上で実施できた。 1 8か月以下の実施だった。	1
		学校からの情報発信を積極的に行う。	毎月の学校だよりの発行と、月1回以上HPを更新して最新の情報を発信する。	4 学校だよりの発行とHPの更新を12か月でできた。 3 学校だよりの発行とHPの更新を11か月でできた。 2 学校だよりの発行とHPの更新を10か月でできた。 1 学校だよりの発行とHPの更新が10か月未満だった。	4

年度末評価【総括表】

笑顔と信頼あふれる魅力あるSEIRIN小学校 (Smile:笑顔,Energy:元気,Idea:発想,Reliance:信頼,Improve:改善,New:新鮮・進取)

○互いを認め協力し合う子 ○主体的に学習に取り組む子 ○心身を鍛え正しい判断で行動する子

○当たり前のことを当たり前に行い生き生きと仕事ができる教師 ○個々の個性や専門性を発揮し、組織的に教育活動を展開できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均以上。	-	休校後の学力向上を図る取組と教員も意識高く取り組んだ。市学力調査中止のため成果指標の評価ができず。	コロナ禍の中で総合的な取組を導入し、効率的に学習の機会を与えている。	A	朝学習指導計画を整備するとともに、朝学習の取組の質を向上させる。
3 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均-5pt以内。					
2 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均-10pt以内。					
1 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均-10pt以上。					
4 家庭学習の課題を9割以上がやってくる。	4	家庭学習の取組は十分に定着している。個に応じた課題設定にも取り組み始めている。	コロナ禍で家庭での生活に重きが置かれる中で、家庭での学習の充実が今以上に必要となる。	A	学級全体への課題、個に応じた課題、自主的な学習をバランスよく効果的に実施していく。
3 家庭学習の課題を7割以上9割未満がやってくる。					
2 家庭学習の課題を5割以上7割未満がやってくる。					
1 家庭学習の課題を5割未満しかやってこない。					
4 児童評価で「授業が分かりやすい」92%以上	3	結果は90%。教員にUDチェックさせることはできているが主体的に確認し実践できる教師集団にしていきたい。	新型コロナウイルス流行で大変な年となり、教職員の方々の努力に感謝したい。	A	ユニバーサルデザインについての教員の意識をさらに高めて、より分かりやすい授業を実践していく。
3 児童評価で「授業が分かりやすい」75%以上92%未満。					
2 児童評価で「授業が分かりやすい」55%以上75%未満。					
1 児童評価で「授業が分かりやすい」55%未満					
4 児童による評価で「あいさつができる」90%以上	3	校内調査結果は86%。学校再開後、感染症拡大防止の観点からPTAとの連携はできず、代表委員会を中心に9回実施した。	コロナ禍でも具体的方策を修正して実施したのがよい。児童が主体的にあいさつする様子が見える。	A	感染症拡大防止を最大限に行いながら、あいさつ運動を実施していく。
3 児童による評価で「あいさつができる」75%以上90%未満。					
2 児童による評価で「あいさつができる」55%以上75%未満。					
1 児童による評価で「あいさつができる」55%未満					
4 児童による授業評価で「自分は役に立っている」90%以上	3	校内調査結果は84%。都教材集を保護者との情報ツールとして活用できた。学級担任によって活用には温度差あり。	道徳が重要な学習だと捉えて取り組んでいて良い。道徳はこれからの平等な人権社会の醸成に必須である。	B	自尊感情の研究協力と関連付けながら、道徳的価値の自覚を深め、自尊感情を高めていく授業を行う。
3 児童による授業評価で「自分は役に立っている」75%以上90%未満。					
2 児童による授業評価で「自分は役に立っている」55%以上75%未満。					
1 児童による授業評価で「自分は役に立っている」55%未満					
4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上	4	校内調査結果は90%。さらに信頼される教師になるためには、教師自身の人権感覚を磨くことが重要である。	自己肯定感が育つ学校は素晴らしい。ほめる力を習慣化したい。先生には一人の人間として子供と接して欲しい。	B	全教員が「待つ・聴く・受け止める」ことを常に心がけ、児童一人一人に寄り添う指導を実践する。
3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満。					
2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満。					
1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満					
4 体力調査のA、B判定の合計が5割以上。	3	休校後に実施した校内での体力調査の結果、児童の体力(特に筋力・持久力)の低下が見られた。	子供たちが校庭を走り回る姿を見て元気なことが伺える。今後も楽しく運動できる取組をお願いしたい。	A	本校のレガシーである元気アップの取組を継続させ、児童の体力向上と低下防止に努める。
3 体力調査のA、B判定の合計が4割以上5割未満。					
2 体力調査のA、B判定の合計が3割以上4割未満。					
1 体力調査のA、B判定の合計が3割未満。					
4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	GM60分は発達段階による差が見られ、多忙な高学年にとっては9割以上は難しくなっている。	元気アップが再開できてよかった。今後も継続的に続けていって欲しい。	B	成果指標を、低中は9割以上、高は8割以上に修正し、年間計画に位置付けてしっかりと取り組んでいく。
3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。					
2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。					
4 参加者数の平均が家庭数の8割以上。	3	コロナ禍で来校の機会が減ったが、その分だけ1回の参加割合が増加した。	今年はコロナのため難しかったと思う。保護者会・授業公開以外で保護者との関わりをどう作るのが課題である。	D	感染症拡大防止対策をしっかりと行いながら、保護者が来校できる機会を増やしていく。
3 参加者数の平均が家庭数の6割以上8割未満。					
2 参加者数の平均が家庭数の5割以上6割未満。					
1 参加者数の平均が家庭数の5割未満。					
4 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が9割以上。	4	校内調査結果は92%。来校機会が減り、通信が貴重な情報ツールとなった。HPについても更新回数も大きく増やすことができた。	内容の濃い学校便りと思いやりメールの取組が良い。来校できない中で数少ない情報減となっている。	B	ウィズコロナの今、通信やHPを情報発信の重要ツールと捉えてより一層の充実を図る。
3 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が7割以上9割未満。					
2 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割以上7割未満。					
1 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割未満。					

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考える子 ・思いやりのある子 ・たくましい子 	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に し、分かる授業の実践 に努める。(休校時の 学習内容の定着・授業 改善・学習指導要領の 完全実施)	読み書き、四則計算の 力を定着させる。	授業、ベーシックドリル、e ラーニング、日常の書言 うテスト、力試し、補教教室 宿題、家庭学習、ラボ等	4 漢字、計算の定着を90%以上図った。 3 漢字、計算の定着を80%以上図った。 2 漢字、計算の定着を70%以上図った。 1 漢字、計算の定着を70%未満。	2
		朝読書、読書旬間等で 意欲を高め、学年相応 の読書をさせる。	月曜日、金曜日の朝読 書、図書館利用、図書の 貸し出し活用、読み聞か せ、昭島エンシスの勧め	4 読書計画に基づいての実施率100% 3 読書計画に基づいての実施率90% 2 読書計画に基づいての実施率80% 1 読書計画に基づいての実施率80%未満	2
		学年相当の時間(学年 ×10分)に基づいた家 庭学習を推進させる。	自己の課題克服 グットライフ調査 宿題+自学自習	4 各学年家庭学習実施率95%以上 3 各学年家庭学習実施率92%以上 2 各学年家庭学習実施率90%以上 1 各学年家庭学習実施率90%未満	2
豊かな心	生命を尊重し互いに認 め合える、豊かな心を 育てる。	様々な体験を通して、心 の交流を(児童・教師) 図る。	縦割り班活動 奉仕御活動 栽培活動、人権の花 通常の学級と固定学級	4 児童の積極的参加を100%にする。 3 児童の積極的参加を90%にする。 2 児童の積極的参加を80%にする。 1 児童の積極的参加を70%にする。	2
		教室・学習環境を見直 して、すべての児童に やさしい学校・学級にす る。	児童理解に努め、個に 応じた指導を進める。	4 市UDチェック④項目できている。 3 市UDチェック⑧項目できている。 2 市UDチェック⑦項目できている。 1 市UDチェック③項目未満できている。	2
		学校生活をより楽しいも のにする。	授業、特別活動、交友 関係の充実	4 楽しくする工夫をしているか90%以上 3 楽しくする工夫をしているか85%以上 2 楽しくする工夫をしているか80%以上 1 楽しくする工夫をしているか80%未満	3
健やかな体	丈夫な体とたくましい 心を育てる。	児童の基礎体力の向上 を図る。	元気アップガイドや学 習カードを活用して、 運動の学び方を身に つけ体力をつける。	4 元気アップガイドの活用週3回以上 3 元気アップガイドの活用週2回以上 2 元気アップガイドの活用週1回 1 元気アップガイドの活用週1回未満	3
		健康教育、食に関する 指導を推進する。	担任の声かけ 視覚的な掲示 食のバランス意識 残さいのおにぎり換算	4 週のうち完食が4回 3 週のうち完食が3回 2 週のうち完食が2回 1 週のうち完食が1回	2
		自分の命は自分で守 る。	手洗い、うがい、咳エ チケット、体温、三密等	4 自己の健康管理と他への配慮事項 3 いつでも、どこでも実践するよう指導 2 校庭→校舎内、給食時の指導 1 給食時の手洗い指導	3
輝く未来	自分の将来を見つめ、 自らの生き方を考える 力を育てる。	将来の夢を児童にもた せる。	職場体験 マイキャリアシート 家族の職業について 理解を深めさせる	4 生き方について考える機会を与えた71%以上 3 生き方について考える機会を与えた63%~70% 2 生き方について考える機会を与えた62% 1 生き方について考える機会を与えた62%未満	3
		基本的な生活習慣の確立 を図る。(今やるべきこと の確認)	早寝、早起き、朝ごはん	4 80%以上の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 3 86%~90%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 2 71%~85%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした 1 70%以下の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	2

年度末評価【総括表】

・子供が願いをもって、生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校
・伝え合い・学び合い・高め合う子供
・教育公務員として自覚をもち、協働体制を確立し、教育活動を推進する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 ベーシックドリル正答率80%以上	2	学力の結果は昨年並みであった。学年差、個人差の少なくしていくことが課題である。	コロナの関係で休校措置もあったが、学力はしっかりと今後とも定着する努力や工夫をしてほしい。	B	めあてを明確にして基礎基本をしっかりと定着させる。そのために日々の授業改善をさらに図っていく。
3 ベーシックドリル正答率66%～79%以上					
2 ベーシックドリル正答率65%					
1 ベーシックドリル正答率65%未満					
4 目標冊数・ページ数の達成率95%以上	2	数値的には80%であるが、読書量の個人差が大きい。本との出会う機会を多く設けることが課題である。	家にいる時間が多くなったので、ゲームの時間を少しでも読書に向けてるように家庭への協力をさらに促してほしい。	C	目標達成の子を紹介し意欲を高めていく。図書計画の実施率をあげるとともに、図書環境を整備していく。
3 目標冊数・ページ数の達成率87%以上					
2 目標冊数・ページ数の達成率80%以上					
1 目標冊数・ページ数の達成率80%未満					
4 授業は分かりやすい99%以上	3	アンケートより「授業が分かりやすい」が97,6%に伸びた。落ち着いた学習に取り組んでいる。	授業が分かりやすくなったことは良い。先生方にさらに努力をしていただきたい。	B	復習に重点を置いて、家庭と連携して家庭学習の実施率をあげる。
3 授業は分かりやすい97%～98%					
2 授業は分かりやすい96%					
1 授業は分かりやすい96%未満					
4 相談できる先生がいる100%	2	「相談できる大人はいますか」と質問の内容は変化したが、91%の回答を得た。	質問が「先生」から「大人」に広がった。地域でも気軽に子供に声かけできるように意識していく。	B	縦割り班活動等を活性化し長期的に交流を深めていく。ICT機器も活用する。
3 相談できる先生がいる95%以上					
2 相談できる先生がいる94%					
1 相談できる先生がいる94%未満					
4 落ち着いて生活できている95%～100%	3	落ち着いて生活できている子供は4%増えた。行事に追われることなくゆったりと時間が流れている。	子供たちに寄り添って、メリハリのある指導をこれからも指導して行ってほしい。	B	年度当初「昭島市立学校教育のユニバーサルデザイン」の共通理解を深め活用していく。
3 落ち着いて生活できている87%～94%					
2 落ち着いて生活できている86%					
1 落ち着いて生活できている86%未満					
4 学校生活は楽しい96%以上	3	楽しく生活している子供は90%いる。残り10%の子供のためにさらに工夫していく。	地域でもできるだけ子供とかわるようにして、楽しい思い出をたくさん作ってやりたい。	A	子供に声かけをし寄り添う。子供とともに学び・遊ぶことを通して、充実した学校生活を創り出す。
3 学校生活は楽しい89%～95%					
2 学校生活は楽しい88%					
1 学校生活は楽しい88%未満					
4 体力が付いてきている95%以上	2	思い存分に体を動かすことができなかった。一人のできる体力アップの方法を広めていく工夫(カード)をしていく。	健康第一。自分の体を守り作る教育をしっかりと今後も続けてほしい。	B	家庭でモーニング60分を啓蒙していく。元気アップガイドの活用計画を図り、準備運動等に組み込んでいく。
3 体力が付いてきている91%～94%					
2 体力が付いてきている90%					
1 体力が付いてきている90%未満					
4 給食残さい率2,3%	3	給食のルールも定着して、11月から残さい率が急減してきている。1%未満の日も多くなりつつある。	何不自由のない時代、食べ物を大切にする教育「もったいない」を教えていただきたい。	B	健康と食べ物の関係や自校の残さい率等を知らせ、食に対する意識をさらに高めていく。
3 給食残さい率2,4%					
2 給食残さい率2,5%					
1 給食残さい率2,5%未満					
4 保健室けが病気来室割合1,9%以下	3	衛生に関する意識が高まりマスク着用をはじめ三密回避を日常的に行っている。	コロナ禍の中、しっかりと自分の健康や人の健康を守る教育をしてほしい。	A	今後も新しい生活様式をしっかりと身に付けさせていく。
3 保健室けが病気来室割合2,6%～2,0%					
2 保健室けが病気来室割合2,7%					
1 保健室けが病気来室割合2,7%以上					
4 将来について考えることがある90%以上	3	社会や家庭の状況から「命や職」に対する認識が高まって、自分の将来に意識が向いた。83%→89%	昭島のよさや今やるべき勉強をしっかりとやることを将来に通じることを教えてほしい。	A	昭島の良さを体感させ「昭島大好き」の子供たちを育成していく。ICT機器を活用する。
3 将来について考えることがある84%～89%					
2 将来について考えることがある83%					
1 将来について考えることがある83%未満					
4 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた96%～100%	2	感染症予防をはじめ、新しい生活様式が定着しつつある。しっかりと習慣づけた。	規則正しい生活が、健康や勉強、運動、意欲に繋がることを教えて行ってほしい。	B	今だからこそ、やるべきことを年間を通して、しっかりと確認し実行していく。
3 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた91%～95%					
2 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%～90%					
1 早寝、早起き、朝ごはんを実践できた84%未満					

学校教育目標	◎よく考え《平成31年度～同2年度重点目標》 ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	【目指す学校像】
		【目指す児童像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価					
確かな学力	学校体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②モジュール学習週3回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用(日1回)	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した 3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した 2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した 1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4					
			生きる力の基本となる言語能力の育成を図る指導法の工夫について研究を進めます。	①校内研究会(年間7回) ②授業実践研究(年間3回) ③研究の発表・報告	4 7割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 3 6割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 2 5割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った 1 4割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	4				
			新学習指導要領に基づき、本実施並びに移行措置を確実に進めます。	①週の指導計画確認(37回) ②授業観察・指導(2回) ③OJT研修(年間9回)	4 全ての教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。 3 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 2 7割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 1 6割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	4				
		豊かな心	学校体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	3			
					道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	4		
					家庭読書の啓発と1学級1栽培・1飼育活動に取り組みます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年2回) ③保護者による読み聞かせ活動(年5回程度)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った 3 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った 2 7割の教職員が、保護者への啓発活動を行った 1 6割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	4		
				健やかな体	学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年2回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った 3 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った 2 体育科や運動の7割の授業で補強運動を行った 1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った	2	
							保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った 3 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った 2 7割の教職員が、保健指導を計画的に行った 1 6割の教職員が、保健指導を計画的に行った	4
							安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(2月) ②避難訓練の改善(9回) ③安全指導の充実(9回)	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教職員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教職員が、安全指導を計画的に行った	3
輝く未来	学校体として、組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます					話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(6・7月) ②学級会活動(年9回以上) ③課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った 3 8割の教職員が、学級会活動を10回以上行った 2 7割の教職員が、学級会活動を10回以上行った 1 6割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	2	
							ハイパーQUやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回) ②PAの活用の活用(年3回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを5回以上行った 3 8割の学級担任が、PAを5回以上行った 2 7割の学級担任が、PAを5回以上行った 1 6割の学級担任が、PAを5回以上行った	3
							自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③宿泊行事の充実(高学年)	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した 3 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した 2 7割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した 1 6割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	3

年度末評価【総括表】

「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…学校の持つ公共性の希求 教育課程の適正な実施と執行
「あい」のある子供…○学び合う子供 ○思い合う子供 ○鍛え合う子供 ○繋ぎ合う子供
「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力) & innovation(革新性) & idenntity(共同体意識) のある教職員

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p	2	学習スタンダードを設定し児童の基本的な学習習慣の形成を図った。全体に向上してきたが、学年で取組の差が大きい。	授業日数が限られる中で、予定していた教育課程がほぼ遂行されるのは、教職員の努力のお陰である。感謝する。	B	学習スタンダード②の作成とその指導の徹底を図る。(学力PT) ICT教育について校内研究として全校で指導法の改善に取り組む。(ICTPT・研究研修部)
3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p					
2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p					
1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下					
4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p	2	読解力の育成をねらいに国語科の説明文の読解に関する指導法の研究を進めた。系統的な指導の必要性を確認した。	学習発表会での児童の発表する姿は立派であり、多くの児童が確かに成長した様子が覗えた。指導の的確さを感じた。	B	思考力を高める指導法の工夫をさらに追求する。特にICTの活用や思考ツールの活用による思考力の育成を図る。(研究研修部)
3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p					
2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p					
1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下					
4 CSR調査平均正答率が、全国比-2p	2	週の指導計画は全員が週末に作成し提出している。6割がリフレクションを記載し、翌週の指導計画に反映させている。	きめ細やかに目標管理する教職員の計画性を素晴らしいと感じている。リフレクションや変更事項を記入すると、貴重な指導記録となるだろう。	C	週の指導計画等起案のデジタル決済化・省印化(校務改善) 主任教諭のコーチングスキルの向上のための研修の実施。
3 CSR調査平均正答率が、全国比-3p					
2 CSR調査平均正答率が、全国比-4p					
1 CSR調査平均正答率が、全国比-5p以下					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	挨拶の励行や時間厳守の徹底等の態度面で一定の改善が見られた。言葉遣いや暴力など看過できない課題が残る。	挨拶や時間厳守は社会生活の基本であり、その点が整ってきたことは大きな成果である。いじめや不登校については、さらに指導を進めてもらいたい。	C	生活スタンダード②の策定及びいじめや不登校の予防的な指導の推進策定(生活指導部) 教育支援体制の構築(PT)
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数変化なし					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	教科書を基に「道徳の時間」の指導の工夫を進めた。評価については、さらに改善する必要がある。	児童はもとより保護者が学ぶべきことも多い。授業公開に多くの保護者が参観するよう働きかけていくとよい。	B	道徳授業地区公開講座における価値項目や指導方法の焦点化を進める。(道徳推進担当)
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 全ての児童が、個人での図書室利用回数15回以上	2	学校での「読書活動」の機会は担保している。読書の質の向上、教科の学習との関連、家庭読書の習慣化が課題である。	保護者の読書離れが言われて久しいが、子供たちの読書習慣の形成は学校の指導によるところが大きい。継続してもらいたい。	B	全体指導計画の改訂 ●カリキュラムマネジメントの視点の導入(読書推進担当)
3 8割の児童が、個人での図書室利用回数15回以上					
2 7割の児童が、個人での図書室利用回数15回以上					
1 個人での図書室利用回数15回以上の学級が5割以下					
4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	2	体育科の学習や体育集会、運動会等体力を育成する時間を計画的にとることが難しかった。体力向上プランの活用を進める。	怪我が目立つようだが、感染予防対策の中で、児童の運動能力に偏りがあるのではないかと。体育指導等で補ってほしい。	C	体力向上プランの改訂及び補強運動の年間指導計画の策定 ●感覚統合や体幹増強を図る運動の導入(体育的活動)
3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
1 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
4 8割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る	2	新型コロナウイルス感染症の予防から、自他の健康や公衆衛生の知識や技能を、体験を通して身に付けることができた。	殆どの児童がきちんとマスクをしている。感染予防の指導が徹底している。休業中の生活リズムの維持が難しかったよう二思ふ。	B	新型コロナウイルス感染症予防のための指導の充実(コロナ対策会議・学校保健員会)
3 7割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
1 5割の学級が、運動能力調査昨年度都平均値を上回る					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	1	多様なカテゴリーを有する安全教育を担保する全体指導計画とカリキュラムの開発が必要である。	災害の被害に遭わない指導をお願いしたい。また、SNS等の利用に関する指導を進めていってほしい。	C	安全指導全体計画と年間指導計画の改訂と危機管理マニュアルの更新(安全PT・保健安全部)
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	2	「学級活動」の年間指導計画の計画策定とその実施を進める必要がある。	本年度は学校行事等の実施が限られたが、児童が仲良くする場面を多く見かける。規範意識の醸成は、家庭や地域が一体となって取組を進めてもらいたい	B	集団行動訓練の再確認(体育担当) 生活・総合・特別活動の全体計画の改訂(学力PT)
3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が4割以下					
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	1	PAに関するOJTを実施し、中高学年でPAの利用が進んだ。	児童同士のつながりが保護者や地域から見えにくい時代になってきている。より一層連携を図っていくことが肝要である。	C	SCによる職員研修の実施 学級集団形成理論やPAに関する実践的な研修の実施(研究研修部)
3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	1	社会貢献・奉仕的活動の導入・活用は不十分だった。	キャリア教育のカリキュラム開発は意義深い。体験活動を大切にする観点から、稲作を進めるのはよい。去年までの餅つきだけを行うのには無理がある。	C	社会貢献・奉仕的活動の試行 ●地域支援本部の準備開始 外部リソースを活用した学習の重点的な開発(生活・総合担当)
3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし					

学校教育目標	○よく考える子(知) ○心ゆたかな子(情) ○元気な子(意)(体)	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	(知) 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	「拝二小授業力スタンダード ver.2」をもとに、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	日々の授業を充実させ、学力調査のCD層の引き下げを図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		言葉の力で獲得した知識を生かして自分の思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画を活用し、児童が考えを深め、表現する場を意図的に計画的に設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	昭島市民科、各教科、特別活動、特別な教科道徳全体を通じて児童がセルフモニタリング・コントロールする場を設定する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
豊かな心	(情) 自らの心を見つめ、自他を尊重し、共によりよく生きようとする児童の育成	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級スタンダード」をもとに、児童自らが学校生活を築けるようにする。児童会選挙を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校のきまりを自発的に守るための取組を進める。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
健やかな体	(体) 自らすすんで心と体を鍛え、たくましく生きる児童の育成	拝二小版スタンダード体育編を共通実践し、体育科の授業充実を図る。	日々の授業の充実をもとに、体育の授業が好きな児童を増やす。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		体力調査の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。	児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の確立を図る。	「グッドモーニング60分」を計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	3
輝く未来	(意) 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	昭島市民科や各教科等の充実を図り、地域を担う市民としての愛着を育てる。	地域に根差した昭島市民科や各教科等の授業を展開することで地域に愛着をもつ児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4
		地域人材を活用し、人とかかわりの中で学ぶ機会を充実させる。	地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようとする児童を育成する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	3
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	自らの将来の進路を意識できる学習を実施する。	4 教職員が70%以上の意識をもって行った。 3 教職員が60%以上の意識をもって行った。 2 教職員が50%以上の意識をもって行った。 1 教職員が50%未満の意識をもって行った。	4

年度末評価【総括表】

○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校 ○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
○自らの人生(運命)を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
○「チーム拜二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師 ○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 3%のA層の増加とD層の減少 3 2%のA層の増加とD層の減少 2 1%のA層の増加とD層の減少 1 0%以下のA層の増加とD層の減少	4	「授業力スタンダード20ver2」を意識した授業に取り組むとともに、年間6回の授業観察によって教師の授業力・児童の学力の向上が見られた。	授業参観の様子から、児童の教師への信頼感を実感する。それを支えとして、より一層の授業改善に取り組むとよい。	A	・朝学習の時間を20分以上で週4日程度確保し、児童の学習課題に対応した内容を年間を通じて取り組む。 ・「授業力スタンダード20ver2」の改善を進めて教職員に周知し、組織的に授業改善を図っていく。
4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満	4	本校では先行して新学習指導要領に対応した評価の在り方とそれに伴う授業改善を昨年度から継続してきたことにより、結果は高い。しかし、自分の思いを豊かに表現することに課題が見られることから、表現できる語彙量の不足が考えられる。	これまで長年本校に関わってきたが、最近ではこれまでもも増して児童の積極性、表現力の向上を実感する。	A	・朝学習の時間における文章表現の時間を継続するとともに、接続語を児童に意識させる授業展開を徹底し、自分の考えを論理的に表現することができる児童を層増やしていく。 ・さらに豊かな表現力を育成するために、語彙量を増やすことが必須であることから読書の時間を確保する。
4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満	4	新学習指導要領における「学びに向かう力」の育成、自作テストを作成し活用することで向上させようとした。しかし、児童対象アンケートの結果から、学んだことを日常生活に生かし切れない児童が多数いることが分かった。	社会とのつながりを認識させ、学習に臨ませる取組として、本校の取組は有効に働いている。	A	・自作テストを作成し、児童の「学びに向かう力」を見取することは今後も継続していく。 ・学習の「見直し」と「振り返り」の時間を大切に、児童のメタ認知力の向上を図ることで、より深く、実際の生活に即した学習ができるように授業を改善していく。
4 いじめ・暴力の未解決0件 3 いじめ・暴力の未解決1件 2 いじめ・暴力の未解決2件 1 いじめ・暴力の未解決3件	4	新型コロナウイルス感染症拡大による長期休業の影響からか、児童の自己肯定感の低下が顕著となった。しかし、社会通念上のいじめや未解決の暴力事案はない。	コロナ禍という特別な環境下にあるが、学校は児童相互の親和的な関係の維持を継続できている。	A	・週番の機能を充実させ、休み時間などにおけるトラブルの早期発見解決を図る。 ・構成的グループエンカウンターを学期始めと必要に応じた時に実施することで、児童相互の親和的な関係構築を引き続き目指す。
4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満	4	学校行事では児童が主体となった実行委員が運営してきた。また、学級力スタンダードの結果を基に、学級の実態を把握し、学級会を通して話し合いを経て改善することができた。	実行委員会による取組は、功を奏している。その成果を各学級で振り返らせた。	A	・児童会選挙を実施し、更なる児童自身による自治的活動の推進を図る。 ・SDGsを踏まえた昭島市民科(総合的な学習の時間)を中心に、よりよい社会の構築に寄与しようとする人材育成の基礎を培っていく。そのためにカリキュラム・マネジメントを行う。
4 学校のきまりを守っていると実感する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満	4	学級力スタンダードを実施し、児童一人一人や各学級が学級生活の改善を図ってきたことが良い結果につながっていると考えられる。	児童が「自分たちの学校を自分たちで作る」と意識し始めてきたことを実感する。	A	・「学級力スタンダード」を一層活用し、児童自身が自分たちの学級・学校をよりよきようにしようと意識と行動力を高める。
4 運動が好きになったと実感できる児童70%以上 3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上 2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上 1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満	4	コロナ禍でありながら、運動が好きな児童が多いことは評価できる。体育的活動部を中心とした、毎朝のラジオ体操や体力向上の取組が功を奏したと考えられる。	ラジオ体操の取組を続けていること、そして児童が参加し続けていることは、大きな成果である。特別なことを行うだけでなく、こうした活動を定着させていくことも大切である。	A	・ベテラン教員や専門教員によるOJTの実施ができる環境を整備する。 ・毎回の体力テストの結果分析に基づいた改善策を講じていく。 ・「拜二小版スタンダード体育編」を見直しして共通実践し、体育科の授業の充実を図る。
4 Tスコアを都平均以上にする。 3 Tスコアを都平均にする。 2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。 1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。	4	同上	コロナ禍という体力向上の障壁となる時期において、生活習慣の確立はすぐにできる取組として大切なことである。	A	・元気アップカードを有効活用したグッドモーニング60分の取組によって、児童の生活習慣から改善を試みていく。
4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満	4	生活習慣の改善を実感する児童は多かった。一方、多くの教職員は児童の生活改善が一層必要であると考えていることが分かる。	生活習慣の改善が図りにくいコロナ禍という環境の中で、教職員が一丸となって指導にあたっていくことが求められている。	A	・教職員が元気アップカードの意図や内容を正しく理解し、着実に活用していく。 ・体育主任が中心となって活用のためのOJTの実施をする。
4 地域に愛着をもつ児童70%以上 3 地域に愛着をもつ児童60%以上 2 地域に愛着をもつ児童50%以上 1 地域に愛着をもつ児童50%未満	4	コロナ禍の影響で多くの地域行事が中止となっているが、児童の地域に対する愛着は強い良いが分かる。	児童が地域に対する愛着をもっている以上、地域に貢献する取組は工夫して生み出していけるだろう。	A	・SDGsの視点から昭島市民科の指導計画の見直しをすることで、より一層、地域に愛着をもち、地域のために活躍しようとする人材を育成していく。 ・SDGsの理念を児童に定着させていく必要があるため、指導計画に位置付けていく。
4 社会貢献しようとする児童70%以上 3 社会貢献しようとする児童60%以上 2 社会貢献しようとする児童50%以上 1 社会貢献しようとする児童50%未満	4	・コロナ禍の影響で外部講師による授業をほとんどできなくなったことが、低い結果に直結している。 ・児童の社会に対して貢献しようとする意識は高い。	新型コロナウイルス感染症の終息後、児童の意識を原動力として、再構築していく。	B	・昭島市民科のカリキュラム及び年間指導計画に地域の企業や人材を活用した内容を確実に位置付けていく。また、一つ一つの活動が単独で完結するものではなく、つながりのあるものとするためにもSDGsについて学ぶ機会を確保していく。
4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上 3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満	4	今年度の児童アンケートの結果より、将来への夢や希望を多くの児童は抱いていることが分かった。学んだことを表現し、思い、深く合っていることが求められる。	児童には夢や希望をもたせつつ、現実も直視し、昭島市民としてのよう力を尽くすかを考えさせていくことが重要である。	A	・昭島市民科はもとより、教育活動全般において、キャリア教育の充実を図り(SDGsを念頭に置きながら)、成果を発表する場を設ける。 ・地域の教育資源(栗田ウォーターガンジュ等)の有効活用を図る。コロナ禍が収束し次第、一層の連携を図り、有効活用する。

学校教育目標	◎かしこく ○やさしく ○つよく	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学校全体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②朝学習の週4回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用	4 全ての教員が、週の指導計画に内容を明記した 3 9割の教員が、週の指導計画に内容を明記した 2 8割の教員が、週の指導計画に内容を明記した 1 7割の教員が、週の指導計画に内容を明記した	3
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業	4 全ての教員がユニバーサルデザイン化した授業を行った。 3 7割の教員がユニバーサルデザイン化した授業を行った。 2 5割の教員が、ユニバーサルデザイン化した授業を行った。 1 4割の教員が、ユニバーサルデザイン化した授業を行った。	4
		新学習指導要領に基づいた授業を実施する。	①プログラミング学習に関わる授業(年5回) ②キャリア・パスポートに関わる指導(年3回) ③授業観察・指導(2回)	4 全ての教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。 3 8割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 2 7割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った 1 6割の教員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	4
豊かな心	学校全体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	いじめや不登校の撲滅に向けて、未然防止の指導と即時対応の体制を整え徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 3 8割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 2 7割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った 1 6割の教員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	4
		道徳の教科化を踏まえ、道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教員が、道徳の時間の指導を改善した 3 8割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 2 7割の教員が、道徳の時間の指導を改善した 1 6割の教員が、道徳の時間の指導を改善した	3
		家庭読書の啓発に取り組みます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬問の実施(年3回) ③保護者による読み聞かせ活動(年3回程度)	4 全ての教員が、保護者への啓発活動を行った 3 8割の教員が、保護者への啓発活動を行った 2 7割の教員が、保護者への啓発活動を行った 1 6割の教員が、保護者への啓発活動を行った	2
健やかな体	学校全体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年3回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った 3 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った 2 体育科や運動の7割の授業で補強運動を行った 1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った	3
		保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教員が、保健指導を計画的に行った 3 8割の教員が、保健指導を計画的に行った 2 7割の教員が、保健指導を計画的に行った 1 6割の教員が、保健指導を計画的に行った	4
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(年11回) ③安全指導日の指導(年11回)	4 全ての教員が、安全指導を計画的に行った 3 8割の教員が、安全指導を計画的に行った 2 7割の教員が、安全指導を計画的に行った 1 6割の教員が、安全指導を計画的に行った	4
輝く未来	学校全体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①学級会活動(年10回以上) ②課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を8回以上行った 3 8割の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 2 7割の学級担任が、学級会活動を8回以上行った 1 6割の学級担任が、学級会活動を8回以上行った	4
		ハイパーQUやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用 ②PAの活用(年3回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを行った 3 8割の学級担任が、PAを行った 2 7割の学級担任が、PAを行った 1 6割の学級担任が、PAを行った	
		自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善 ③宿泊行事の充実(高学年)	4 全ての教員が、外部教育力を活用した 3 8割の教員が、外部教育力を活用した 2 7割の教員が、外部教育力を活用した 1 6割の教員が、外部教育力を活用した	

年度末評価【総括表】

・子供にとって安全・安心の学校 ・保護者や地域とともに子供を育てる学校 ・教職員が互いに高め合う学校
・よく考え工夫する児童 ・相手のことを考え、助け合う児童 ・明るく元気な児童
・質の高い指導を創造できる教師 ・児童同士、教師同士が響き合い、感動とあこがれを創出できる教師 ・児童、保護者、地域に貢献する仕事であることを自覚する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査標準スコア昨年比+1P以上 3 学力調査標準スコア昨年比±OP 2 学力調査標準スコア昨年比-1P 1 学力調査標準スコア昨年比-2P以下	1	昨年度の問題で調査を行い昨年度データと比較した。方策は概ね実施できたが、休校やコロナ対策による補習授業未実施等の影響で指標は1となった。	保護者児童の様子から取組の成果が伺える。引き続き、根強い指導、特に家庭学習の強化を望む。	B	4つの具体的方策に加え、家庭学習の啓発及び、PC等の校内学習環境を整え、コロナ禍においても対応できるようにする。
4 児童アンケートで「分かりやすい」が90パーセント以上 3 児童アンケートで「分かりやすい」が80パーセント以上 2 児童アンケートで「分かりやすい」が70パーセント以上 1 児童アンケートで「分かりやすい」が60パーセント未満	3	授業のUD化は校内研究と絡め、学習の流れを統一し、児童の思考する時間を確保することができた。	概ね良い方向に進んでいるように見受けられる。エアコン工事は市の説明が不足していた。	B	工事終了後に掲示計画を改めて作成し、教室内だけでなく、校内の掲示板活用を推進する。
4 児童アンケートで肯定的な評価が90%以上 3 児童アンケートで肯定的な評価が80%以上 2 児童アンケートで肯定的な評価が70%以上 1 児童アンケートで肯定的な評価が60%未満	3	プログラミング学習及び、キャリア・パスポートは予定通りに実施、全ての教員が、新学習指導要領に基づく指導を行うことができた。	1人1台となるGIGAスクールPCの活用、拝三小の現状に応じた独自の取組に期待している。	A	プログラミングやキャリア・パスポートは市内でも先駆的な取組ができている。引き続き、取組をしっかりと進める。
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少 3 いじめ・不登校の出現回数2割減少 2 いじめ・不登校の出現回数1割減少 1 いじめ・不登校の出現回数変化なし	2	生活スタダードは校内で共有し、全学級で足並みをそろえて指導を行った。不登校児童は4人から2人に減った。	いじめへの対応に尽力してもらっていること、とてもありがたい。	A	いじめの防止の指導に力を入れる。学年会や主幹会において報告・連絡・相談を徹底し、いじめ防止の研修会を行う。
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少 3 いじめ・不登校の出現回数2割減少 2 いじめ・不登校の出現回数1割減少 1 いじめ・不登校の出現回数改善なし	2	各学年、道徳科の年間指導計画に沿って、指導を進めることができた。道徳授業週間は1月下旬に設定し道徳主任指導のもと、授業を行った。	コロナの影響がないか心配している。引き続きの指導をお願いしたい。	B	指導方法改善を進める。教科書の活用方法や評価方法に関してさらにOJTを推進する。
4 全ての児童が、個人での図書室利用回数20回以上 3 8割の児童が、個人での図書室利用回数20回以上 2 7割の児童が、個人での図書室利用回数20回以上 1 個人での図書室利用回数20回以上の学級が5割以下	3	定期的な学校図書館の利用、長期休業中の家庭読書の啓発など、計画的に読書指導を進めることができた。	図書支援員と教職員の連携でよい効果を得られるよう期待している。PCを活用した読書活動も期待したい。	B	図書委員会の取組なども工夫しながら、コロナ禍でも対応可能な読書の啓発を続けていく。
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 1 運動能力調査都平均値を上回る学級が5割以下	2	校内での分析ではシャトルランでの数値の低下があり、持久力が落ちてきている。児童の運動量確保が課題となっている。	学校評価からは体力の低下は見とれなかった。運動量確保に努めてもらいたいと思う。短なわの活用はよい。	B	今年度の結果から体力向上プランを作成し、密を避けることができる短なわを活用した運動週間を計画する。
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る 1 5割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	2	保健の年間指導計画に沿って、3～6年で保健指導を進めることができた。コロナ禍により、今年度の学校保健委員会が中止した。	コロナ禍での対応ご苦労様です。引き続きよろしくお願ひします。	A	手洗い、うがい、検温、マスク着用の徹底を行い、風邪や発熱での欠席者は減少した。コロナ対策とともに保健指導を推進する。
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P 3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P 2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P 1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし	2	交通事故が増加してしまった。安全指導の強化や、昭島警察署交通課と連携し交通安全集会を放送で行った。	交通安全指導の対応は適切である。地域の安協との連携を望む。	B	交通事故の防止に向けて、歩行シミュレーター教室、自転車シミュレーター教室の実施を予定している。
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 2 7割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する 1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下	2	トラブルが増加した学級と減少した学級の二極化が見られた。増加した学級には指導や支援とともに支援員の配置を行った。	コロナ禍でのトラブル増加が心配である。引き続きの取組に期待している。	B	児童の問題解決能力の向上を図る。また、縦割り班活動を実施し、特別活動を充実させる。
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P 3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P 2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P 1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし		今年度はPAの実施を見送った。ハイパーQUについては校内委員会で検討を行い、学級経営や支援が必要な児童の資料として活用した。	今後の取組に期待している。	B	ハイパーQUの活用に重点を移す。年間での活用計画を策定し、計画的に活用する。
4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P 3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P 2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P 1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし		6年宿泊学習では市内で一番初めに実施し、市内各校に先事例を示すことができた。外部人材活用はコロナ対策をした上で3年のみ実施した。	制限がある中でよく工夫して取り組むことができています。	B	体験活動や人と関わる新たな単元開発を鋭意進めている。コロナ禍にも対応した学校行事の全面見直しを進めていく。

学校教育目標	・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人格を尊重し、思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	課題解決型の授業改善による「分かる授業」を工夫し、実践する。	発問を工夫し、主体的・対話的で深い学びを実現する授業の実践	4 全教員が意識して授業を実践した 3 意識して授業実践した教員が80%以上 2 意識して授業実践した教員が70%以上 1 意識して授業実践した教員が70%未満	4
		学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。	シラバスの活用と各教科での明確な課題の提示、自主学習教室の実施	4 学習習慣定着のための指導を全教員実施 3 定着のための指導を実施した教員が80%以上 2 定着のための指導を実施した教員が70%以上 1 定着のための指導をした教員が70%未満	2
		個に応じた指導の充実を図るとともに、特別支援教育の推進を図る。	習熟度別授業の実施、ユニバーサルデザインを意識した授業実践と学級経営	4 全教員が特別支援教育に基づく授業を実践 3 特別支援教育に基づく授業実践した教員は80%以上 2 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%以上 1 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%未満	3
豊かな心	全教育活動を通して、人権教育、心の教育を推進し、豊かな人間性を育成する。	全教育活動を通して、生徒の自尊感情、自己肯定感を醸成する。	豊かな人間関係を育む学級経営、主体的、自立的生徒会活動と学校行事の実施	4 全教員が十分意識した指導を行った 3 意識して指導した教員が80%以上 2 意識して指導した教員が70%以上 1 意識して指導した教員が70%未満	4
		道徳的価値と実践力の育成	「考える・議論する・体験する道徳科」の計画的な実施と適切な評価	4 「特別の教科 道徳」の趣旨に則り全教員が工夫実践を行った 3 工夫実践できた教員が80%以上 2 工夫実践できた教員が70%以上 1 工夫実践できた教員が70%未満	4
		いじめ問題への適切な対応と自立支援の充実を図る不登校対策	実態把握のための調査、教育相談部会と関係機関との連携、校内対策会議の活用	4 全教員が人権尊重の理念の下、教育活動を実践した 3 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が80%以上 2 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%以上 1 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%未満	4
健やかな体	心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたってスポーツに親しむ態度の育成	オリンピック・パラリンピック教育の推進、夢・未来プロジェクト、保健体育授業のTTの活用	4 オリンピックパラリンピックの理念を理解し十分指導した 3 オリンピックパラリンピックの理念を理解し指導した 2 オリンピックパラリンピックの理念を理解したが指導が不十分 1 オリンピックパラリンピックの理念を理解したが指導しなかった	2
		保健指導の充実 体力・健康の保持、増進	保健室経営の充実 食育の推進と適切なアレルギー対応	4 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し全教員が指導した 3 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が80%以上 2 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進について指導した教員が70%以上 1 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が70%未満	2
		安全教育・防災教育の推進	SNSルールづくり 薬物乱用防止教室、安全教室の実施 自殺予防教育の取組	4 生徒の生命安全について十分理解し全教員が指導にあたった 3 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が80%以上 2 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%以上 1 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%未満	3
輝く未来	望ましい職業観・勤労観を育成し、自らの進路を主体的に選択できる能力を育成する。 組織的な学校運営により、信頼される公立学校を目指す。	キャリア教育の計画的な推進	上級学校との交流 職場訪問・体験の実施 国際理解、日本の伝統文化についての理解	4 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう全教員が指導した 3 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が80%以上 2 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%以上 1 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%未満	3
		小中一貫教育の取組	授業体験、部活動体験等への招待 生徒会による交流活動 小中合同研修会	4 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を全教員が実践した 3 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が80%以上 2 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が70%以上 1 小中の接続と小中一貫を十分意識した教育活動を実践した教員が70%未満	1
		開かれた学校づくりの推進	積極的な学校広報と情報提供	4 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を全教員が実践した 3 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が80%以上 2 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%以上 1 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%未満	3

年度末評価【総括表】

- ①一人一人が尊重される ②授業が分かり、学び合える ③思いやりとあいさつがあふれる ④夢と希望を語り合える ⑤信頼される
 ①意欲的、主体的に取り組む ②あいさつができ、思いやりがある ③自らの力で進路を切り拓く ④心身ともに健康である
 ①一人一人を大切にす ②授業を大切にす ③信頼される ④チームとして力を結集する ⑤昭和中を愛する

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査の平均正答率が都標準以上 3 学力調査の平均正答率が3ポイント以内 2 学力調査の平均正答率が1-5ポイント以内 1 学力調査の平均正答率が5ポイント以上	—	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学力調査は実施していない。	保護者による評価では、学校は学力を身に付けさせているという回答は70%であった。	B	新たに実施される学習状況調査の趣旨を踏まえた指導改善と新しい評価の趣旨を生かす。
4 家庭学習の定着について生徒の肯定的評価90%以上 3 家庭学習の定着について生徒の肯定的評価80%以上 2 家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70%以上 1 家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70%未満	1	家庭学習の充実については、学級活動における学業指導の充実を図ることが課題である。	保護者による評価では、家庭学習が身に付いているという回答は48%であった。	D	学級活動での学業指導の充実を図るとともに、各教科における指導と連携を図る。
4 「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価90%以上 3 「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価80%以上 2 「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価70%以上 1 「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価70%未満	3	特別支援教育の視点に立った指導は、定着してきているが、今後の一層の推進が課題である。	保護者による評価では、授業に工夫があるという回答は62%であった。	C	特別支援教育の視点に立った指導について理解を深め、授業における実践を促進する。
4 学校が楽しいと答える生徒が90%以上 3 学校が楽しいと答える生徒が80%以上 2 学校が楽しいと答える生徒が70%以上 1 学校が楽しいと答える生徒が70%未満	3	感染症対策のための行事等の縮小はあったが、特別活動の充実が今後の課題である。	保護者による評価では、学校を楽しんでいるという回答は85%であった。	A	感染症対策を基本に置きながら、新たな特別活動の指導計画の開発に取り組む。
4 道徳の授業に関する生徒の肯定的評価90%以上 3 道徳の授業に関する生徒の肯定的評価80%以上 2 道徳の授業に関する生徒の肯定的評価70%以上 1 道徳の授業に関する生徒の肯定的評価70%未満	3	学習指導要領の趣旨を踏まえた道徳科の授業の充実に向けて、研修の充実が必要である。	保護者による評価では、学校は自他を大切にする心を育てているという回答は80%であった。	A	道徳科の評価の充実を図るとともに、新たに採択した教科書についての研究を深める。
4 心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価90%以上 3 心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価90%以上 2 心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70%以上 1 心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70%未満	3	いじめの未然防止と早期対応、教育相談機能の充実が課題である。	保護者による評価では、学校は心の居場所を作っているという回答は72%であった。	B	学校生活アンケートの回数を増やし、より早期に実態の把握と対応を図れるようにしていく。
4 体力テストで全学年都標準以上 3 体力テストで2つの学年で都標準以上 2 体力テストで1つの学年で都標準以上 1 体力テストで全学年都標準以下	—	今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、体力調査は実施していない。	保護者による評価では、学校は体力向上に取り組んでいるという回答は60%であった。	C	オリンピック・パラリンピック教育の趣旨を踏まえ、学校教育全体を通して取組を進める。
4 保健、健康指導への生徒の肯定的評価90%以上 3 保健、健康指導への生徒の肯定的評価80%以上 2 保健、健康指導への生徒の肯定的評価70%以上 1 保健、健康指導への生徒の肯定的評価70%未満	1	教科指導との関連を図った学校教育全体を通じての指導の充実を図ることが課題である。	保護者による評価では、学校で健康について学んでいるという回答は51%であった。	D	健康観察の継続とその意義についての理解と基本的な生活習慣の確立を図る。
4 避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価90%以上 3 避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価80%以上 2 避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70%以上 1 避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70%未満	4	年度末にSOSの出し方教室を全学年で実施した。一斉避難訓練は実施できなかった。	保護者による評価では、学校で安全について学んでいるという回答は62%であった。	C	セーフティ教室において、より実践的な内容を取り上げ、日常の実践に生きるようにしていく。
4 「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価90%以上 3 「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価80%以上 2 「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価70%以上 1 「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価70%未満	3	職場体験は実施できなかった。三年間の見通しに立ったキャリア教育の充実が課題である。	保護者による評価では、将来について話をしているという回答は56%であった。	D	来年度から導入される「昭島市キャリアアルバム」の理解と活用を図っていく。
4 体験活動についての児童の肯定的評価90%以上 3 体験活動についての児童の肯定的評価80%以上 2 体験活動についての児童の肯定的評価70%以上 1 体験活動についての児童の肯定的評価70%未満	—	今年度は緊急事態宣言が解除とならなかったため、部活動体験は中止した。	同左	—	感染症対策に押領しながら、小中一貫教育の取組の見直しを図る。
4 ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価90%以上 3 ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価80%以上 2 ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70%以上 1 ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70%未満	3	臨時休校期間中に学校からの情報伝達の重要性が一層認識された。HPの改善・充実を図る。	学校HP及び連絡メールによる学校情報の周知は効果的であった。	—	学校HPの改善と充実を図るとともに、これからの学校広報の在り方を検討していく。

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	問題解決型福島中方式4ステップ授業から深まりのある指導を実践する。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を定着する。	4 「深まりにつながる4ステップ授業を行った」 3 「深める」ための指導の工夫を行った 2 「広げる」ための指導の工夫を行った 1 「個と集団を意識した授業を行った」	3
		課題設定を工夫し、自主的に学習する習慣を定着させる。	自習用ノートの点検をとおして、個々の課題を把握し、指導、助言を行う。	4 「深く読み、表現する授業を毎時間展開した」 3 「深く読み、表現する授業を7割以上行った」 2 「深く読み、表現する授業を5割程度行った」 1 「深い読みや表現する指導が不十分だった」	3
		課題設定を工夫し、自主的に学習する習慣を定着させる。	自習用ノートの点検をとおして、個々の課題を把握し、指導、助言を行う。	4 「ノート点検をし自主的な学習方法を指導できた」 3 「自習用ノートを点検し課題を把握できた」 2 「自習用ノートを毎週90%以上点検できた」 1 「自習用ノートの作成方法を指導した」	3
豊かな心	自己有用感を高めることで自尊感情を育み、お互いを大切に尊重できる人間関係を構築する。	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	中心発問を工夫することで22の内容項目を自分自身との関わりの中で深める。	4 「生徒が考え、気付きのある発問を工夫した」 3 「計画通りに22の内容項目を全て扱った」 2 「自分で教材理解をして年間35時間行った」 1 「指導書にしたがって道徳の授業を行った」	3
		一人一人を尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛する生徒指導を実践する。	4 「傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛を実践した」 3 「傾聴、共感、認定から助言につなげた」 2 「傾聴、共感をし、認める努力をした」 1 「傾聴せずに、すぐ指導・説教をする」	3
		挨拶や返事がお互いに気持ちよくできる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣を付けさせる。	4 「学校内外では教員自ら挨拶や声かけを行った」 3 「学校生活での挨拶・返事の指導を徹底した」 2 「授業中の挨拶・返事の指導を徹底した」 1 「挨拶・返事の指導を時々行った」	4
健やかな体	自らの生活を健康的で健全にするために、体力向上を図り、規則正しい生活を送る。	1年間健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	体育活動で補強運動や主運動に時間をかけて、体力向上の取組姿勢を身に付ける。	4 「一つ一つの運動の効果や取組方法を徹底指導した」 3 「体力向上のために個に応じた方法を指導した」 2 「体力向上の意義と取組方法を指導した」 1 「体力向上のための指導した」	3
		食事や睡眠を大事にし、自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食を残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 「学級で食の大切さと残さず食べる指導を徹底した」 3 「学級で食の大切さと残さず食べる指導をした」 2 「学級で残さず食べる指導に取り組んだ」 1 「学級で食育指導を定期的に行った」	3
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール及び家庭ルールの定着を図り、学期に1回は定着度を調査する。	4 「SNSルールの徹底を家庭に指導した」 3 「SNSルールを学級で指導・徹底した」 2 「SNS家庭ルールの作成を学級で指導した」 1 「SNS学校ルールを学級で指導した」	3
輝く未来	家庭・地域との連携を深めて、将来の確かな夢をもち、夢を語れるような人格形成を図る。	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年だよりの発行とホームページの更新を毎月行う。	4 「毎月発行・更新し、地域からの意見を募った」 3 「学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った」 2 「学校・学年だよりは毎月1回以上発行した」 1 「学校だよりは毎月1回以上発行した」	3
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 「よりよく生きるための進路学習を計画的に行った」 3 「職業学習の充実で働くことの意義を考えさせた」 2 「職業選択につながる進路指導を行った」 1 「社会で自立するための職業観をもたせた」	3
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中一貫教育スタンダードを徹底する。	4 「スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた」 3 「スタンダードを全クラスで指導・徹底した」 2 「スタンダードの意義を理解させ、家庭協力を求めた」 1 「スタンダードを意義を生徒に理解させた」	2

年度末評価【総括表】

○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上 3 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%~90% 2 授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が60%~80% 1 授業が分かりやすいと感じる生徒が60%未満	4	4ステップ授業は定着し、90%の生徒が分かりやすいと感じている。まだ深める授業に工夫が必要である。	*授業が分かりやすく、工夫されている。 *教科によっては工夫が必要である。	A	授業の流れは定着してきたので、振り返りの質を高めることで、理解の定着を図る。
4 考え、発表する時間があると感じる生徒が90%以上 3 考え、発表する時間があると感じる生徒が80%以上 2 考え、発表する時間があると感じる生徒が50%以上 1 考え、発表する時間があると感じる生徒が50%未満	4	90%の生徒が、考え、発表する時間があると感じている。話し合いや教え合い活動も取り入れている。	話し合いや教え合いの効果、生徒が感じていることが素晴らしい。	A	読解力、表現力を高めるために、話し合い活動のさらなる工夫を進める。
4 自主的な学習習慣が定着した生徒が90%以上 3 自主的な学習習慣が定着した生徒が70%以上 2 自主的な学習習慣が定着した生徒が50%以上 1 自主的な学習習慣が定着した生徒が50%未満	3	自習ノートは習慣化しているが、内容の充実に課題がある。自主学習の定着は学年によって差がある。	今の状況下だからこそ、自習について良い経験になっている。	B	授業で考えを深め、家庭で練習できるような進め方にする事で家庭学習の定着につながる。
4 1年間で自分を見つめる内容項目が3つ以上あった 3 1年間で自分を見つめる内容項目が2つあった 2 1年間で自分を見つめる内容項目が1つあった 1 1年間で自分を見つめる内容項目がなかった	3	発問の工夫はできたが、生徒はよく考えていた。より深める発問を工夫したい。	今年度は公開がなかったが、生徒がよく考える授業が行われていて良い。	B	今年度十分にできなかった4人組を確実に引き、一人一人の考えをより深める。
4 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上 3 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上 2 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%以上 1 教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%未満	3	聞くこと、褒めることを行い、生徒との距離が近付いた。自己肯定感が低い生徒の対応を工夫したい。	*一人一人を尊重している雰囲気を感じる。 *生徒にしっかり向き合っている結果である。	B	まず傾聴、共感、認定を徹底し、生徒の自己有用感を高める指導を確立する。
4 学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80% 3 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上 2 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上 1 学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満	4	挨拶を自らする生徒が80%だが、もっとできるはず。学年や部活動によって偏りがある。	生徒は、学校内外問わず挨拶をよくしてくれる。	A	生徒、教師を問わず、人と会った時は、自発的に相手に届く声で挨拶を交わす学校にする。
4 運動を積極的に取り組む生徒が90%以上 3 運動を積極的に取り組む生徒が70%以上 2 運動を積極的に取り組む生徒が50%以上 1 運動を積極的に取り組む生徒が50%未満	2	体力向上の意識はさせたが、今年の状況下では積極的に取り組む生徒が増えなかった。	*体育の授業では、専門性が高まる様子が見える。 *今年度は十分に運動できない状況だった。	C	部活動における健全育成を重視するとともに、個人でも自主的に取り組める指導を行う。
4 全校で1か月の平均残菜率が5%以下 3 全校で1か月の平均残菜率が8%以下 2 全校で1か月の平均残菜率が10%以下 1 全校で1か月の平均残菜率が10%前後	2	食育指導は丁寧に行えたが、制限のある中でお代わりをする生徒が少なかった。残菜率は9%である。	今年度は仕方ない状況なので、次年度に期待する。	C	食に対する感謝の気持ちを育む指導を行うことで、残さず食べることに繋げる。
4 SNSルールが定着した生徒が80%以上 3 SNSルールが定着した生徒が50%以上 2 SNSルールを意識している生徒が50%以上 1 SNSルールを意識している生徒が50%未満	3	67%の生徒が学校ルール等を守っているが、まだ40%の家庭でルールが作られてない。	*学校は日頃よりよく取り組んでいる。 *家庭協力が必要である。	B	SNSの楽しさ、便利さと危険性を十分に指導する。
4 学校の教育活動に安心している保護者が90%以上 3 学校の教育活動に安心している保護者が80%以上 2 学校の教育活動に安心している保護者が60%以上 1 学校の教育活動に安心している保護者が60%未満	3	81%の家庭が本校の教育活動に安心している。各種おたよりも毎月1回以上発行できた。	家庭でのコミュニケーションがよく取れている。	B	学校の様子を理解していただくために、各種たよりは続ける。HPの充実を図る。
4 夢に向けてキャリアプランを作った生徒が50%以上 3 将来の夢を真剣に考える生徒が70%以上 2 将来の夢に向けて進路学習を行った 1 将来の夢に向けて進学先を考えた	3	自分の将来について82%の生徒が真剣に考えている。学年の成長に合わせた指導もできている。	行事も十分に行えない中ではあうが、自身を付けさせる指導が大切である。	B	自己の将来の夢を、胸を張って語れる生徒を育成する。
4 スタンダードを地域が協力・推進した 3 スタンダードを生徒・家庭が実践した 2 スタンダードを生徒・家庭が理解した 1 スタンダードが家庭に周知された	2	校内における実践はできているが、小中での連携はできなかった。	今年度は3校が集まる会議ができないので、次年度に期待する。	C	現スタンダードを基盤として、新学習指導要領に則して、具体的な連携を進める。

学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組の充実	指導方法の工夫改善	ねらいの明示、導入の工夫、授業評価の活用を授業で実践する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.6以上	
				2 自己評価4段階平均値3.5以上	
				1 自己評価4段階平均値3.5未満	
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用したり、宿題の出し方を工夫したりして家庭学習を定着させる	4 自己評価4段階平均値3.7以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.6以上	
				2 自己評価4段階平均値3.5以上	
				1 自己評価4段階平均値3.5未満	
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4 自己評価4段階平均値3.4以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.3以上	
				2 自己評価4段階平均値3.2以上	
				1 自己評価4段階平均値3.2未満	
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4 自己評価4段階平均値3.6以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.5以上	
				2 自己評価4段階平均値3.4以上	
				1 自己評価4段階平均値3.4未満	
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4 自己評価4段階平均値3.1以上	4
				3 自己評価4段階平均値3.0以上	
				2 自己評価4段階平均値2.9以上	
				1 自己評価4段階平均値2.9未満	
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.6以上	
				2 自己評価4段階平均値3.5以上	
				1 自己評価4段階平均値3.5未満	
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4 自己評価4段階平均値3.7以上	3
				3 自己評価4段階平均値3.6以上	
				2 自己評価4段階平均値3.5以上	
				1 自己評価4段階平均値3.5未満	
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4 自己評価4段階平均値3.6未満	3
				3 自己評価4段階平均値3.7未満	
				2 自己評価4段階平均値3.8未満	
				1 自己評価4段階平均値3.9未満	

年度末評価【総括表】

・真面目に努力する生徒が生きて活躍できる学校・自主、自立の精神を培うことができる学校・生徒、保護者、地域、教職員が誇りをもてる学校
・規律を重んじ、学力を身に付け、自己有用感の高い生徒
・親切、丁寧、コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応、認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚・ライフワークバランス

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 90%以上の生徒が先生方は授業を工夫している	3	ねらいの明示は、ほぼ全教員ができた。導入では、ICTの活用、生徒が興味をもつような課題の作成、既習事項の確認などそれぞれの教員で様々な工夫をした。昨年度に比べて授業のまとめを意識的に行う教員が増えた。コロナの影響で制約があり、思い通りの授業ができなかった、という意見もあった。	・コロナの制約の下、よく工夫されている。 ・学力差のある中、先生方の工夫がなされていた。次年度に向けて1つずつ課題がクリアできるような教員間で共有を希望する。	B	次年度は評価の観点が変わるので、今までの振り返りシートをもう一度見直し、授業の振り返りを生徒にしっかりとさせていく。生徒の集中力を持続させるために授業途中にねらいを再確認したり、課題の投げかけ方・タイミングを工夫したり充実した授業に向けて、さらに細かい箇所まで事前に計画していく。
3 80%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫している					
2 70%～80%未満の生徒が先生方は授業を工夫している					
1 70%未満の生徒が先生方は授業を工夫している					
4 70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強している	3	毎時間出す宿題、定期考査前の宿題、長期休業中の宿題において、内容や量を各教員で考えて家庭学習の定着を図った。予習ノートやテスト直しノートを活用した教員もいた。定期テスト前の学習計画表は各担任が細かくチェックし、適切にアドバイスすることで生徒のやる気を促すことにつながった。	・家庭学習は本人の自覚が必要。難しい課題へのアプローチ良い。 ・家庭学習の確保は課題も多いかと思うが、先生に励まされ、取り組める生徒はいる。引き続き個々に合わせた支援をお願いする。	B	宿題に取り組むことができない生徒、自分で学習計画が立てられない生徒が一部いるので、日々の授業や面談を通して把握し、個別に対応していく。学習計画表の書式や宿題については改善できる部分は改善していき、さらに家庭学習の定着につながることを目指していく。
3 50%～70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強している					
2 40%～50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強している					
1 40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強している					
4 90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いている	3	生徒が個々に抱える問題に配慮しながら、生徒の心の状態に応じて、丁寧に生徒指導ができた。生徒を常に観察することや生徒と良いコミュニケーションをとることが生徒指導にも生きていた。道徳の授業は事前準備をしっかりとし、計画的に実践できた。	・自分と友達を大切にしている行動の指導ができていると思う。 ・身近の大人(先生)の関わりは非常に重要だと思う。引き続き全教員で支援内容を共有し、不安定な生徒を見守ってほしい。	B	心の面で不安定になりやすい生徒が一部いるので、全教員で特に気をつけて観ていく。道徳の授業では、班活動による話し合いが今後も限定されるので、意見を交流する場の設定を工夫していく。
3 80%～90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いている					
2 70%～80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いている					
1 70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いている					
4 90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動している	3	授業内では他者との関わりが制限されていたので予定通りにいかなかったという意見が多かった。しかし、その中で人数・時間・形態を考えながら工夫して実践した。給食、清掃、専門委員会などでも主体性を促す指導を行った。	・主体性の育成は個人差もあり、大変ですが努力してほしい。 ・次年度への改善策の内容が主体性につながると思う。コロナ禍で本当に大変な中、工夫されていたと思う。	B	他者との関わりという点で、活動できていない生徒もいるので、個別に対応するなどして活動を支援したい。生徒の意思決定の理由を文章で残し、他者との共有、意見交換ができる場面を多く取り入れる。
3 80%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動している					
2 70%～80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動している					
1 70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動している					
4 90%以上の生徒が体力が身に付いてきた	3	体育の授業では基礎体力の向上を目指して授業計画を立て、効果を上げることができた。部活動や体育大会ではコロナ禍の影響を受けたが、基礎体力向上に確実に繋がった。学年通信を通じて健康的な生活について呼びかけることができた。	・基礎体力の向上に努められ、効果も上げている。 ・感染経路が判明してくるまで大変ご苦労があったと思う。そのような中で大変工夫がなされていたと思う。	A	基礎体力向上に向けての取組はできているので継続的にやっていく。
3 80%～90%未満の生徒が体力が身に付いてきた					
2 70%～80%未満の生徒が体力が身に付いてきた					
1 70%未満の生徒が体力が身に付いてきた					
4 90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがある	3	部屋の換気、アルコール消毒、健康観察表など感染症対策は十分にできた。校内生活の安全指導と食育指導を必要に応じて実践できた。授業においても生徒の安全を考え、授業計画を立てた。	・感染予防を教材に指導効果も上げている。 ・大人でも黙食は難しく、先生方のご指導には感謝する。大きな混乱もなく、スムーズに生活を送ることができた。	A	給食のときの黙食が十分でなかった学級もあったので引き続き感染症予防対策の重要性を日々全教員で呼びかけていく。安全指導では生徒の実態に合わせた具体的な指導を行い、更に深い理解を促す。
3 80%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがある					
2 70%～80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがある					
1 70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがある					
4 70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると	3	進路説明会資料や三者面談の資料を丁寧に作成することがきめ細かい進路指導につながった。三者面談で、一人一人に状況に応じて丁寧に、適切に進路指導ができた。	・自分の将来について身近な進路、進学の相談を細かく実施している。 ・将来の夢の実現に一步近づくと進路決定は、色々悩む生徒が多い中、個々に合わせた支援がなされていた。	B	引き続き、学年、保護者、生徒あらゆる方面で連携をとり、丁寧な指導を進めていく。
3 60%～70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると					
2 50%～60%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると					
1 50%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると					
4 90%以上の生徒が自分の将来について考えることがある	3	総合的な学習の時間などで3年間を通じた系統的な進路指導が実践できている。自分の良さを見つけ、伸ばしていく活動を日々取り入れている。	・自分の将来について家庭で話す事、友達と話す事を指導するのは大切である。 ・たくさんの道がある、その道を見つかるまで先生方の見聞の発信も刺激となる。引き続き個々への対応をお願いする。	B	経過を見ながら今後も継続的にやっていく。進路に向けての意識が低い生徒もいるので、各学年ごとに押さえるべきポイントをはっきりと生徒に示していく。
3 80%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがある					
2 70%～80%未満の生徒が自分の将来について考えることがある					
1 70%未満の生徒が自分の将来について考えることがある					

学校教育目標	・美しい心 ・創造的な知性 ・たくましい体	【目指す学校像】
		【目指す児童・生徒像】
		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	生徒に基礎的。基本的な内容を確実に習得させ、生徒の思考力・判断力を高め、確かな学力を身に付けさせる。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図る。	教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。	4 意図的、計画的に指導し、集中力や思考力等が向上した。	3
				3 計画的にはならなかったが、授業改善に心がけた。	
				2 授業改善を図ったが、十分な効果が挙がらなかった。	
		チャレンジテストの活用等により、学習意欲を高め、学力の定着を図る。	全学年におけるチャレンジテストの実施(年間3回以上)	4 生徒参加型の指導ができなかった。	2
				4 年間5回のチャレンジテストを行った。	
				3 年間4回のチャレンジテストを行った。	
		観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図る。	観点別学習状況の評価の適正な実施と説明	2 年間3回のチャレンジテストを行った。	3
				1 年間2回のチャレンジテストを行った。	
				4 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、生徒の意欲的に学習した。	
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	落ち着いた学校生活について指導し、生活指導基本方針の定着を図る。	生活指導だよりを活用した全校共通の生活指導の実施	4 生活指導だよりの家庭での活用を確認している。	3
				3 生活指導だよりを読み合わせ、補足的な指導を行った。	
				2 生活指導だよりは読み合わせを行った。	
		生徒理解に努め、教師と生徒との信頼関係を深める。	生徒への言葉かけや面談の意図的な実施	1 生活指導だよりは配布した。	3
				4 年間3回以上の面談を実施し、生徒理解を深めた。	
				3 年間3回以上の面談を実施したが、生徒理解はあまり深められなかった。	
		特別の教科道徳の趣旨を踏まえ、道徳授業の充実を図る。	ア:「考える・議論する」道徳の工夫と評価 イ:資料やワークシート等の工夫	2 年間3回以下の面談で、生徒理解が十分でなかった。	3
				1 年間3回未満の面談で、生徒理解ができなかった。	
				4 考え・議論する道徳を十分工夫実施している	
健やかな体	生徒活動の場を一層豊かにし、生徒の主体性や自己有用感を高め、健やかな体の育成を図る。	学校行事、学級活動、生徒会活動等における活動を推進し、達成感を味わわせる。	学校行事実行委員会、委員会活動、学級での係活動等への参加奨励	4 考え・議論する道徳を工夫実施している	3
				3 考え・議論する道徳を工夫実施している	
				2 あまりしていない	
		学校生活の安全と健康について指導し、生徒の意識を高める。	年間指導計画に基づき、各教科、特別活動等における指導の実施	1 していない	3
				4 担当する生徒の70%以上が積極的に活動した。	
				3 担当する生徒の50%以上が積極的に活動した。	
		部活動を通して、生徒に自信を深めさせる。	部活動における生徒の努力と成果を認め、励ます機会の充実	2 担当する生徒の30%未満の生徒が積極的に活動した。	3
				1 担当する生徒に積極的に活動させることができなかった。	
				4 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行い、効果を挙げた。	
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	地域活動や職場体験等の人とのかかわりや体験的な活動の充実を図る。	各学年の特性を生かした「生き方指導」の一環としての地域連携活動の実施	3 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行った。	3
				2 教科指導、特別活動のいずれかでは安全・健康に関する指導を行った。	
				1 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導は行わなかった。	
		自己の学業生活や卒業後の進路について振り返り、進路選択能力を高める。	年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導の実施	4 顧問である部活動生徒の70%以上が活発に活動した。	3
				3 顧問である部活動生徒の50%以上が活発に活動した。	
				2 顧問である部活動生徒の30%未満が活発に活動した。	
		進路指導において、保護者への啓発に取り組み、連携を図る。	進路指導における保護者と連携した取り組みの実施	1 顧問である部活動生徒に活発に活動させることができなかった。	3
				4 地域との連携で生徒が生き生きと活動し、意欲を引き出した。	
				3 地域との連携で生徒が生き生きと活動した。	
進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定し、効果を挙げた。	進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定した。	2 地域との連携活動を例年通りに実施した。	-		
		1 地域と連携した活動に取り組まなかった。			
		4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導を実施し、成果があった。			
進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	3 年間指導計画に沿って進路指導は実施したが、資料等の工夫がやや不十分だった。	3		
		2 年間指導計画に沿って進路指導を実施したが、資料活用はしなかった。			
		1 年間指導計画に沿った進路指導が実施できなかった。			
進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	4 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定し、効果を挙げた。	2		
		3 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定した。			
		2 進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。			
進路指導において、保護者との連携が不十分だった。	進路指導において、保護者との連携が不十分だった。	1 進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	2		
		4 進路指導において、保護者との連携が不十分だった。			
		3 進路指導において、保護者との連携が不十分だった。			

年度末評価【総括表】

生徒にとって楽しく生きがいのある学びの場としての学校の実現
<ul style="list-style-type: none"> 正しい判断力、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神をもつ生徒 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度をもつ生徒 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を持つ生徒
一人一人を大切に、一時間一時間を大切に、信頼される、清泉中を愛する、教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが70%以上	4	授業は分かりやすいと答えた生徒は81%、自ら進んで授業を受けている	授業についての保護者アンケートでは77%の肯定的評価を受けた。今年度は授業参観などの機会がなかったため、次年度は工夫しながら保護者、学校関係者への公開を予定していく。	B	1年間の授業改善についてのテーマを設定し一層の授業改善を図る。
3 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが60%以上					
2 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%以上					
1 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%未満					
4 学校の授業は分かりやすいとの答えが70%以上	4	ると答えた生徒は87%であった。各教科で分授業の一層の工夫を行っていく。		B	各教科で「振り返り」の工夫を行い、指導と評価の一体化を進める。
3 学校の授業は分かりやすいとの答えが60%以上					
2 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%以上					
1 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%未満					
4 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが70%以上	3	年度当初、シラバスとして各教科で評価計画を説明。一層の活用を図る。		B	新観点に基づく評価基準と評価計画を示し評価についての説明を浸透させる。
3 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが60%以上					
2 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%以上					
1 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%未満					
4 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが70%以上	4	落ち着いて生活できていると答えた生徒は91%である。	思いやりの心に関する保護者からの肯定的評価は約90%と高い。地域からは最近の生徒落ち着いた学校生活ができているとの意見をいただいている。	B	生徒の安心・安全を経営の柱に据え、組織的に生徒指導を行う。
3 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが60%以上					
2 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%以上					
1 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%未満					
4 学校に相談できる先生がいるとの答えが50%以上	3	相談できる教員については61%。一層の数値の向上を目指す。		B	教育相談的な手法による生徒指導を進め、三者面談等の有効な活用を図る。
3 学校に相談できる先生がいるとの答えが40%以上					
2 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%以上					
1 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%未満					
4 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが70%以上	4	9割の生徒が判断力が身につけていると回答。		B	新しい教科「道徳」や特別活動を通して善悪を判断できる能力の育成を図る。
3 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが60%以上					
2 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%以上					
1 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%未満					
4 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが80%以上	4	90%の生徒が楽しく学校生活を送っていると回答。	生徒と同様に楽しく学校生活を送っていることについて、保護者からも90%の肯定的評価があった。次年度は学校公開などを工夫し生徒の普段の学習・生活を見ていただく機会を設定し、学校への信頼を一層高める。	B	・特別活動の充実等により達成感や帰属意識を一層高めていく。
3 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが70%以上					
2 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%以上					
1 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%未満					
4 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが70%以上	3	70%の生徒が安全、健康についての正しく理解していると回答。		B	・日常の安全点検を積みあげるとともに怪我予防の一層の指導の充実を図る。
3 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが60%以上					
2 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%以上					
1 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%未満					
4 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが70%以上	3	88%の生徒が部活動に参加。活動内容の充実を図る。		B	・部活動ガイドラインに沿った指導計画の下、活動内容の充実を図る。
3 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが50%以上					
2 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%以上					
1 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%未満					
4 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが70%以上	-	残念ながら今年は地域学習に留まり、地域行事には関わられなかった。	進路指導等に関わる保護者からの肯定的評価は6割程度であり、次年度は一層の情報発信等を工夫していく。	C	・体験的な活動の意義を明確にし、発達段階に応じた指導を実践する。
3 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが60%以上					
2 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが50%以上					
1 地域での行事は大切に意義のあることだと思うとの答えが50%未満					
4 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが70%以上	3	75%以上の生徒が自分の将来について考えている。一層の進路指導の充実を図る。		C	・次年度から導入の「キャリアパスポート」の活用を図るキャリア教育の充実を図る。
3 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが60%以上					
2 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%以上					
1 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%未満					
4 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが70%以上	3	進路保護者会などより一層保護者との連携による進路指導を行っていく。		C	保護者会、面談等を活用し進路情報の適切な提供に努める。
3 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが60%以上					
2 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%以上					
1 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%未満					

学校教育目標	勉学 よく考え正しく判断できる生徒 敬愛 人を尊敬し愛といつくしみのある生徒 至誠 誠実で責任感の強い生徒 健康 健康で心身ともにたくましい生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な学習内容を定着させ、学力向上を図る。	特別支援教育の視点に立った分かりやすい授業を実践する。	授業の見通しをもたせる 既習事項の確認 振り返り学習	4 全教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した 3 90%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した 2 80%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した 1 80%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業の工夫・改善を実践した	4
		家庭学習を習慣化させ、学習内容の定着を図る。	学習の手引きの活用 クールノートの活用	4 全教員が家庭学習の支援を行った 3 90%以上の教員が家庭学習の支援を行った 2 80%以上の教員が家庭学習の支援を行った 1 80%未満の教員が家庭学習の支援を行った	3
豊かな心	人権尊重の精神に基づき、生徒の心の成長を促し、一人一人の変化に対応した行き届いた指導を展開する。	全教職員がいじめは絶対に許さないという考えの基、未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を図る。	人権意識の向上 いじめアンケート(年3回) いじめ対策委員会の活用	4 全教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った 3 90%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った 2 80%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った 1 80%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	4
		日常的に生徒が悩みを打ち明けやすい相談体制の充実。	生徒との人間関係の構築 相談部会(週1回) スタディサポート教室、学習支援教室との連携	4 全教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った 3 90%以上の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った 2 80%以上の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った 1 80%未満の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	4
健やかな体	生徒一人一人の体力の向上および健康の保持増進を図る。	規則正しい生活習慣を確立させ、健康の保持と体力の増進について考える態度を育てる。	基本的な生活習慣の確立 オリンピック・パラリンピック教育の推進	4 全教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している 3 90%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している 2 80%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している 1 80%未満の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	4
		保健体育、特別活動等の指導をととして、体力の向上および健康の保持増進を図る。	保健体育の授業の工夫改善 行事等の工夫 部活動の奨励	4 全教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った 3 90%以上の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った 2 80%以上の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った 1 80%未満の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	4
輝く未来	将来、生徒が自立できる基礎的な能力を身につけさせるため、キャリア教育を推進する。	地域や地域人材を活用した体験活動等を充実させ、自己発見および自分の生き方を考えさせる。	働く人の話を聞く会、職場体験、上級学校訪問等の充実	4 全教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った 3 90%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った 2 80%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った 1 80%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	3
		望ましい集団生活をととして、より良い生活や人間関係を築くため、自主的、実践的に取り組ませる。	学校行事、生徒会活動、学級活動等の充実	4 全教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った 3 90%以上の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った 2 80%以上の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った 1 80%未満の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った	3

年度末評価【総括表】

生徒が「通ってよかった」、保護者が「通わせてよかった」、教職員が「勤めてよかった」と実感できる学校。
 凡事徹底「はいじま」、当たり前前かがみのことが当たり前前かがみでできる生徒。
 すべての教育活動において、自他の生命尊重、人権尊重の心を育てることを基盤とした教育活動を実践する教師。

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	すべての生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答	3	学校の授業はとてもしっかりと回答した生徒の割合は、90%であった。	教員が授業を改善した結果が出ている。理解の不十分な生徒への対応を望む。	B	繰り返し学習による学習内容の定着。振り返りによる主体的に学習に取り組む態度の評価。
3	90%以上の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答					
2	80%以上の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答					
1	80%未満の生徒が先生は授業を分かりやすくするために工夫をしていると回答					
4	60%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答	4	1日平均1時間以上勉強していると回答した生徒の割合は、89%であった。	以前と比較して、家庭学習に取り組む生徒の割合が増加している。	B	自主学習ノートの継続活用。
3	50%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
2	40%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
1	40%未満の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
4	すべての生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答	3	楽しく学校生活を過ごしていると回答した生徒の割合は、91%であった。	いじめ等のない学校生活を過ごすことは重要である。多くの生徒が楽しい学校生活を送っていることは、大変うれしい。	B	QUテスト等を活用した生徒指導の充実。
3	90%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答					
2	80%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っている					
1	80%未満の生徒が学校生活が楽しいと思っている					
4	80%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答	2	困ったことがあったら、相談してみようと思う大人が2人以上いると回答した生徒の割合は、60%であった。	生徒の日常の様子は、教員が見ていても全ては把握できない。教員と生徒のさらなる信頼関係を望む。	C	全学年、年2回以上の三者面談の実施の継続。
3	70%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
2	60%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
1	60%未満の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
4	90%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答	2	学校で学んだ安全や健康についての知識を生活の中でよく生かしていると回答した生徒の割合は、78%であった。	安全や健康についての知識を生かしている生徒は、情報と行動が結びついているのだと思う。	B	新しい生活様式を取り入れた基本的な生活習慣の定着。
3	80%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答					
2	70%以上の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答					
1	70%未満の生徒が学校で安全や健康について学ぶことがあると回答					
4	90%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答	2	学校で、遊んだり体を動かしたりしていると回答した生徒の割合は、72%であった。	体育大会以降は、体力の維持・向上ができていたと思う。運動する機会の確保は大切なことである。	C	可能な範囲での効率的な運動機会の確保。
3	80%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
2	70%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
1	70%未満の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
4	全ての生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答	-	質問項目なし	職場体験が中止となったことは、大変残念である。	-	体験的行事以外でのキャリア教育の模索。
3	90%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
2	80%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
1	80%未満の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
4	全ての生徒が自分の将来について考えたことがあると回答	1	自分の将来について考えることがあると回答した生徒の割合は、79%であった。	想像以上に、中学生が自分の将来について考えていることに驚いた。	C	マイキャリアノートを活用した、より一層のキャリア教育の充実。
3	90%以上の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					
2	80%以上の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					
1	80%未満の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	～主体的に学習する生徒～ ～思いやりのある生徒～ ～共に心身をくたえる生徒～	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	朝総合の取組から落ち着いた一日のスタート	4 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した95%以上	4	
				3 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した90%以上		
			2 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した85%以上			
			1 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した85%未満			
			4 チェイム終了までに授業開始した90%以上			
			3 チェイム終了までに授業開始した80%以上			
		わかる授業からできる授業	生徒が見通しを持ち、一回の授業で学んだことが分かる授業の実践	4 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った90%以上	3	
				3 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った80%以上		
			2 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った70%以上			
			1 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った70%未満			
			生徒の「考え」「活動」「頑張り」を認め誉めること	4 90%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。		3
				3 80%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。		
2 70%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。						
1 70%未満の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。						
豊かな心	自立できる生徒	生徒指導の充実	教員・生徒ともに挨拶を主体的実践	4 挨拶の指導を積極的に行った90%以上	4	
				3 挨拶の指導を積極的に行った80%以上		
			2 挨拶の指導を積極的に行った60%以上			
			1 挨拶の指導を積極的に行った60%未満			
		清掃活動の活性化	4 清掃活動への取り組みを積極的に行った90%以上	4		
			3 清掃活動への取り組みを積極的に行った80%以上			
			2 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%以上			
			1 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%未満			
		中学生らしい身なりの定着	4 生徒への身なりの指導に積極的に関わった90%以上	3		
			3 生徒への身なりの指導に積極的に関わった80%以上			
			2 生徒への身なりの指導に気づいたときに関わった60%以上			
			1 生徒への身なりの指導に気づいたときに関わった60%未満			
特別活動の充実	自主的な活動の推進	4 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった95%以上	4			
		3 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった80%以上				
		2 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%以上				
		1 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%未満				
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒	日常の健康観察(アレルギー疾患の把握を含む)、個別の声掛け、保健室と・保護者との連携	4 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った95%以上	4	
				3 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った80%以上		
			2 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%以上			
			1 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%未満			
		防災意識の高い生徒の育成	避難訓練・防災訓練の工夫	4 防災意識を高める指導を積極的に行った90%以上	3	
				3 防災意識を高める指導を積極的に行った80%以上		
				2 防災意識を高める指導を積極的に行った60%以上		
				1 防災意識を高める指導を積極的に行った60%未満		
輝く未来	豊かな情操の育成	文化・芸術を継承・発展させようとする生徒の育成	修学旅行・合唱コンクール・舞台発表会の創造	4 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った90%以上	3	
				3 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った80%以上		
			2 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上			
			1 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%未満			
		将来の生き方を考えられる生徒の育成	職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生の話聞く会、集団討論の実践	4 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った90%以上	3	
				3 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った80%以上		
				2 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上		
				1 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%未満		

年度末評価【総括表】

1 安心して楽しく活動できる学校	2 生きる力を育む学校		
1 挨拶を大切に、夢と希望をもち、目標を追いかけていく生徒		2 主体的に考え行動できる生徒(自主自律)	
1 授業力・指導力・支援力の向上をあきらめない教師		2 生徒の自尊感情・自己有用感を育める教師	3 生徒・保護者・地域から信頼されるよう努力を惜しまない教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ90%以上	4	学校全体が静寂の中で、一人一人の生徒が朝総合に真剣に取り組んでいる。75%の生徒が5分前に朝総合に取り組んでいる。	A	朝総合開始5分前に、95%の生徒が朝総合に取り組めるようにするために、教員からの働きかけを丁寧に行う。	
3 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ80%以上					
2 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ70%以上					
1 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ70%未満					
4 90%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた	4	始業チャイム終了までに、授業を開始する意識が教員に定着したことで、おのずと生徒のチャイム着席は徹底した。また、中央委員会の活性化により生活委員会・学級委員会の呼びかけも充実してきた。	A	より生徒主体の呼びかけを増やしていくために中央委員会をさらに活性化していく。	
3 80%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
2 70%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
1 70%未満 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた					
4 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある80%以上	4	教員も授業改善に向け日々努力している。その成果が出てきている。	A	さらに授業改善に取り組むために校内研修の充実と主任教諭・主幹教諭によるOJTを充実させる。	
3 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある70%以上					
2 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある60%以上					
1 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある60%未満					
4 先生の授業は楽しい80%以上	3	教員も授業改善に向け日々努力している。その成果が出てきている。	B	OJTの充実を図る。	
3 先生の授業は楽しい70%以上					
2 先生の授業は楽しい60%以上					
1 先生の授業は楽しい60%未満					
4 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。	4	自ら挨拶を進んでする生徒が増えてはきた。しかし、挨拶をほとんどしない生徒・挨拶をするのを忘れていた時のある生徒が約1割程度存在する。	A	教職員のさらなる意識改革都中央委員会の活性化による「挨拶あふれる学校作り」を推進する。	
3 挨拶をされた時には、ほぼ返事している。					
2 挨拶をするのを、忘れてしまう時がある。					
1 挨拶を、ほとんどしない。					
4 清掃活動を、学期を通してきちんと行った90%以上	4	学校全体としては清掃が行き届いている。しかし、取組が甘い清掃場所が時々ある。	A	中央委員会を活性化し、「きれいな学校作り」を推進する。	
3 清掃活動を、学期を通してきちんと行った80%以上					
2 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%以上					
1 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%未満					
4 頭髪・身だしなみなどが、学期を通してほぼ毎日守れた。	4	頭髪・身なりの指導は、保護者の協力を得て、全員が中学生らしい身なりを心がけるようになった。	A	引き続き、保護者と丁寧連携を取り、協力を得ながら中学生らしい身なりを定着していく。	
3 頭髪・身だしなみなどが、学期を通しておおむね守れた。					
2 頭髪・身だしなみなどが、学期を通して守れないことが半分くらいあった。					
1 頭髪・身だしなみなどが、学期を通してほとんど守れなかった。					
4 行事・委員会・係活動などに、自ら進んで積極的に参加できた。	4	中央委員会・部長会の活性化が今年度の大きな成果である。中央委員会では、委員会が連携して「いい学校作り」に取り組みだし、議論も充実してきた。部長会では、目標を持って活動し各部活同士が刺激し合っている。	A	中央委員会の機能をさらに高めるために、組織を見直していく中で、さらなる充実を図る。	
3 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少なかった。					
2 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少しあった。					
1 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることがたびたびあった。					
4 90%以上日々の健康管理ができた	3	学校全体で、新型コロナウイルス感染症防止に向けて取り組めたことが、感染症予防や健康に対する意識の高揚につながった。	A	引き続き、新型コロナウイルス感染症防止に向けて、組織として共通理解と共通実践を図る。	
3 80%以上日々の健康管理ができた					
2 60%以上日々の健康管理ができた					
1 60%未満日々の健康管理ができた					
4 避難訓練の始まりから終わりまで90%以上は真剣に行えた	4	生徒・教員に非通知の避難訓練でも着実に行動が取れるなど、生徒の防災意識は着実に高まってきた。さらに、教員の防災意識を高めることで、防災意識の高い生徒の育成に繋がられる。	A	さらに、難度を上げた訓練を実施し、防災意識を高めていく。	
3 避難訓練の始まりから終わりまで80%以上は真剣に行えた					
2 避難訓練の始まりから終わりまで60%以上は真剣に行えた					
1 避難訓練の始まりから終わりまで60%未満は真剣に行えた					
4 修学旅行・合唱コンクール・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	3	人の痛みがわかる生徒の育成にむけ道徳・学級活動を通して実践した。	A	今年度実施できなかったため、昨年度の反省を踏まえつつ、感染症防止に努めた行事の実施を図る。	
3 修学旅行・合唱コンクール・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒80%以上					
2 修学旅行・合唱コンクール・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒60%以上					
1 修学旅行・合唱コンクール・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒60%未満					
4 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	3	集団討論は都立推薦入試で扱われないことから、本校でも取組を中止し、その他の内容について総合的な学習の時間において着実に実践できた。	A	カリキュラムマネジメントによる「将来の生き方を感上げられる生徒の育成」を徹底する。	
3 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒80%以上					
2 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%以上					
1 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%未満					

第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見

齋藤久未

(株式会社ジェイコム東京 多摩局
地域プロデューサー)

令和2年度は、当初の計画では第2次昭島市教育振興基本計画の最終年度にあたりますが、その施策や事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな環境への対応が求められる中で進められてきました。第2次昭島市教育振興基本計画が令和3年度まで延伸されることが決まったことを踏まえ、ここでは、主要施策についての意見をまとめました。

プラン1 確かな学力の定着

令和2年度は全国学力・学習状況調査が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になったことから、前年度からの変化を具体的な数字で確認することができませんが、全国や東京都の平均正答率との比較で低い傾向がみられることに対して行っている教員の授業力向上や児童生徒への問題集配布等の施策を継続し、改善することを期待しております。前年度は特に算数、数学が国平均より低い傾向がありましたので、全小中学校に配置したスクール・サポート・スタッフに事務業務を分担することで、教員が一人一人の子ども達に向き合える時間を創出し、個々に適した学習アドバイスを行うほか、学習意欲を高める授業の実施に向けた取り組みの推進を望みます。また、読書活動の推進と言語能力の育成について、学校図書館支援員の配置日数の維持や拡充は財源の確保が課題とのことですが、専門知識を持つ人材によるサポートにより子ども達が読書に関心を寄せることも少なくないと考えます。限られた財源の中でもよりよい成果を得られるような施策の検討を望みます。

プラン2 豊かな心の醸成

コロナ禍で子ども達の体験活動の実施が難しい中、移動教室や修学旅行の代わりに市内の宿泊施設を活用しテーブルマナー講座や昭島市の魅力を再発見する活動が行われ、その後、子ども達から市へお礼の手紙等が寄せられたと聞き、情操教育のひとつとして良い施策だったと感じました。新しい環境に応じた施策が都度必要になる可能性があります、こうした臨機応変な対応を期待いたします。

また、「いじめ」問題への対応では保護者向けの啓発資料「わが子を守る」を作成したとのことですが、配布にとどまらず活用を促すような施策を行うとともに、ポ

スターの掲示による啓発や状況把握のための定期的なアンケートの継続を望みます。

プラン3 健やかな体の育成

延期を受けオリンピック・パラリンピック教育は停滞したとありましたが、令和3年度に開催された大会を映像で観戦する際には令和2年度に35時間をあて学習した基礎知識が役立ち関心が高まった子ども達も多く出てくることが考えられます。昭島市には今大会に出場したゆかりのオリンピックもおられるので、子ども達の関心を高め体力づくりや次につながる教育施策を期待いたします。

プラン4 輝く未来に向かって

eライブラリ事業はコロナ禍もあり普及が進んだと想定していましたが、利用頻度に個人差があるということなので、活用推進に向けた施策をあらためて検討されることを希望します。また、インターネットの活用に際しては、情報教育の推進が欠かせないことから、あわせて取り組んでいかれることを期待いたします。

プラン5 生涯学習の推進

コロナ禍において、市民文化祭の中止をはじめ、文化芸術、スポーツの活動は制限が多く難しい一年だったと感じています。そうした中でオープンした「教育福祉総合センター アキシマエンス」は、ICTを活用した郷土資料室、図書館のみならず、複合的に地域の課題を解決する拠点になっていくことを期待いたします。

新型コロナウイルス感染症の影響により、現行の計画を1年間延伸して、施策・事業が展開されました。令和2年度は所謂足踏み状態であったものの、『昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書』を拝見しますと、各事業ともに次期計画につながられるよう継続・発展的に取り組まれていることが分かりました。令和2年度は教育行政に限らず、様々な事柄において厳しい状況の中での対応を余儀なくされた1年でした。そのことを踏まえ、令和2年度の主要施策について意見を述べます。

1 プラン1「確かな学力の定着」

主要施策「1 学習指導要領の確実な定着」を図るため、施策の1-(4)中学校の教科用図書の採択が行われました。このことにより、令和3年度から全面実施される中学校学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が望まれます。一方、1年早く教科用図書を採択し授業改善に取り組まれた小学校においては、新型コロナウイルス感染症の影響からご苦労があったことと推察されます。なお、この求められる授業改善については、学校教育部が「確かな学力の定着」の【主な課題】として挙げている「教員の研修について」からも、最優先の課題であることが伺えます。また、同項に記載されている具体的な改善点には、「指導と評価の一体化」や「タブレット型パソコンの活用」などが挙げられており、このことを織り込んだ今後の小・中学校の授業改善が期待されるところです。

施策の1-(5)「子どもと触れ合う時間の確保」については、前年度から継続した取組であることからその成果が問われるところです。なお、このことは、【主な課題】として挙げている「学校の働き方改革」にもつながる施策ですから、今後このスクール・サポート・スタッフの活用における課題を明らかにし、改善することで働き方改革につなげていただきたいと思います。

主要施策「4個に応じた支援の充実」の施策4-(1)「推進体制の整備」では、「さくら学級」「清泉学級」において、指導課と学校が連携して、児童・生徒一人一人の実態に応じた指導を目指して授業改善を進められたことが評価されます。なお、この項の【主な課題】に記載されているように、特別支援教育に関する教員の専門性の向上については、継続した課題ですので、今後の取組の充実を期待します。

施策の4-(2)「適応指導教室の指導体制と指導内容の充実」において、適応指導教室の名称を「教育支援室」に変更したことにより、今後課題として捉えている関係機関との適切な連携のきっかけとなることが期待できます。また、家庭状況の複雑化や多様化に対応するため、各機関がもつ情報を共有しながら不登校の未然防止に取り組んでいただきたいと思います。

2 プラン2「豊かな心の醸成」

主要施策「3 体験活動の充実」の施策3「小学校での移動教室の実施」及び「中学校

での移動教室・修学旅行の実施」に係る代替活動は、「新しい生活様式」における学習内容・活動として質的発想から計画されものであり、評価されるところです。引き続き、小・中学校と連携して体験活動の充実を図っていただくことを期待しています。

主要施策「4 いじめ問題への対応」の施策4「いじめ問題防止会議等の開催」において、具体的な方策として「我が子を守る」を作成し、各学校へ配布されたように、この問題は継続して取り組んでいかなければなりません。したがって、配布された資料の活用が今後の課題です。また、同施策の4「いじめ防止等に関する教育委員会の具体的な取組の実施」についても同様です。見直された条例を基に、引き続き“社会全体でいじめを許さない”という雰囲気醸成する具体的な方策の検討を望みます。

3 プラン3「健やかな体の育成」

主要施策「1 体力向上の推進」の施策1-1「体育・保健体育の授業の充実」については、児童・生徒が「元気アップガイドブック」を日常的に活用することで、運動・スポーツ及び体力についての意欲・関心をも高められることを期待します。

主要施策「2 学校給食・食育の充実」の施策2-1「学校給食運営基本計画の策定及び実施」については、様々なご苦勞がある中、「基本計画（改訂版）」の策定や、具体的な手続きなど、計画的に進められていることが伺えます。引き続き安全・安心でおいしい（地場食材を積極的に取り入れた）給食が提供できるようお願いします。

4 プラン4「輝く未来に向かって」

主要施策「1 幼・保・小・中が連携した教育の充実」の施策1「幼・保・小連携推進委員会の開催」において作成された「昭島市版スタートカリキュラム スタートブック」の各小学校での活用が期待されます。また、併せて課題としておられる小中一貫の視点による教育活動の充実を期待します。なお、このことは主要施策「9 キャリア教育の推進」の施策9「キャリア教育推進委員会の活用」を通じて作成された『昭島市版 キャリアアルバム』にも関連することで、この活用を糸口にした小学校と中学校の連携・協力を望みます。

5 プラン5「生涯学習の推進」

新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じたうえで、可能な事業等の実施またはオンラインによる会議等を開催されたことは、生涯学習を推進することに他ならないことであり、市民にとって厳しい生活が余儀なくされた中、昭島市生涯学習推進計画に掲げる基本理念、基本目標に迫る事業執行であったと感じました。その主要施策として推進された、施策2-1「中央図書館の整備」における市立会館の1室を利用した臨時窓口を開設。施策4-3「運動施設の整備」における駐車場の整備。施策5-1「郷土資料室の展示」における郷土資料室の開設などのように、市民が自由に学ぶことができる環境を整え、豊かな人生をおくることのできるよう、今後さらに具体的な事業の展開を望みます。